

第2回 金沢港将来ビジョン検討委員会



令和5年10月31日 石川県 1

第1章 金沢港将来ビジョンの目的と検討委員会の進め方

第2章 ニーズ調査

第3章 現状及びニーズ調査等を踏まえた課題

第4章 目指すべき将来像と重点戦略及び施策

第5章 空間利用計画（ゾーニング）

（参考1） 第1回委員会 各委員の主な意見と対応

（参考2） ニーズ調査結果

第1章 金沢港将来ビジョンの目的と検討委員会の進め方

第2章 ニーズ調査

第3章 現状及びニーズ調査等を踏まえた課題

第4章 目指すべき将来像と重点戦略及び施策

第5章 空間利用計画（ゾーニング）

（参考1） 第1回委員会 各委員の主な意見と対応

（参考2） ニーズ調査結果

金沢港将来ビジョン策定の目的

1. 金沢港は、平成14年策定の港湾計画に基づき、ハード整備やソフト施策に取り組むことにより、貨物・クルーズ・賑わいの拠点として大きな変貌を遂げてきた。
2. 一方、将来を見据えると、コンテナ船の大型化や脱炭素化の促進など、金沢港を取り巻く環境の変化が見込まれている。
3. これらの変化に対応するため、長期的視点に立った港の目指すべき姿を描く「金沢港将来ビジョン」を策定するとともに、来年度からは、ビジョンを具体化するため、港湾計画の改訂に取り組んでいく。

R5年度

	将来ビジョン
内 容	長期的な視点における目指すべき将来像 ・基本理念(目標)、港湾空間のあり方(ゾーニング)
目標年次	20年～30年後

ビジョンを具体化

R6年度

港湾計画
将来ビジョン実現に向けた具体の計画 ・港湾施設の規模、配置、港湾の土地利用計画
10年～15年後

検討委員会のスケジュール

R5.4～6

R5.7～9

R5.10～12

R6.1～3

R6年度

4/28
(金)

5月下～
8月中

8/31
(木)

10/16
(月)

10/31
(火)

11月～
12月

1月頃

2月頃

第1回 検討委員会

現状・課題の認識、
目指すべき方向性、
などについて議論

アンケート調査
(県民等)
ヒアリング調査
(企業・関係団体)

素案作成

第2回 幹事会

素案作成

第3回 幹事会

第2回 検討委員会

将来像、基本方針、
空間利用計画
(ゾーニング)
などについて議論

地方港湾審議会
(報告)

パブリックコメント
(4週間程度)

第4回 幹事会

第3回 検討委員会

パブコメを踏まえた
最終案について議論

港湾計画改訂作業

<議題>

- ・金沢港の現状と課題
- ・今後の予定
- ・委員会設置要綱

<議題> (中間報告)

- ・ニーズ調査の結果
- ・ニーズ調査を踏まえた
課題整理
- ・基本方針と施策の
方向性の確認

<議題>

- ・ニーズ調査結果
- ・目指すべき将来像と
重点戦略及び施策
- ・空間利用計画
(ゾーニング)

<議題>

- ・パブリックコメント結果
- ・第2回の主要な意見と対応
- ・最終案の提示

第1章 金沢港将来ビジョンの目的と検討委員会の進め方

第2章 ニーズ調査

第3章 現状及びニーズ調査等を踏まえた課題

第4章 目指すべき将来像と重点戦略及び施策

第5章 空間利用計画（ゾーニング）

（参考1） 第1回委員会 各委員の主な意見と対応

（参考2） ニーズ調査結果

ニーズ調査

<企業・関係団体へのヒアリング等調査>

ヒアリング先：金沢港を利用している荷主企業（20社）

金沢港の利用が今後期待できる荷主企業（11社）

船会社（8社）、荷役会社（1社）、エネルギー関連企業（2社）

地元まちづくり団体、経済団体、関係協議会などを対象

<県民アンケート調査>

調査時期：令和5年5月30日～7月2日

調査方法：WEBアンケート、現地アンケート

調査対象：石川県LINE登録者、県政モニター、金沢港内の来訪者、地元町会、地元高校等

回収数：3,587件（男性52%、女性47%、不明1%）

<クルーズ船乗船客アンケート調査>

調査時期：令和5年9月13日～10月4日

調査方法：現地アンケート

調査対象：クルーズ船乗船客

回収数：203件

第1章 金沢港将来ビジョンの目的と検討委員会の進め方

第2章 ニーズ調査

第3章 現状及びニーズ調査等を踏まえた課題

第4章 目指すべき将来像と重点戦略及び施策

第5章 空間利用計画（ゾーニング）

（参考1） 第1回委員会 各委員の主な意見と対応

（参考2） ニーズ調査結果

現状及びニーズ調査等を踏まえた課題

物流

- ① コンテナ船の大型化への対応
- ② 効率的な物流拠点形成に向けたふ頭再編
- ③ 港湾労働者の確保
- ④ 既存航路の増便や更なる方面の拡充
- ⑤ 県内企業の金沢港利用率向上

クルーズ・賑わい

- ⑥ クルーズ船の安定的な寄港と受入体制の充実
- ⑦ クルーズターミナルを核とした更なる賑わいの創出
- ⑧ 周辺地域・交流施設との連携強化
- ⑨ 水産業との連携強化

レクリエーション・緑・景観

- ⑩ みなとを活用した憩い空間の向上
- ⑪ 良好な港景観の形成

カーボンニュートラル

- ⑫ 次世代エネルギーの受入・供給拠点への転換
- ⑬ 再生可能エネルギーの活用促進
- ⑭ 港湾施設や荷役機械の脱炭素化
- ⑮ 物流における脱炭素化

安全・安心

- ⑯ 大規模災害における防災力向上
- ⑰ 港湾施設の老朽化対策
- ⑱ 港内の水深確保と土砂流入抑制

物流に関する課題

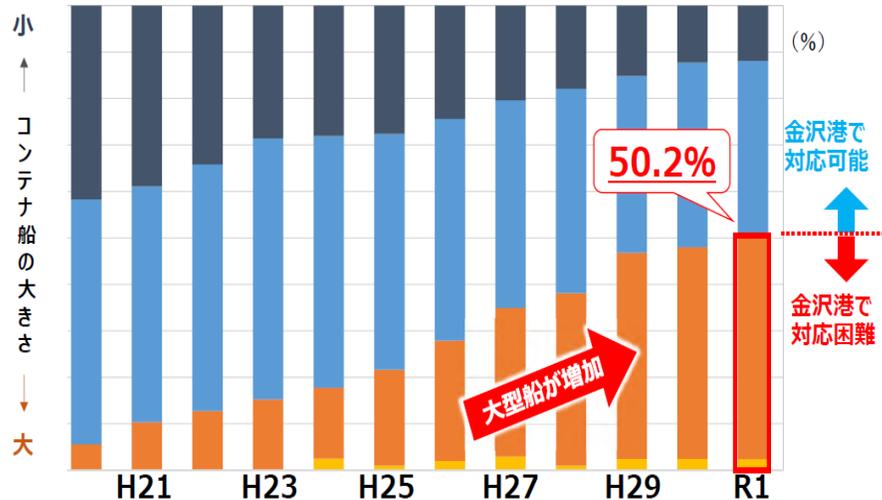
課題

① コンテナ船の大型化への対応（地域間競争に負けない港づくり）

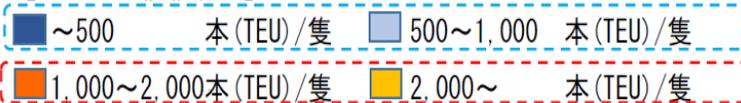
- ✓ 日本に寄港している韓国・中国航路のコンテナ船は年々大型化が進んでいる。
- ✓ 金沢港は他港に比べ、岸壁水深が浅く、大型コンテナ船に対応できていない。

<コンテナ船の大型化>

日本に寄港している韓国・中国航路のコンテナ船の動向

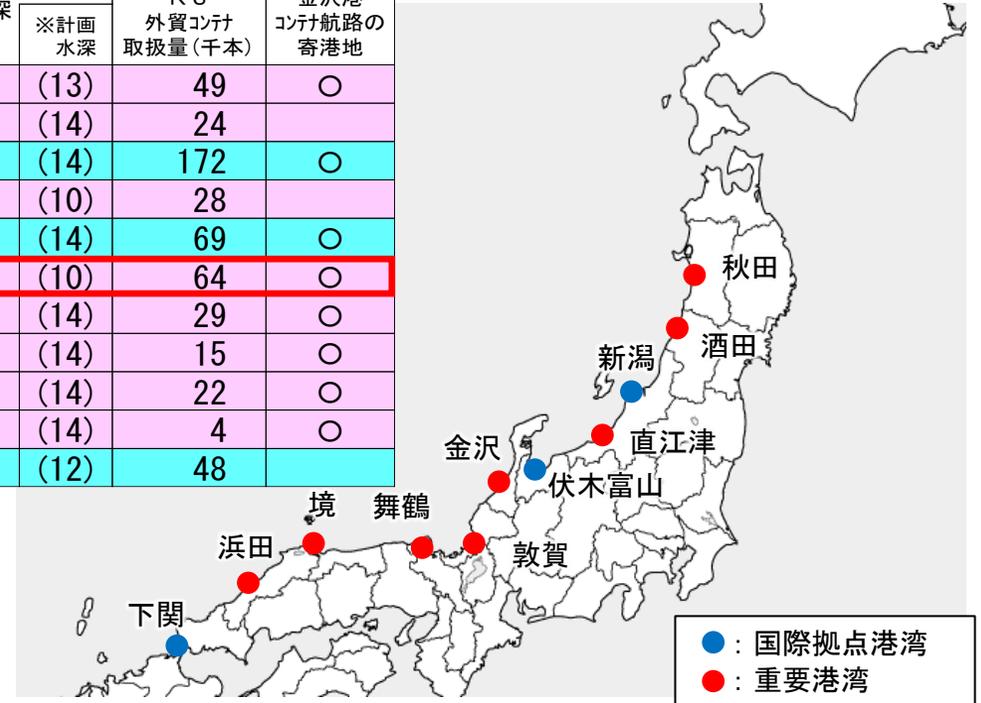


【コンテナ積載能力】



<金沢港におけるコンテナ岸壁の水深が不足>

港名	岸壁水深 (m)	※計画水深	R3 外貨コンテナ取扱量(千本)	金沢港コンテナ航路の寄港地
秋田	13	(13)	49	○
酒田	14	(14)	24	
新潟	12	(14)	172	○
直江津	10	(10)	28	
伏木富山	12	(14)	69	○
金沢	10	(10)	64	○
敦賀	14	(14)	29	○
舞鶴	14	(14)	15	○
境	14	(14)	22	○
浜田	12	(14)	4	○
下関	12	(12)	48	



現状

船会社



今後、大型コンテナ船への変更の可能性があるため、**対応できる岸壁が必要**

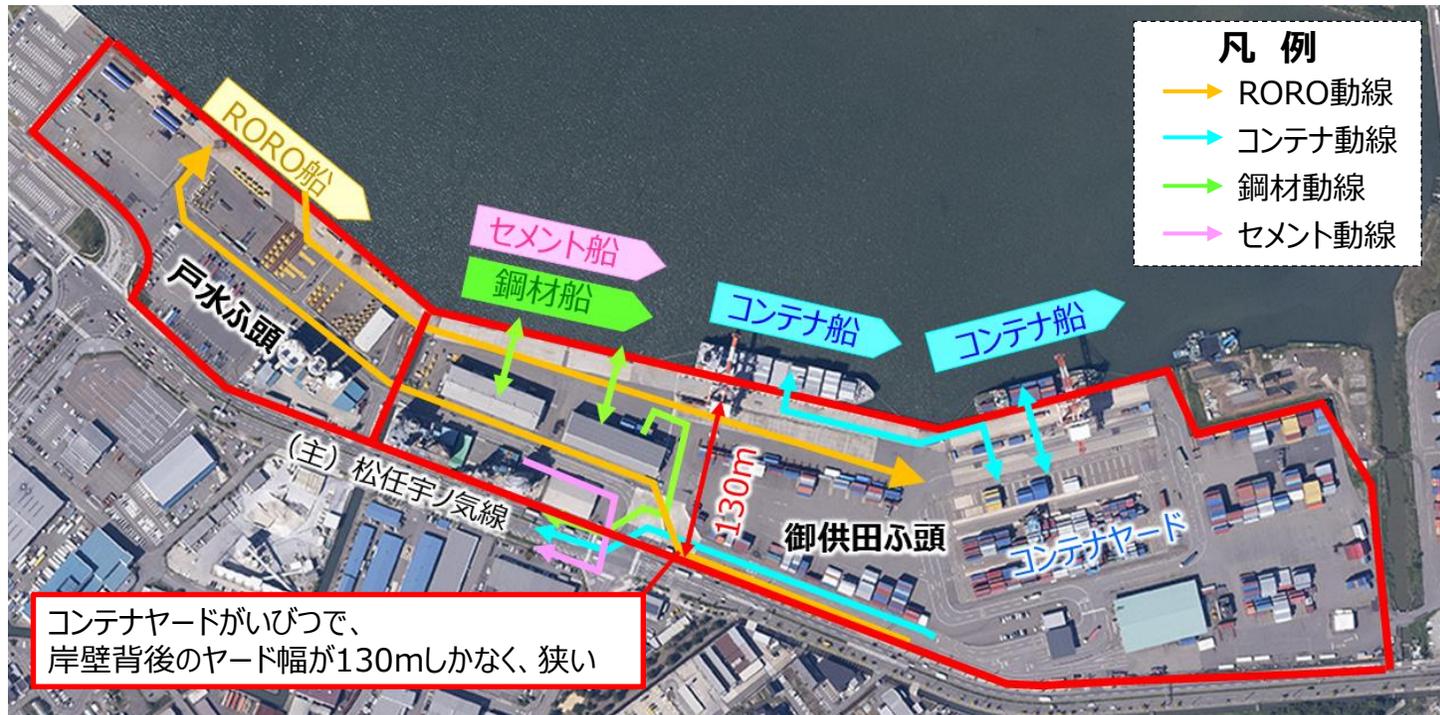
物流に関する課題

課題

② 効率的な物流拠点形成に向けたふ頭再編

- ✓ コンテナヤードが狭く、不整形であり、また、貨物動線が輻輳するため、作業効率が悪い。
- ✓ コンテナ、セメント、鋼材船が混在し、荷卸しに調整を要するなど、作業効率が悪い。

<貨物動線の輻輳・作業効率の悪化>



鋼材船と鋼材荷役クレーン



鋼材船とセメント船の入港調整がとれず、バッティング。

御供田ふ頭に配置している鋼材荷役クレーンをやむをえず戸水ふ頭に移し、**荷卸しが非効率となっている。**

現状

<改善を求める利用者の声>

荷役会社



コンテナヤードがいびつで狭いため、効率が悪い。今後の増加する貨物に対応できない。

セメント船と鋼材船は同じ岸壁を使用しており、輻輳した場合は、荷役作業に支障が生じている。

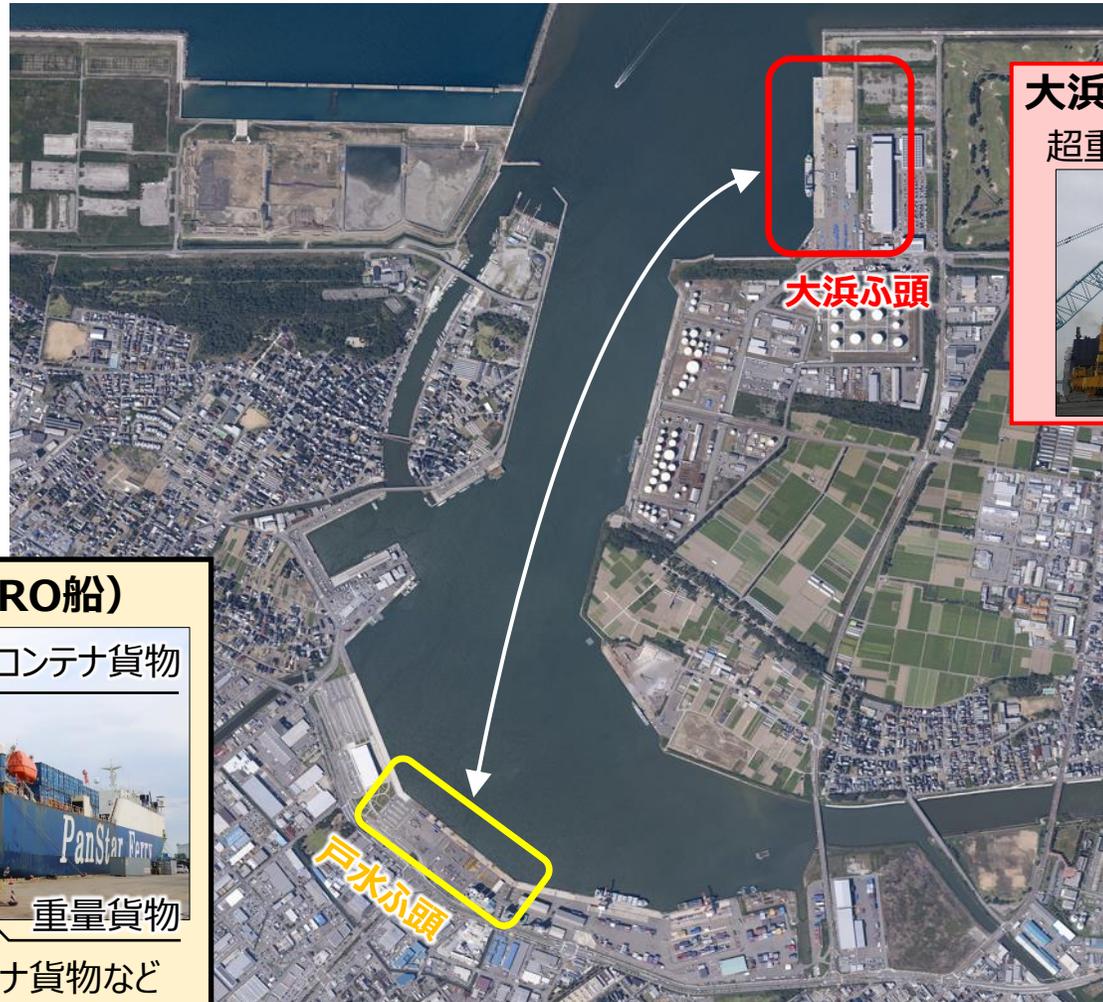
物流に関する課題

課題

② 効率的な物流拠点形成に向けたふ頭再編

✓ RORO船の貨物が**大浜**、**戸水ふ頭**の2箇所に在ることから、着岸作業が2回発生する。

現状



大浜ふ頭 (RORO船)

超重量貨物



戸水ふ頭 (RORO船)

コンテナ貨物



重量貨物

重量貨物、コンテナ貨物など
外貿貨物全般を取り扱う。

船会社

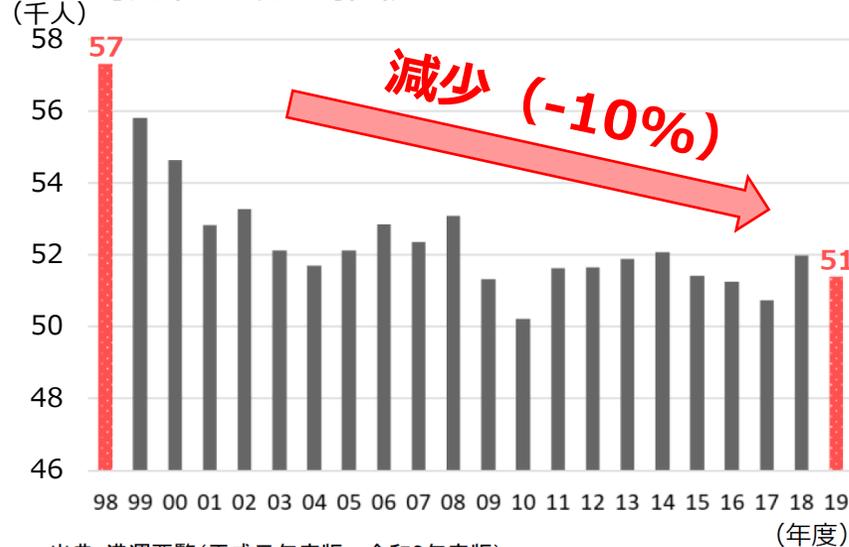


大浜と戸水の両方で荷積作業を行う
ことがあるので、貨物を集約すれば効率的
になる。

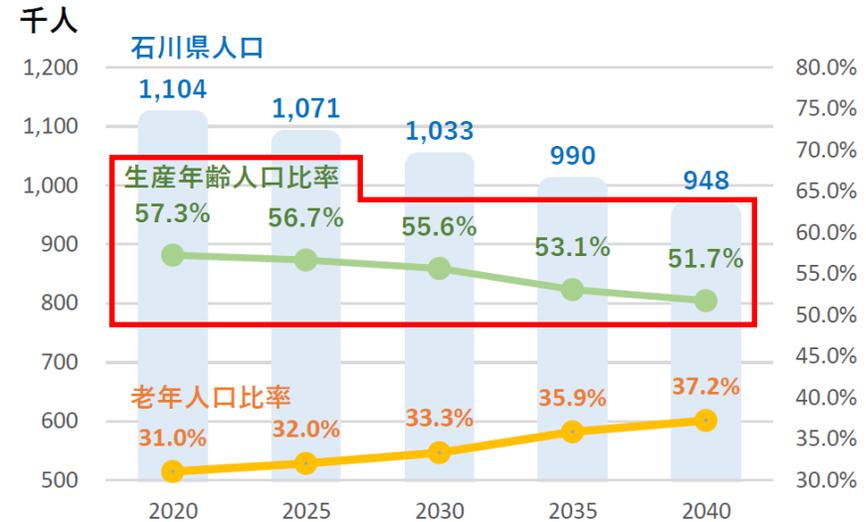
③ 港湾労働者の確保

- ✓ 港湾労働者が減少しており、「船舶集中時や休日などの船舶荷役」が困難になっている。
- ✓ 今後、生産年齢人口の減少が予想され、労働力不足が懸念される。

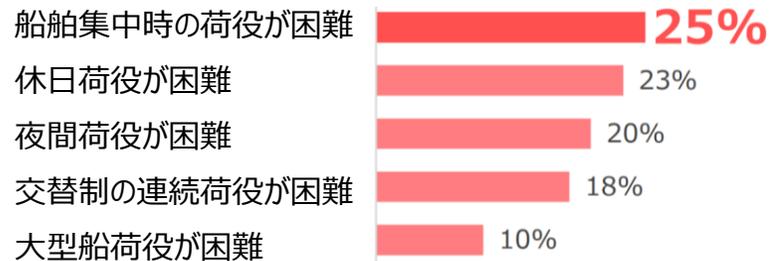
＜港湾労働者数の推移＞



＜将来の人口減少と労働力不足＞



＜港湾運送への具体的な影響＞



資料) 港湾労働者不足対策アクションプラン 国土交通省

＜金沢港の現状＞

荷役会社



作業員不足が原因で、荷主や船会社の要望に応じることが困難になっている。

物流に関する課題

課題

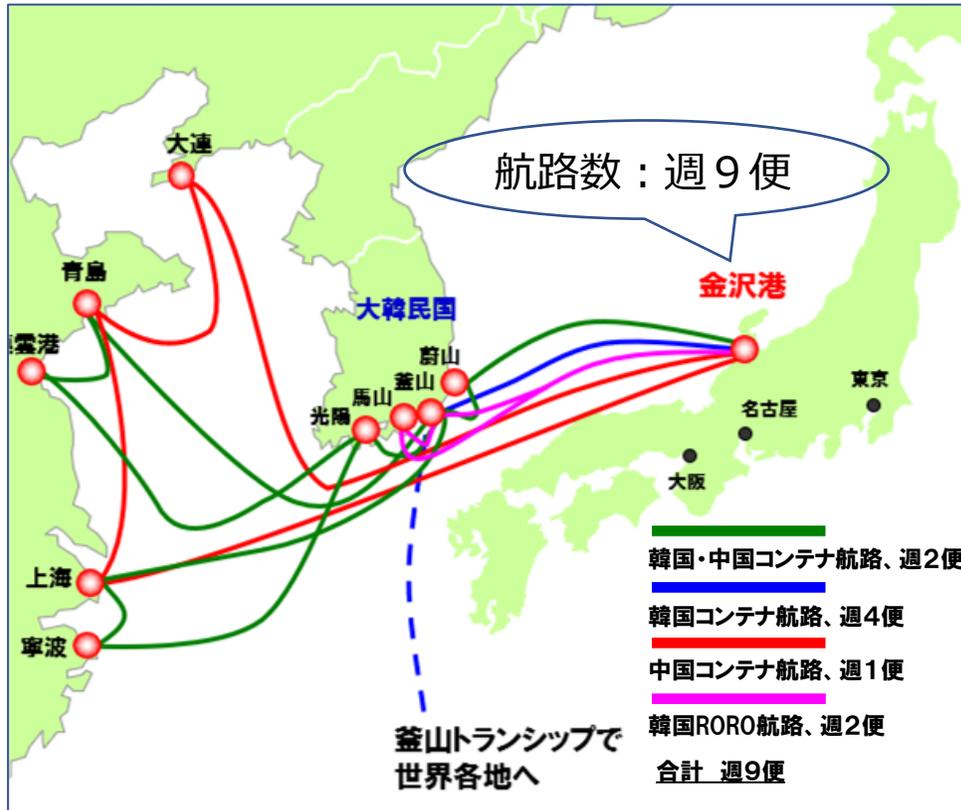
④ 既存航路の増便や更なる方面の拡充

現状

荷主企業



現在週9便であり、中国方面などの既存航路を増便してほしい。



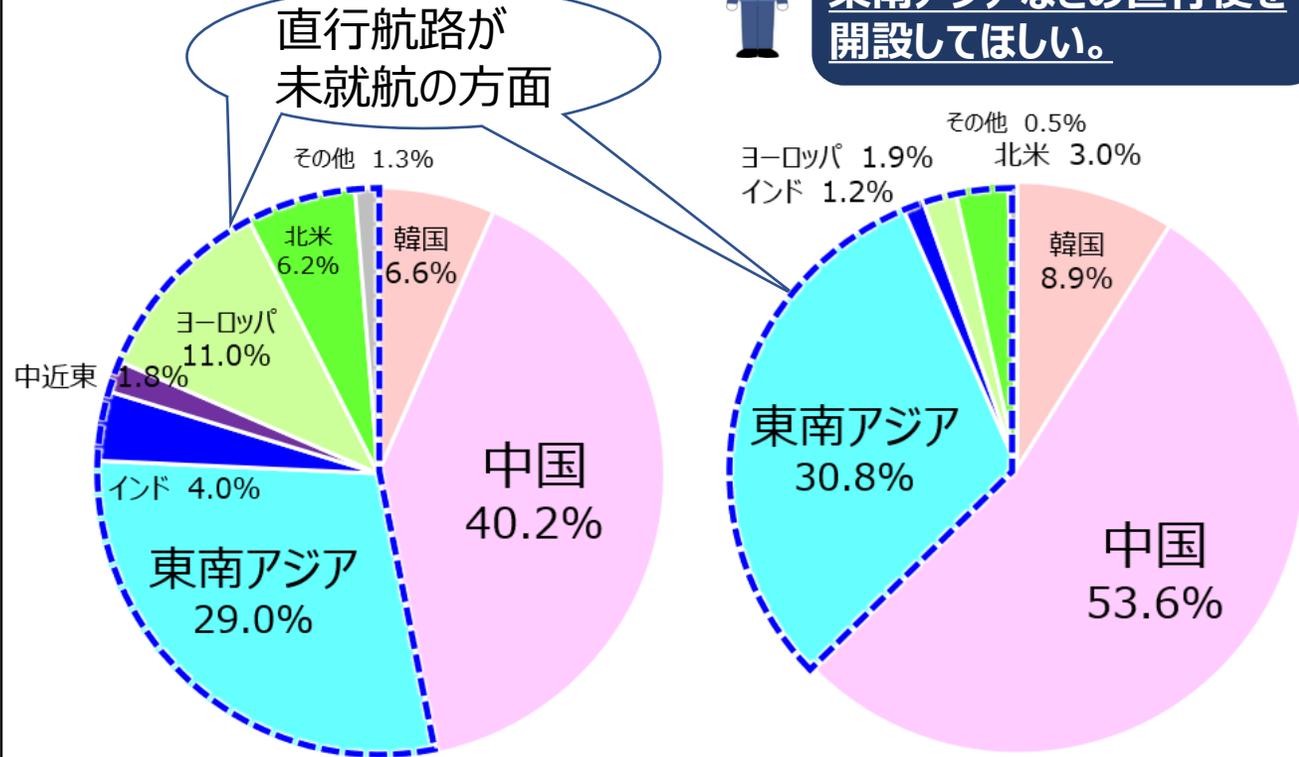
金沢港の国際定期航路

石川県生産・消費貨物方面内訳
(金沢港未利用貨物を含む)

荷主企業



主に韓国中国方面であり、東南アジアなどの直行便を開設してほしい。



石川県生産貨物
輸出仕向地内訳

石川県消費貨物
輸入仕出地内訳

物流に関する課題

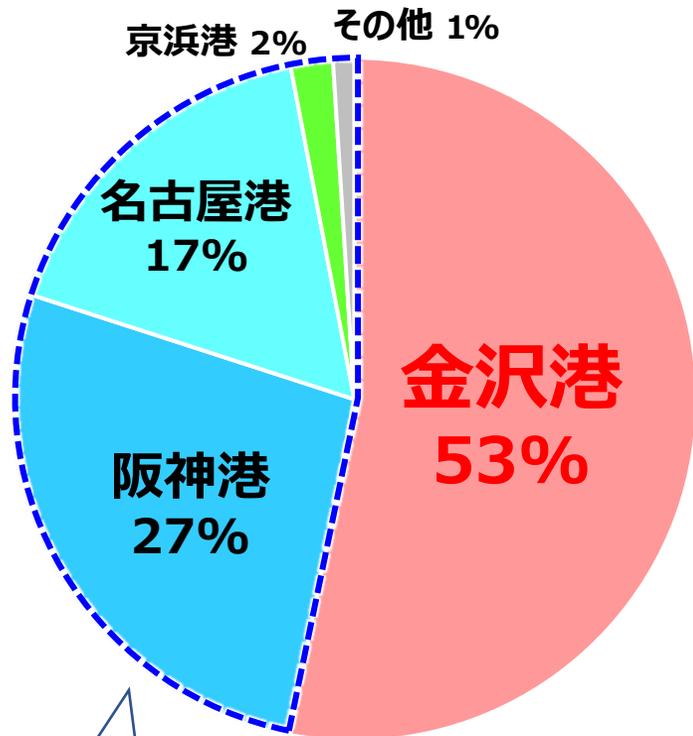
課題

⑤ 県内企業の金沢港利用率向上

- ✓ 県内企業の金沢港の利用率は輸出53%となっており、47%が他港を利用している。
- ✓ 金沢港のコンテナ貨物では、産業機械の利用率が高いが、繊維・食品の利用率は低い。

現状

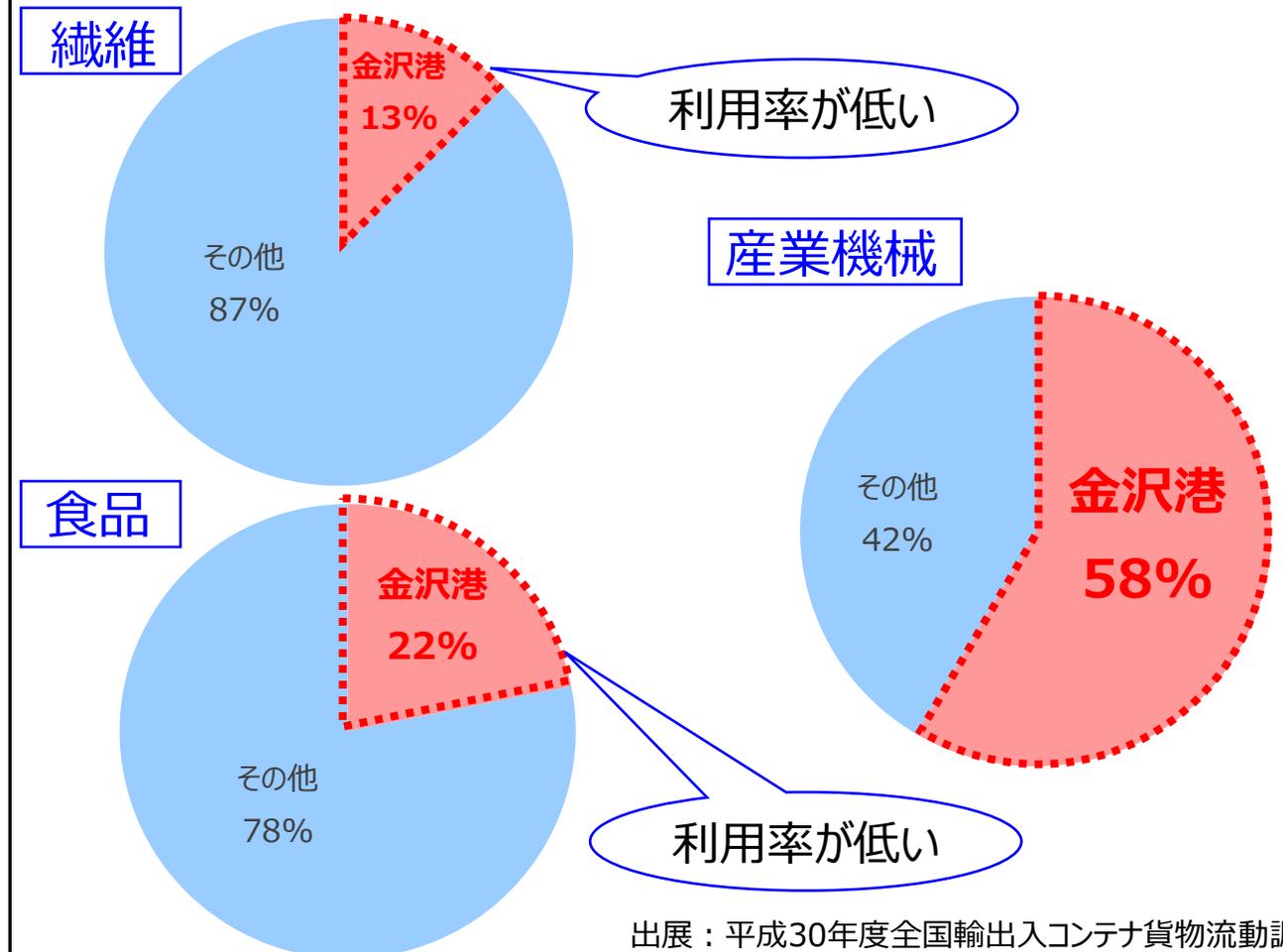
<金沢港利用率(石川県内企業：輸出)>



他港を利用

出展：平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査

<品目別金沢港利用率(石川県内企業：輸出)>



出展：平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査

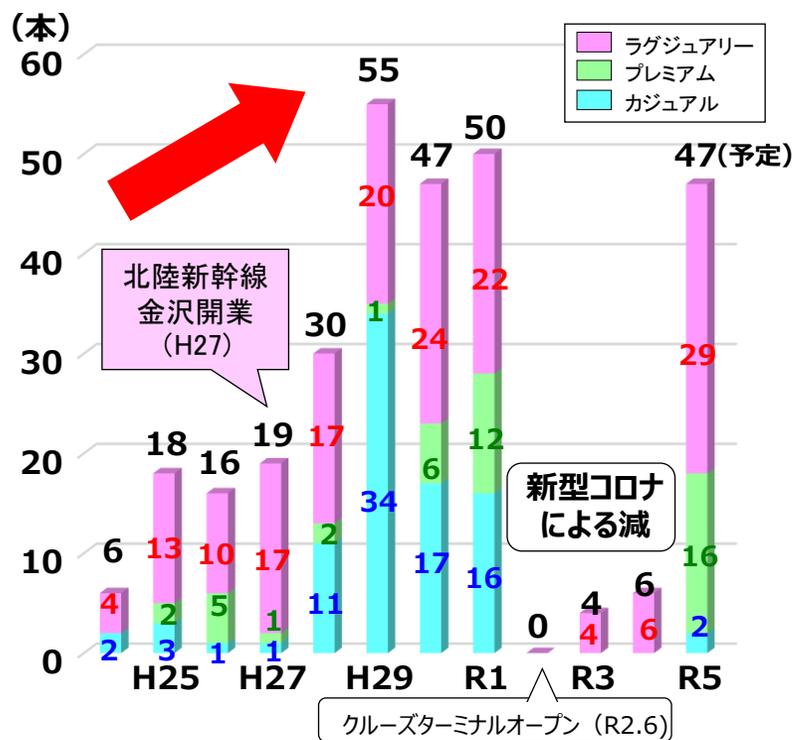
クルーズ・賑わいに関する課題

課題

⑥ クルーズ船の安定的な寄港と受入体制の充実

- ✓ 世界的な日本への旅行需要の高まりや、金沢港背後に欧米富裕層に好まれる観光コンテンツを有していることからクルーズ船の寄港が増加している。
- ✓ 国際クルーズの再開や北陸新幹線全線開業により、金沢港におけるクルーズ乗客数のさらなる増加が見込まれる。
- ✓ 今後、増加が予想されるクルーズ需要を金沢港へ取り込むことが重要

<金沢港に寄港するクルーズ船の増加>



<世界のクルーズ人口の増加>

外航クルーズの乗客数の見込み (百万人単位)



- 欧米クルーズ船社で新造船を建造予定
→ 2023~2028年の間に44隻新造、乗客定員121千人増 (CLIA「STATE OF THE CRUISE INDUSTRY2023」より)
※ 日本クルーズ船社でも2025年までに3隻増の予定
- 日本のクルーズ人口/人口比
外航・国内クルーズを利用する日本人乗客数 357千人(2019)、人口比 0.3%
※ 欧米豪では人口比: 3~5%
→ 業界では日本のクルーズ人口が、今後、10倍増となることが期待されている

現状

クルーズ・賑わいに関する課題

課題

⑦ クルーズターミナルを核とした更なる賑わいの創出

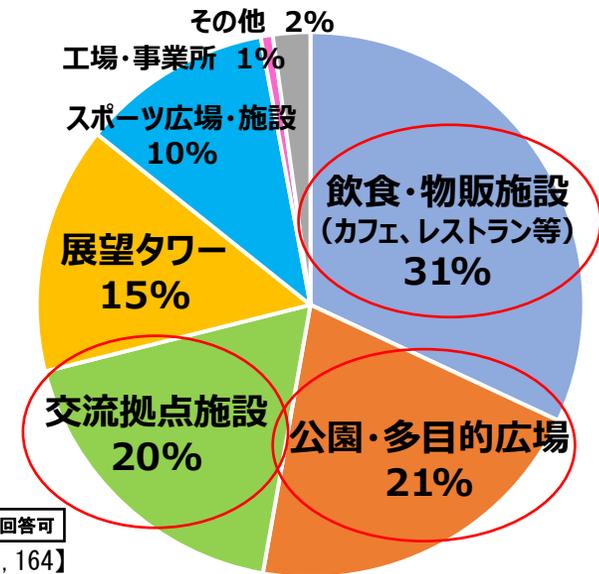
- ✓ クルーズターミナルでは、様々なイベント開催により、賑わいを見せており、楽しむ場所としての認知度は高まっている。
- ✓ 一方、周辺では事業所や未利用地が多く、賑わい施設が無いことから、更なる拡充を求めるニーズが高い。

<クルーズターミナルの集客力>

コロナ禍でクルーズ船の寄港が低迷の中、しいのき迎賓館やいしかわ動物園よりも早く入館者数200万人に到達。



<ターミナル周辺の利活用ニーズ>



<クルーズターミナル周辺の状況>



現状

20歳代
女性



海が見えるカフェ、子どもの遊べる場所、公園など若者が喜びそうな場所、沢山作ってほしいです！オシャレな空間、ゆったりできる空間、素敵な空間があったら、沢山人が来ると思います！

クルーズ・賑わいに関する課題

課題

⑧ 周辺地域・交流施設との連携強化①

- ✓ クルーズ乗船客のうち、6割以上が観光ツアーに参加しないフリープランの方であり、港周辺地域・交流施設との連携強化により、訪れたい環境の掘り起こしが求められている。
- ✓ ターミナル周辺は交流施設（いきいき魚市、大野からくり記念館等）とのアクセス環境が不十分。



<連携強化やアクセス改善を求める声>

40歳代
男性



クルーズターミナルと大野町とのアクセス道路を整備してほしい。歩道や横断歩道がなく移動に危険である。また道順も分かりにくく、改善できれば双方の賑わいに貢献できると思われる。

60歳代
女性



クルーズターミナルから歩きながらいきいき魚市、醤油蔵、からくりなど楽しめる一帯になれば良い。

<クルーズ乗船客の声>

40歳代
女性



金沢の有名観光地には既に行ったことがあるので、これまで行ったことのない観光地へ行ってみたい。金沢港周辺で温泉や観光できる所があれば、行ってみたい。

現状

クルーズ・賑わいに関する課題

課題

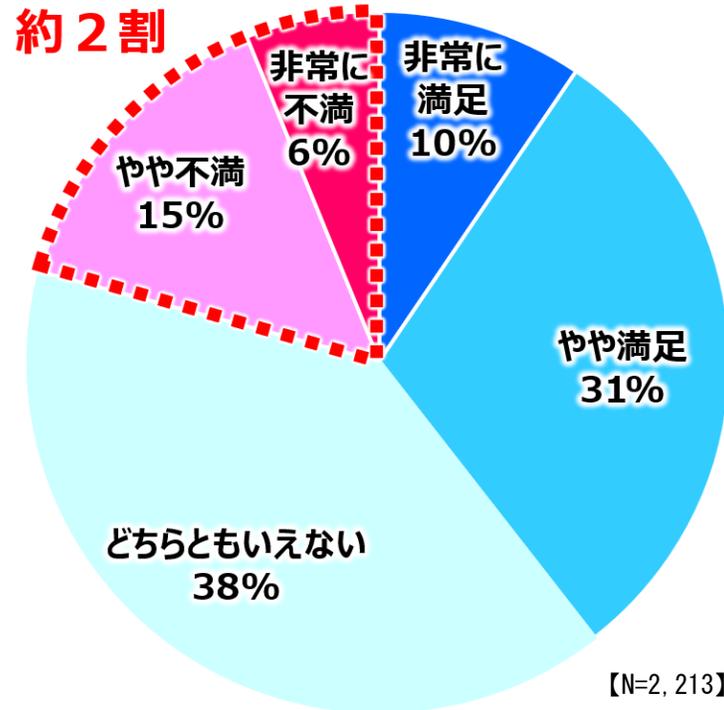
⑧ 周辺地域・交流施設との連携強化②

✓ 公共交通機関によるターミナルまでのアクセスが弱い。

＜ターミナルまでのアクセス＞

県民アンケートの結果、約2割がアクセスに不満

→うち約5割が路線バスの改善（増便等）を求めた。



60歳代
女性



19:00以降に路線バスがないので、夜間にクルーズ船が出るとき、不便を感じます。

40歳代
女性



金沢駅前から金沢港までかなり距離があるので、車がなくても便利に行ける交通手段を作ってほしいです。

(路線バス)

・平日は、駅から港へは16便、港から駅へは13便で運行

・休日は、駅から港へは9便、港から駅へは8便で運行

※金沢港発の終バスは19時10分発であり、ターミナル閉館時間よりも早い。



凡例
— 路線バス
○ まちのり

現状

クルーズ・賑わいに関する課題

課題

⑨ 水産業との連携強化

- ✓ 石川県には、ブリ・ズワイガニなど、優れた水産物が多いが、まだまだ認知度の向上が求められている。
- ✓ 水産物の飲食・物販機能の強化が必要。（水産ふ頭内にある施設の老朽化が見られる）
- ✓ いきいき魚市の駐車場や道案内が不足。

＜優れた品質を有した石川県ブランドの水産物＞



＜老朽化が進行している水産施設＞

かなざわ総合市場(S48建造)



令和7年度建替完成予定

いきいき魚市(H11建造)



現状

＜いきいき魚市駐車場とアクセスの現状＞



＜水産業振興に関する漁業関係者の声＞

石川県
漁協



集客のポイントは食だと考えている。加能ガニの『輝（かがやき）』、寒ブリの『煌（きらめき）』といったブランド力も高いことから、魅力を発信すれば集客は可能と考える。

港利用者



フィッシャーマンズワーフのような施設があれば、集客面にとって良いと思う。いきいき魚市も老朽化が進んでいるので、今後どのようにしていくか課題である。

いきいき魚市でイベントを実施しても、駐車場がなく渋滞が発生することがある。

レクリエーション・緑・景観に関する課題

課題

⑩ みなとを活用した憩い空間の向上①

- ✓ クルーズターミナル周辺では、港公園、大野地区では大野お台場公園が整備されているが、年数が経過しており、時代のニーズに合っていない。

現状



<金沢港に関する要望>

30歳代
女性



家族連れをターゲットに、公園・緑地の整備ができれば、より賑わいが創出されるかと思う。
広場だけではなく、水遊びできる空間や遊具・アスレチック・トランポリンなどがあると良い。

30歳代
女性



お台場公園の施設やトイレを綺麗にして、もっと子どもが遊びにいきたくするようにしてほしい。

レクリエーション・緑・景観に関する課題

課題

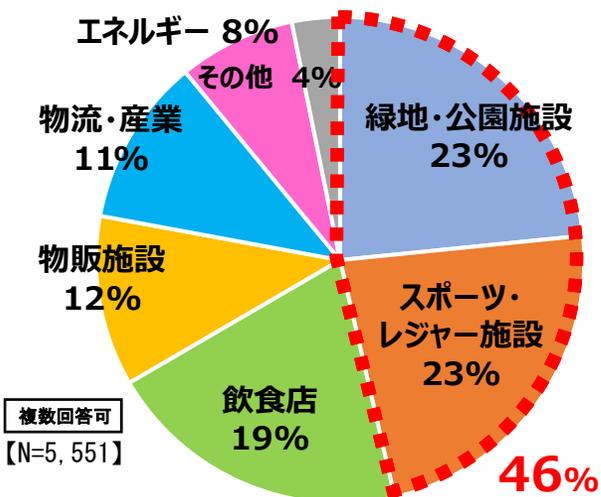
⑩ みなとを活用した憩い空間の向上②（金石大野埋立用地）

- ✓ 金石大野埋立用地について、約 5 割の方が「家族で楽しめる公園施設」や「スポーツ・レジャー施設」など、憩いの空間を求める声が多い。
- ✓ 地域住民からは、環境豊かに暮らせ、地域が発展していくために必要な空間づくりが求められている。



現状

＜金石大野埋立用地の利用方法＞



【金石大野埋立用地の県民ニーズ】

- ◆ 夕日や水平線を眺められる場所があると良い。
- ◆ 森林も近く海とも密接に繋がる環境があると良い、防砂フェンスが魅力を分断している。
- ◆ 家族連れが楽しめる施設や公園があったら良い。
- ◆ 海の広さを感じられるような公園に散歩ができるコースと休憩施設とカフェなどが設置されていると素敵。
- ◆ 太陽光、風力発電など次世代エネルギーの基地に活用すれば地域の活性化につながるのではないかな。
- ◆ 地区の発展のため、人口の増加も期待できる（居住地）、子供たちが来てくれる（楽しめる施設）、安らぎを与える空間（海辺・緑地）を次世代につなげていきたい。

レクリエーション・緑・景観に関する課題

課題

⑪ 良好な港景観の形成

✓ 従来、工業港として整備されてきた背景から、色彩等の景観コントロールがされておらず、人々が景色を楽しんだり、自然等を心地よく感じたりする要素が不足している。

1) 建造物や工作物の色彩が統一されていない



色がまばらな石油タンク



無機質なセメントサイロ

2) さび等の老朽化が目立つ



錆が目立つ石油タンク



むき出しのリサイクル材

3) 視点場や自然の不足（県民アンケート結果の抜粋）

・アンケートに答えてくれた方のうち、約 1 割が景観に不満と回答

・不満と回答した人のうち、「視点場」、「色彩の統一」、「建物の老朽化」、「花や緑などの自然」に関する不満がそれぞれ約 2 割

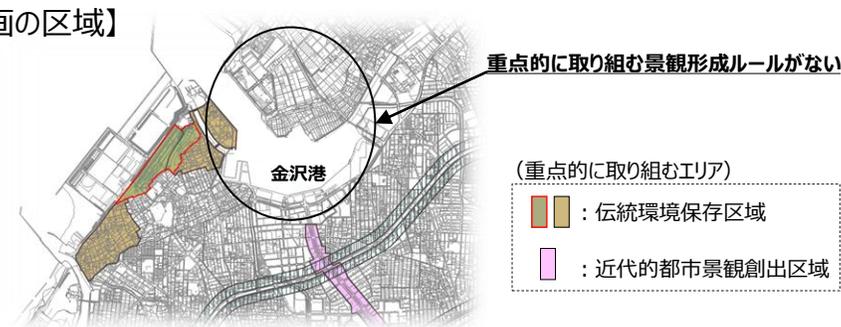
<景観に不満を感じた人が改善してほしいと回答した項目>



複数回答可 【N=418】

4) 金沢港エリアで重点的に取り組む景観形成ルールがない

【金沢市景観計画の区域】



現状

カーボンニュートラルに関する課題

課題

- ⑫ 次世代エネルギーの受入・供給拠点への転換
- ⑬ 再生可能エネルギーの活用促進
- ⑭ 港湾施設や荷役機械の脱炭素化
- ⑮ 物流における脱炭素化

- ✓ 2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す。(石川県環境総合計画)
- ✓ 次世代エネルギーの供給拠点への転換や港湾施設の脱炭素化によるカーボンニュートラルポートの形成を促進。
- ✓ トラックドライバー不足も考慮し、陸上輸送から海上輸送へのモーダルシフトによる脱炭素化が求められている。

金沢港のCNP形成計画 (R5.4策定)

基本方針

- ・ 次世代エネルギーの受入・供給拠点への転換
→ 県内全域への脱炭素化に貢献
- ・ 港湾施設や荷役機械の脱炭素化
→ 船会社や荷主に選ばれる港へ
- ・ モーダルシフトの進展 (県内企業による利用促進)
→ 港湾物流における脱炭素化に貢献

温室効果ガス削減目標

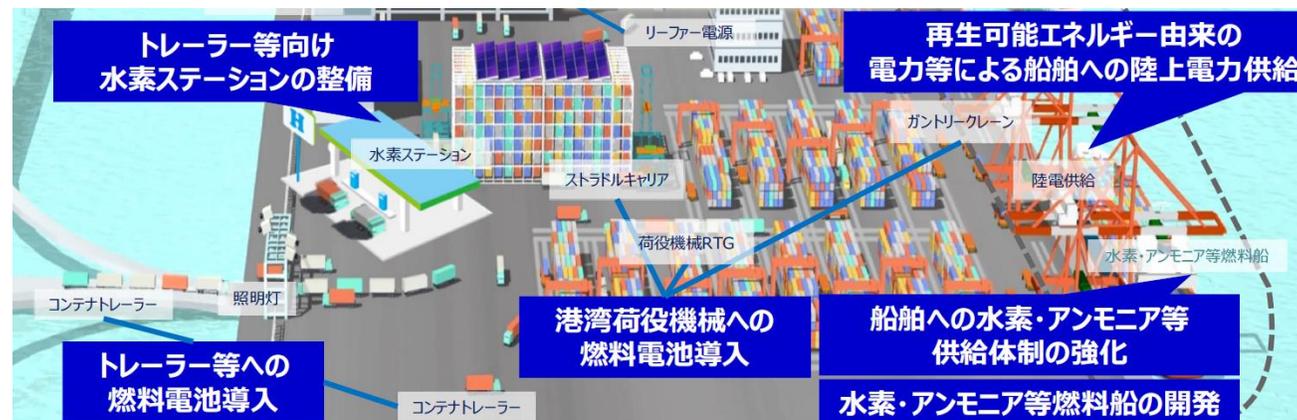
(基準年)	(中期目標)	(長期目標)
2013年度	2030年度	2050年
排出量 6.0 (千t-CO ₂)	→ 3.8 (千t-CO ₂)	→ 実質ゼロ

エネルギー
企業



洋上風力産業が大きくなる見込みであり、洋上風力の組立基地の確保が必要になってくる。

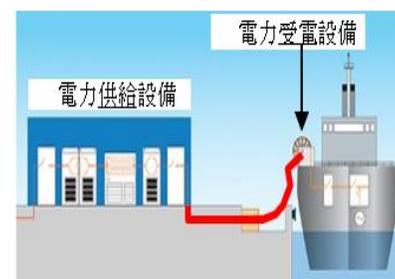
CNPのイメージ



<次世代エネルギーの受入・供給基地>



<陸上電力供給施設>



<太陽光発電施設>



①⑥ 大規模災害における防災力向上

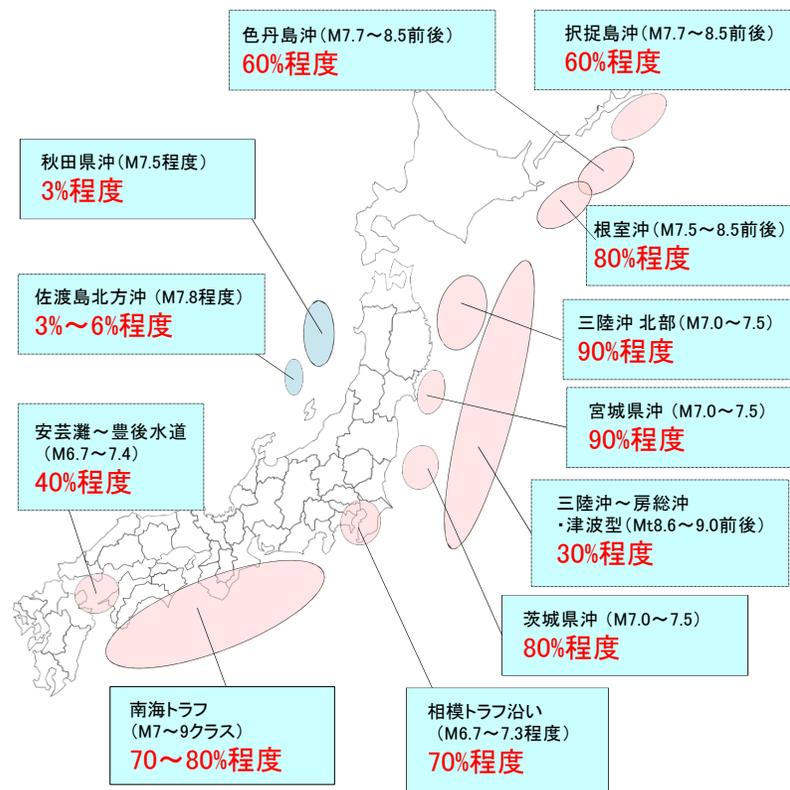
- ✓ 北陸地域の地理的特性や東日本大震災の経験を踏まえ、太平洋側で想定されている「南海トラフ」・「首都直下地震」等、大規模な自然災害発生時における北陸港湾の代替機能の重要性が高まっている。

＜太平洋側での災害時のバックアップ体制の確保＞



太平洋側大規模地震災害時における北陸地域港湾による代替輸送基本行動計画

＜主な海溝型地震の今後30年以内の発生確率＞



太平洋側での地震の発生確率が高い

国土交通省：北陸港湾ビジョン

安全・安心に関する課題

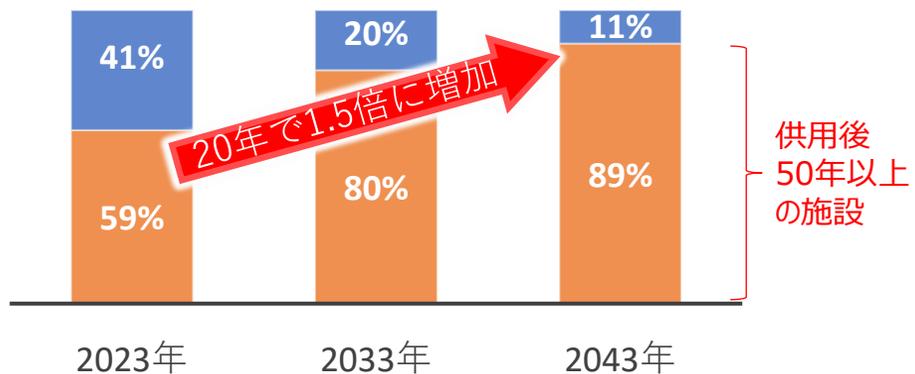
課題

- ⑰ 港湾施設の老朽化対策
- ⑱ 港内の水深確保と土砂流入抑制

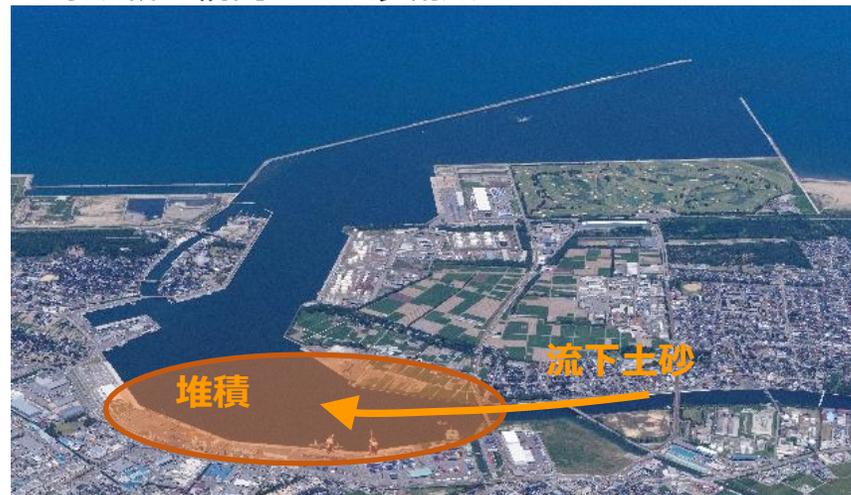
- ✓ 高度経済成長期に集中的に整備した港湾施設の老朽化が進行している。
- ✓ 掘込港湾であることから、海・川から港内へ土砂の流入が恒常的に発生している。

＜建設年度別施設数（防波堤、岸壁、橋梁等）＞
（44施設）

（供用後50年以上経過する施設数）



＜海・川から構内への土砂流入＞

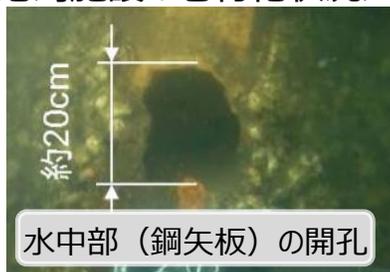


＜浚渫工事状況＞



現状

＜港湾施設の老朽化状況＞



船会社



老朽化した港湾施設の補修を計画的に
お願いしたい。

船会社



水深が浅くなっており、大きめのチャーター船を手配できない。

第1章 金沢港将来ビジョンの目的と検討委員会の進め方

第2章 ニーズ調査

第3章 現状及びニーズ調査等を踏まえた課題

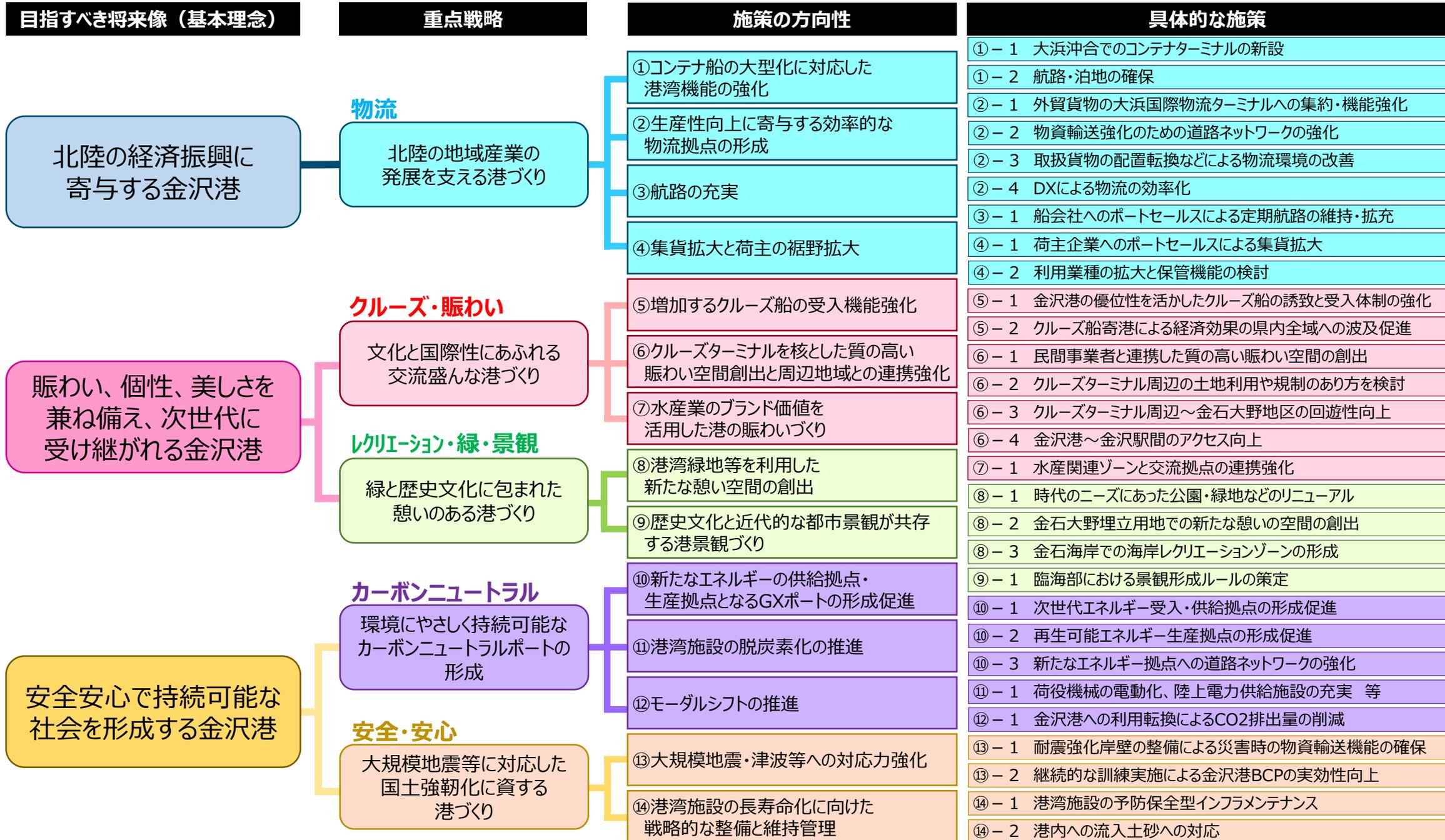
第4章 目指すべき将来像と重点戦略及び施策

第5章 空間利用計画（ゾーニング）

（参考1） 第1回委員会 各委員の主な意見と対応

（参考2） ニーズ調査結果

〈金沢港将来ビジョン〉目指すべき将来像を実現するための重点戦略と施策



【重点戦略】北陸の地域産業の発展を支える港づくり

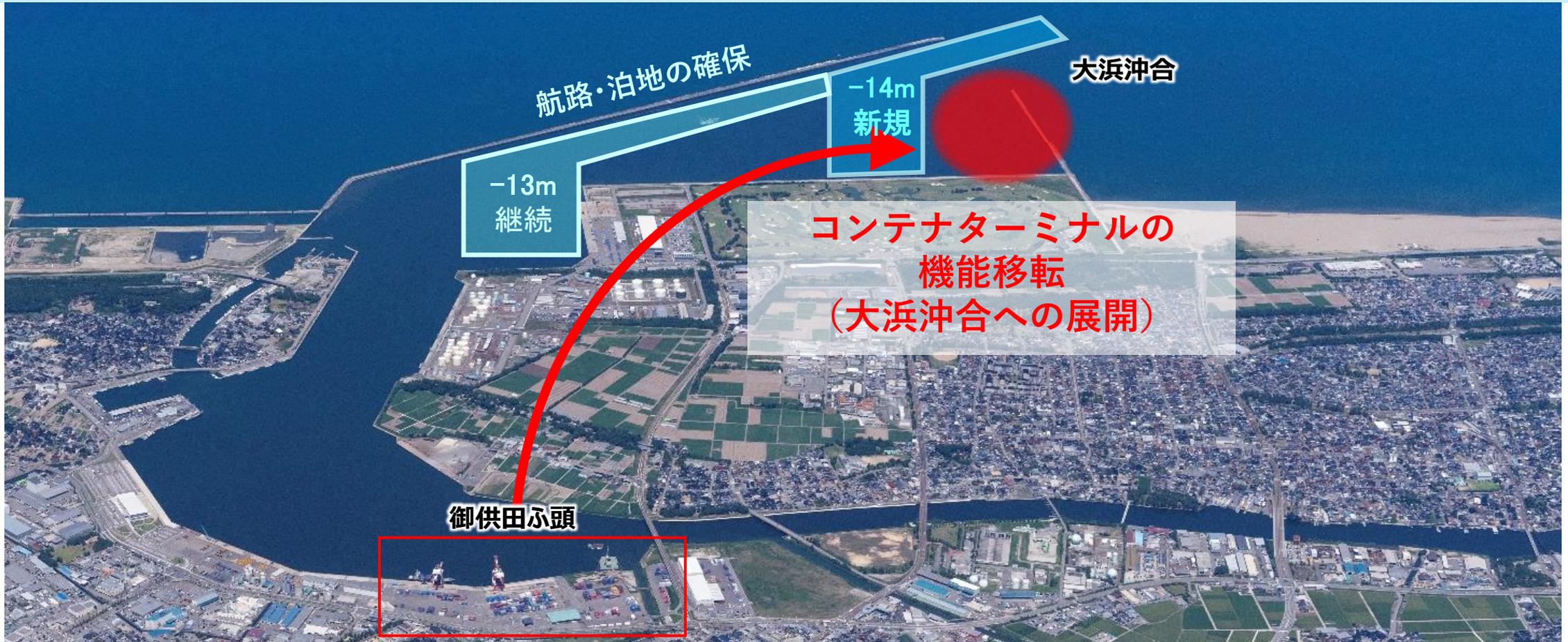
【①コンテナ船の大型化に対応した港湾機能の強化】

施策①-1：大浜沖合でのコンテナターミナルの新設

(短・中期)

施策①-2：航路・泊地の確保 (-13m～14m化)

(短・中期～長期)



コンテナ船の大型化やコンテナ貨物の増加に対応するため、これまでの御供田ふ頭から大浜沖合に新たなコンテナターミナルを機能移転し、地域間競争に負けない港づくりを目指す。

【重点戦略】北陸の地域産業の発展を支える港づくり

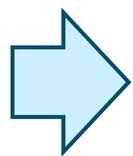
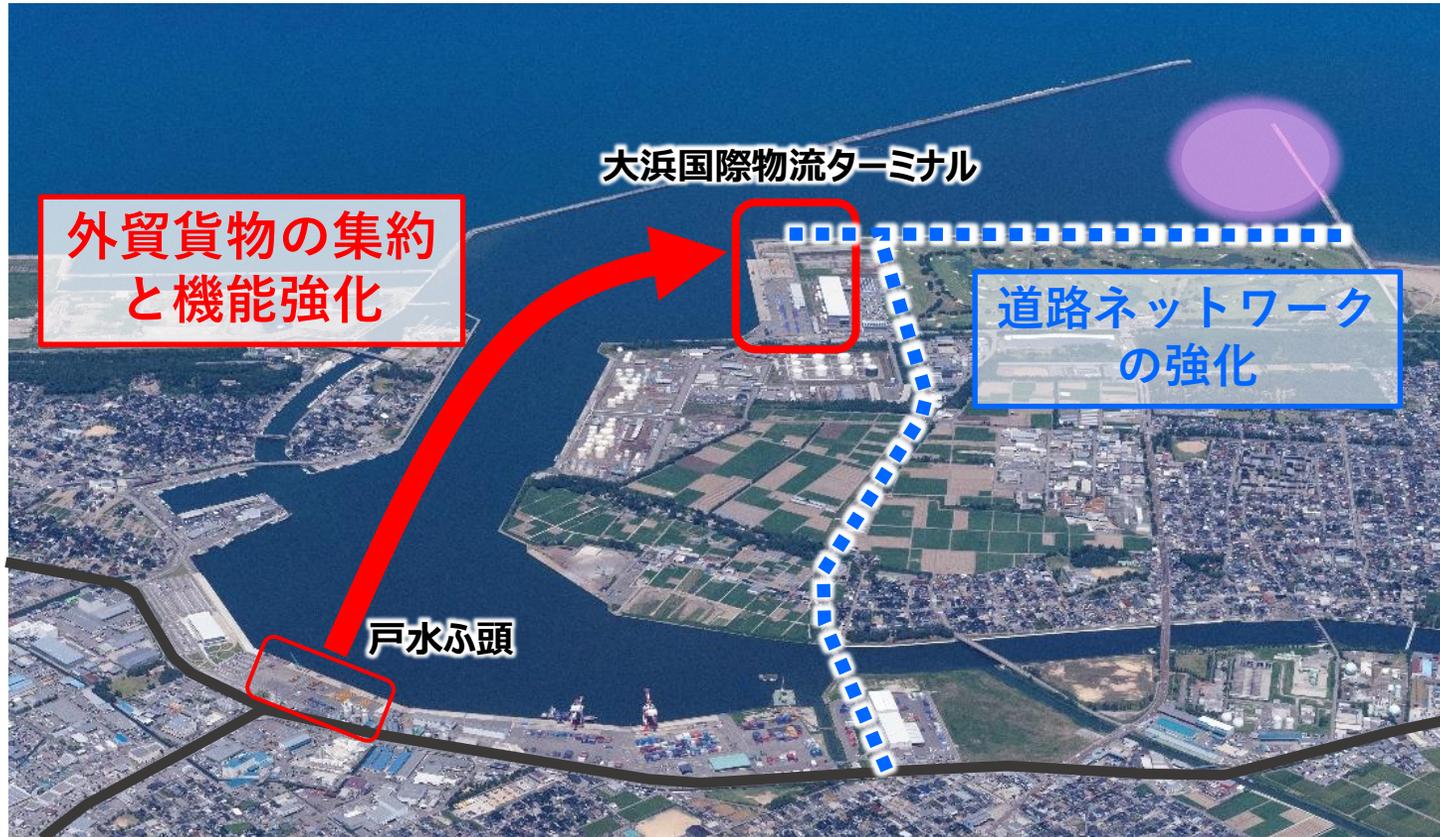
【②生産性向上に寄与する効率的な物流拠点の形成】

施策②-1：外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化

(短期)

施策②-2：物資輸送強化のための道路ネットワークの強化

(短・中期)



戸水ふ頭から大浜国際物流ターミナルへの外貿貨物の集約に加え、貨物や大型クルーズ船の増大に対応するため、岸壁を延伸させ、貨物船(4万トン級)の2隻同時着岸や、大型クルーズ船との2隻同時着岸も可能となるよう機能強化を図るとともに、物資輸送強化のための道路ネットワークの強化を図る。

【重点戦略】北陸の地域産業の発展を支える港づくり

【②生産性向上に寄与する効率的な物流拠点の形成】

施策②-3：取扱貨物の配置転換などによる物流環境の改善

(中期～長期)

五郎島ふ頭の現況

貨物スペース前に
海上保安庁
巡視船が停泊し、
荷役作業が
非効率



大浜沖合へのコンテナターミナル移転後、五郎島ふ頭から御供田ふ頭へ砂や金属くずの貨物を配置転換し、物流環境の改善を目指していく。 (五郎島ふ頭を海上保安庁巡視船、作業船などの船溜まりゾーンとして確保)

【重点戦略】北陸の地域産業の発展を支える港づくり

【②生産性向上に寄与する効率的な物流拠点の形成】

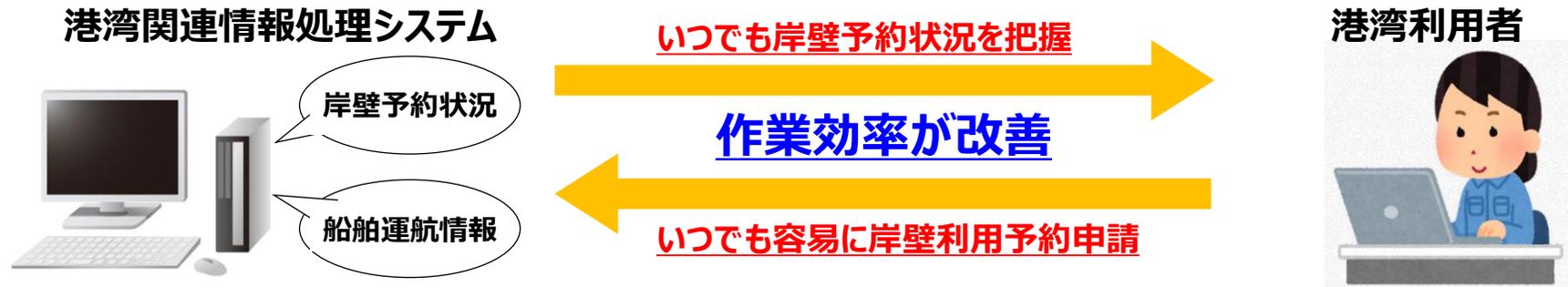
施策②-4：DXによる物流の効率化

(短期)

＜サイバーポートの活用＞ ※国でR6年1月より順次運用開始予定



＜港湾関連情報処理システムの活用＞ ※国でR6年1月より運用開始予定



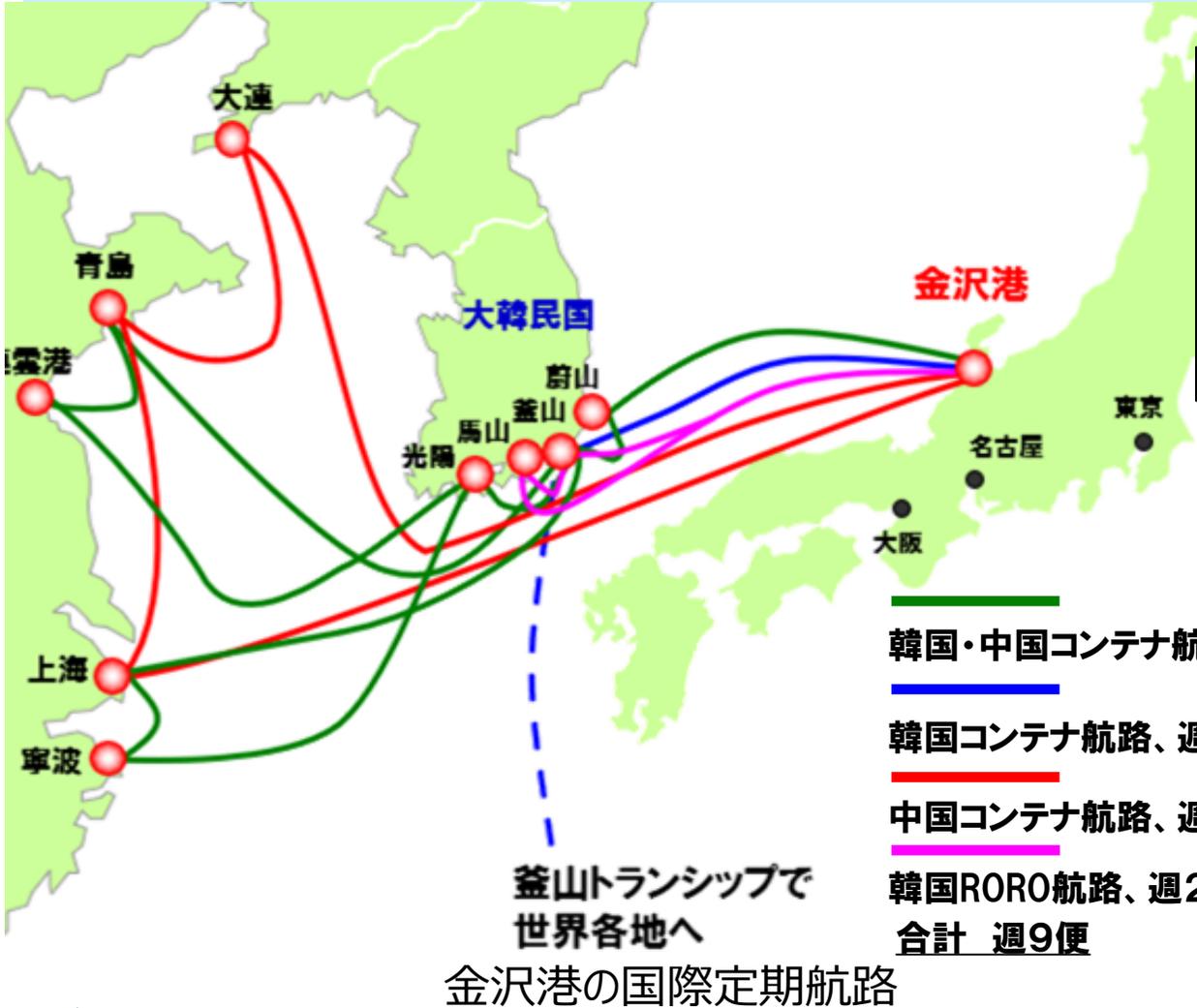
サイバーポートの活用による手続き等の電子化や、港湾関連情報処理システムの活用による岸壁予約状況や船舶運航情報をリアルタイムで把握できるデジタル環境を整え、港湾物流全体の生産性向上と労働環境改善を目指す。

【重点戦略】北陸の地域産業の発展を支える港づくり

【③航路の充実】

施策③-1：船会社へのポートセールスによる定期航路の維持・拡充

(短・中期～長期)



<取り組みの方向性>

○官民一体となったポートセールス

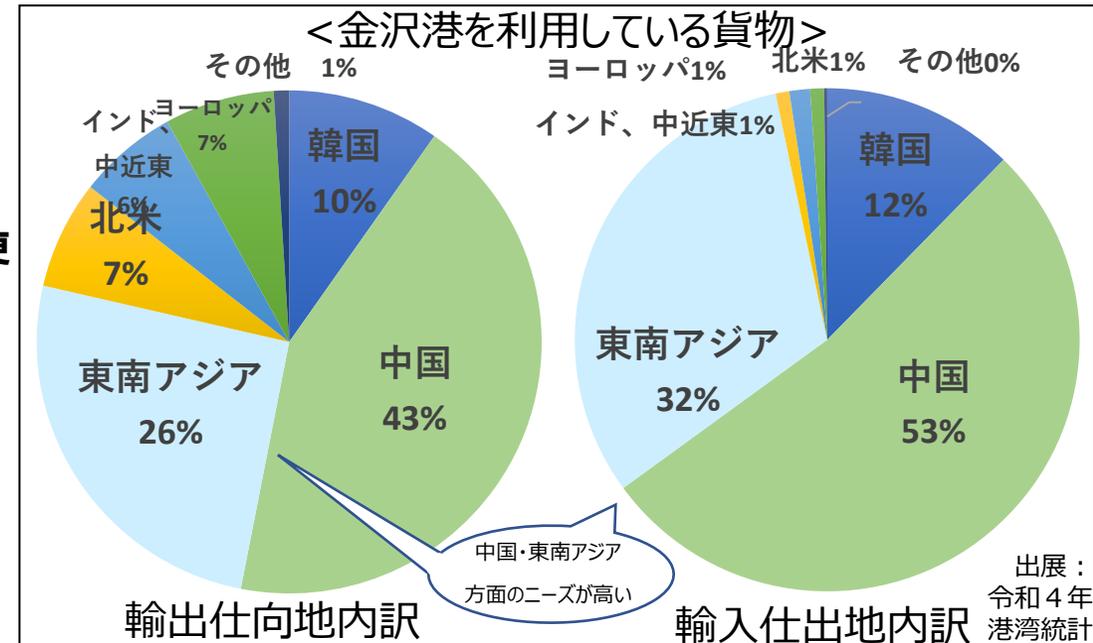
国内外での金沢港セミナーの開催、企業訪問 等

○船会社への支援

定期航路の就航の補助、冬季入出港への補助 等

○物流アドバイザーの設置

物流アドバイザーと連携した誘致活動 等



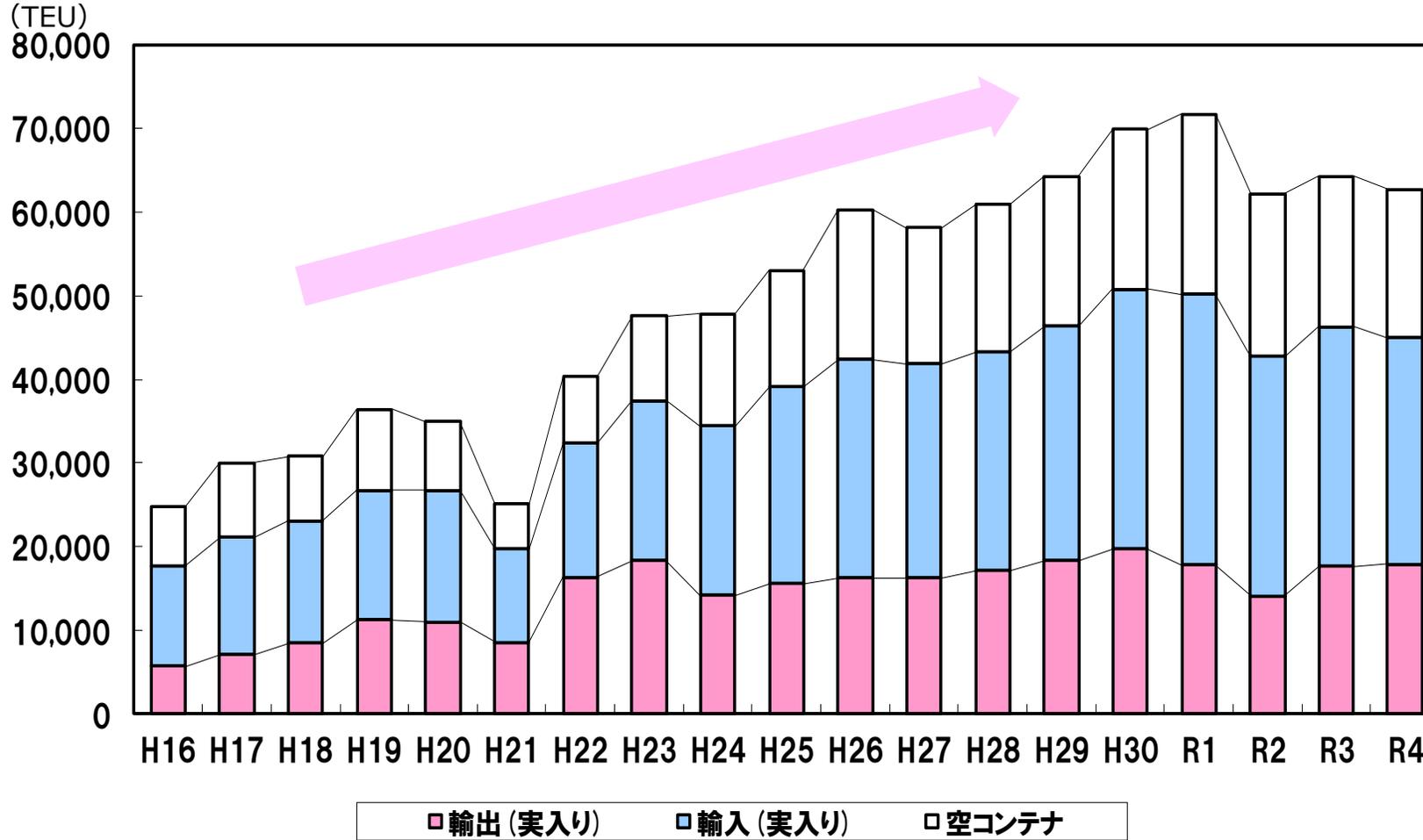
積極的な船会社へのポートセールス・支援などにより、定期航路の維持・拡充を図る。

【重点戦略】北陸の地域産業の発展を支える港づくり

【④集貨拡大と荷主の裾野拡大】

施策④-1：荷主企業へのポートセールスによる集貨拡大

(短・中期～長期)



金沢港のコンテナ貨物量の年次推移

<取り組みの方向性>

- 官民一体となったポートセールス
国内外でのセミナーの開催、企業訪問 等
- 荷主企業への支援
金沢港への利用転換と利用拡大の補助 等
- 物流アドバイザーの設置
アドバイザーの人脈を活かしたセールス 等
- 国際コンテナハブ港湾との連携
釜山港との港湾物流に関する連携協定締結 等



金沢港への集貨拡大

積極的な荷主企業へのポートセールス・支援などにより、金沢港への集貨拡大を図る。

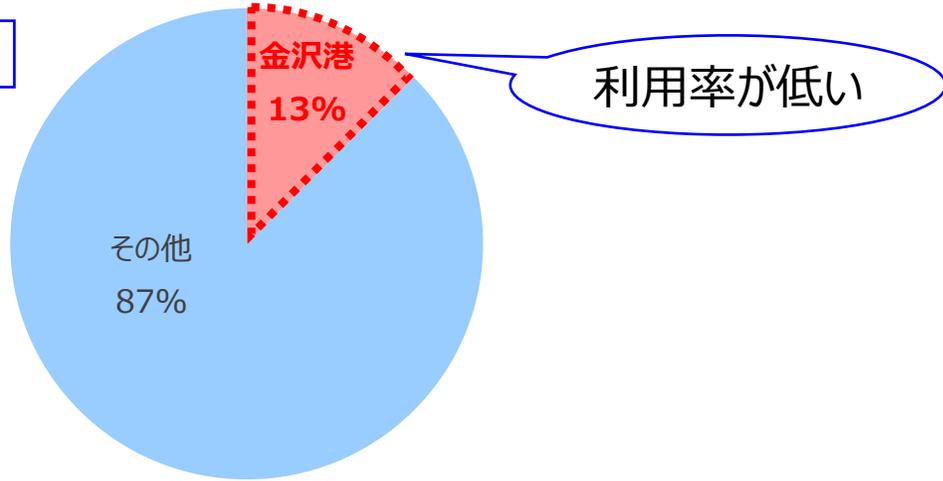
【④集貨拡大と荷主の裾野拡大】

施策④-2：利用業種の拡大と保管機能の検討

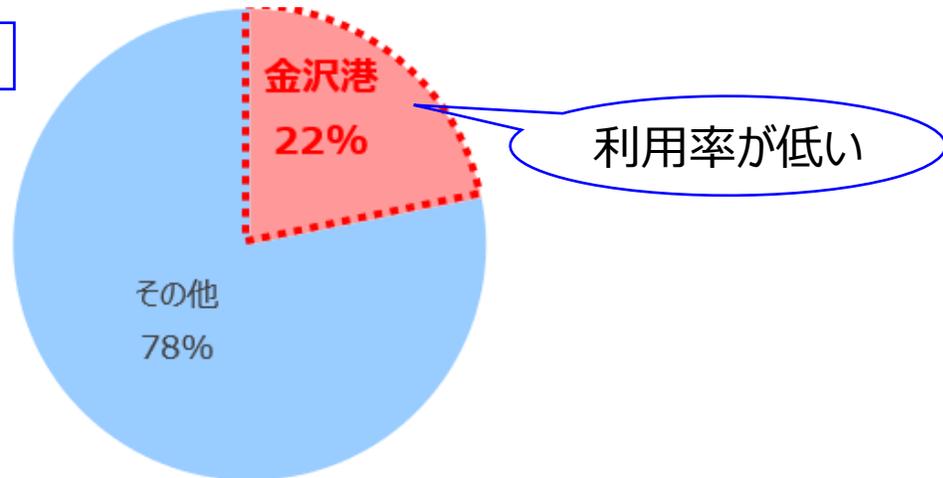
(短・中期～長期)

県内企業の輸出貨物の金沢港利用率

繊維



食品



出展：平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査

<取り組みの方向性>

○利用業種の拡大

リーファーコンテナを活用した食品の輸出拡大支援
小口混載貨物に対する支援 等
金沢港の利用促進に向けた関係者間の連携強化 等

○保管機能の検討

金沢港周辺の保管機能に対するニーズの調査・分析



➡ 利用業種の拡大を図ることで、金沢港の利用荷主の裾野を広げる。

【重点戦略】文化と国際性にあふれる交流盛んな港づくり

【⑤増加するクルーズ船の受入機能強化】

施策⑤-1：金沢港の優位性を活かしたクルーズ船の誘致と受入体制の強化

ソフト施策（短・中期～長期）
ハード施策（中期～長期）

・経済効果の高いクルーズ船(発着クルーズ、ラグジュアリー船)の誘致

・北陸新幹線県内全線開業を活用した金沢港発着クルーズの誘致

→海外クルーズ見本市への出展や船会社訪問
他港と連携した共同プロモーションの実施
船会社・旅行社等の幹部招へい など



・受入体制の強化

→シャトルバスや物販などの充実

利便性向上のためシャトルバスの運行を促進する。物販や県民による歓送迎の充実を図る。

→クルーズ船の増加や多様な需要に対応できるよう戸水ふ頭の受け入れ環境の強化

既存の物流機能に加え、クルーズ船の2隻同時着岸など多様なニーズに対応できるよう戸水岸壁及び背後ふ頭用地のリニューアルを図る。<ハード施策>

「イメージ：戸水ふ頭の新たな活用」



「イメージ・例」

(長崎港の例)



○クルーズ船による経済効果

R5乗客数見込み約6万3千人×2万5千円 = **15.8億円**

※H27乗客数約8千人×2万5千円 = **2.0億円**

<直接消費額> ※県の調査（H28）より算出

- ・金沢港に入港した乗客：約2万5千円/人
- ・ラグジュアリー船乗客：約3万4千円/人
- ・発着クルーズで前後泊した乗客：約4万5千円/人
(宿泊費含む)

➡ 石川県成長戦略の目標値（2032）である、**年間60本の寄港を定着させ、賑わいと交流のある港づくり**を目指す。

【重点戦略】文化と国際性にあふれる交流盛んな港づくり

【⑤増加するクルーズ船の受入機能強化】

施策⑤-2：クルーズ船寄港による経済効果の県内全域への波及促進

(短・中期～長期)

加賀・能登、富山・福井にも魅力的な観光地が多い
→千里浜、和倉温泉、加賀温泉郷、
黒部アルペンルート、永平寺、東尋坊など



千里浜



加賀温泉郷



かつて北前船で栄えた港町の面影を残す
魅力ある観光資源が集積

→金石・大野のこまちなみ、寺社、町屋、
飲食施設、銭屋五兵衛記念館 など

【金沢港周辺地域の観光ツアー例】



本龍寺 (金石地区)

寄港地ツアーの多様化を図ることで、金沢港の周辺地域や加賀・能登、さらには、北陸全域へ経済効果を波及させる。

【重点戦略】文化と国際性にあふれる交流盛んな港づくり

【⑥クルーズターミナルを核とした質の高い賑わい空間創出と周辺地域との連携強化】

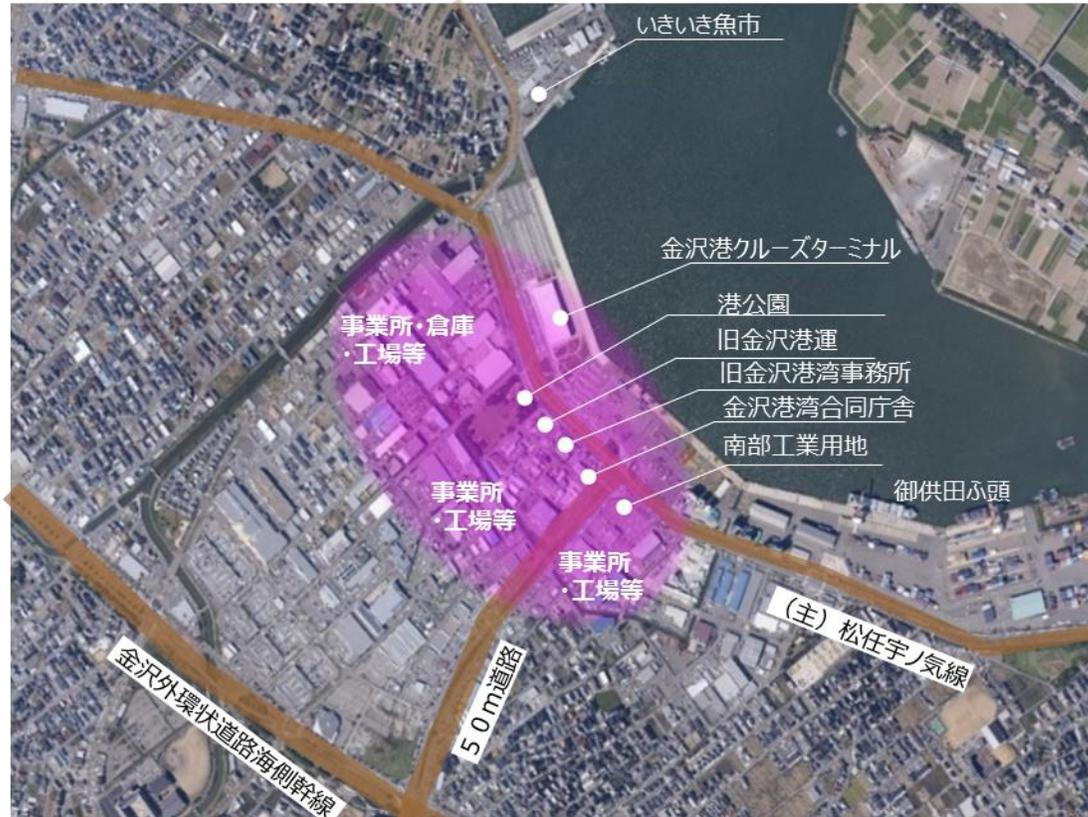
施策⑥-1：民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出

(短・中期)

施策⑥-2：クルーズターミナル周辺の土地利用や規制のあり方を検討

(短・中期)

＜クルーズターミナル周辺の状況＞



＜位置図＞



新たな滞在型の観光拠点と金沢港が連携し、より一層の賑わい空間の創出を図る。

・クルーズターミナル周辺や金沢リンクス周辺について、民間事業者とともに人々が集い、交流ができる質の高い賑わい空間の創出を図る。

・また、今後の開発動向や立地企業の意向なども踏まえた、土地利用や規制のあり方について検討を行う。 38

【重点戦略】文化と国際性にあふれる交流盛んな港づくり

【⑥クルーズターミナルを核とした質の高い賑わい空間創出と周辺地域との連携強化】

施策⑥-3：クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上

(短・中期～長期)



多様な移動手段のイメージ

地域運営交通

チョイソコかなざわ
※地域住民が主体となって運行する交通サービス

EVカート (富山県射水市)

※運営主体：新湊地区まちづくり協議会

水上バス (静岡県清水市)

※運営主体：富士山清水港クルーズ(株)

歩行空間の確保やサイクリング環境の向上を図るとともに、交通事業者や市、地元が連携した地域運営交通(EVカート含む)や、水上バスなど多様な移動手段の活用により、回遊性の向上を目指す。

【重点戦略】文化と国際性にあふれる交流盛んな港づくり

【⑦水産業のブランド価値を活用した港の賑わいづくり】

施策⑦-1：水産関連ゾーンと交流拠点の連携強化

(短期)



<水産関連ゾーン～ターミナル間歩道の現況>



- 凡例
- 通常動線
 - クルーズ寄港時動線
 - ソーラスフェンス

水産関連ゾーンとクルーズターミナルの駐車場連携や、歩行動線の改善、案内サインの充実など連携強化に努める。

【重点戦略】緑と歴史文化に包まれた憩いのある港づくり

【⑧ 港湾緑地等を利用した新たな憩い空間の創出】

施策⑧-1：時代のニーズにあった公園・緑地などのリニューアル

(中期～長期)

クルーズターミナル周辺の公園



➡ 港と自然が調和した、魅力ある緑地空間へのリニューアルに努める。

リニューアルのイメージ

「イメージ・例」 開放的で憩いのある空間づくり

(瑞穂公園：愛知)



「イメージ・例」 イベントなどで賑わう多目的な空間づくり

(大師公園：神奈川)



【重点戦略】緑と歴史文化に包まれた憩いのある港づくり

【⑧港湾緑地等を利用した新たな憩い空間の創出】

施策⑧-2：金石大野埋立用地での新たな憩いの空間の創出

(中期～長期)

施策⑧-3：金石海岸での海岸レクリエーションゾーンの形成

(中期～長期)



土地利用のイメージ

《イメージ・例》ビーチ



《イメージ・例》スポーツ施設



《イメージ・例》釣り施設



《イメージ・例》バーベキュー・キャンプ場



➡ 金石大野埋立用地や隣接する金石海岸を県民が憩い、集えるレクリエーションの場やマリンレジャーなどが楽しめる空間とするため、地域住民と連携し、検討を進める。

【重点戦略】緑と歴史文化に包まれた憩いのある港づくり

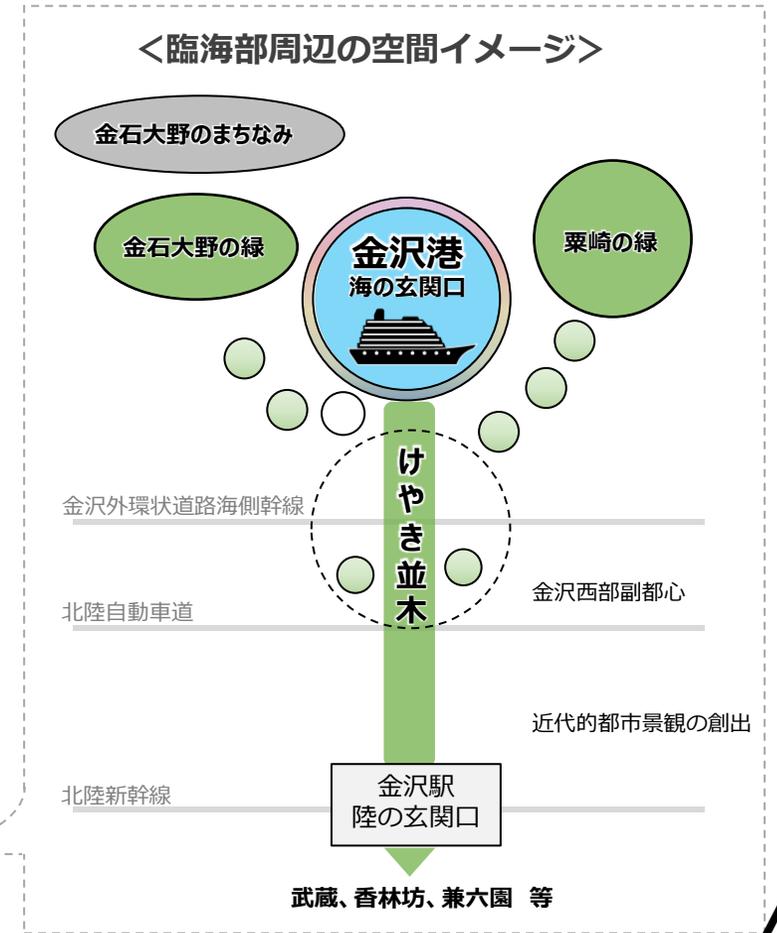
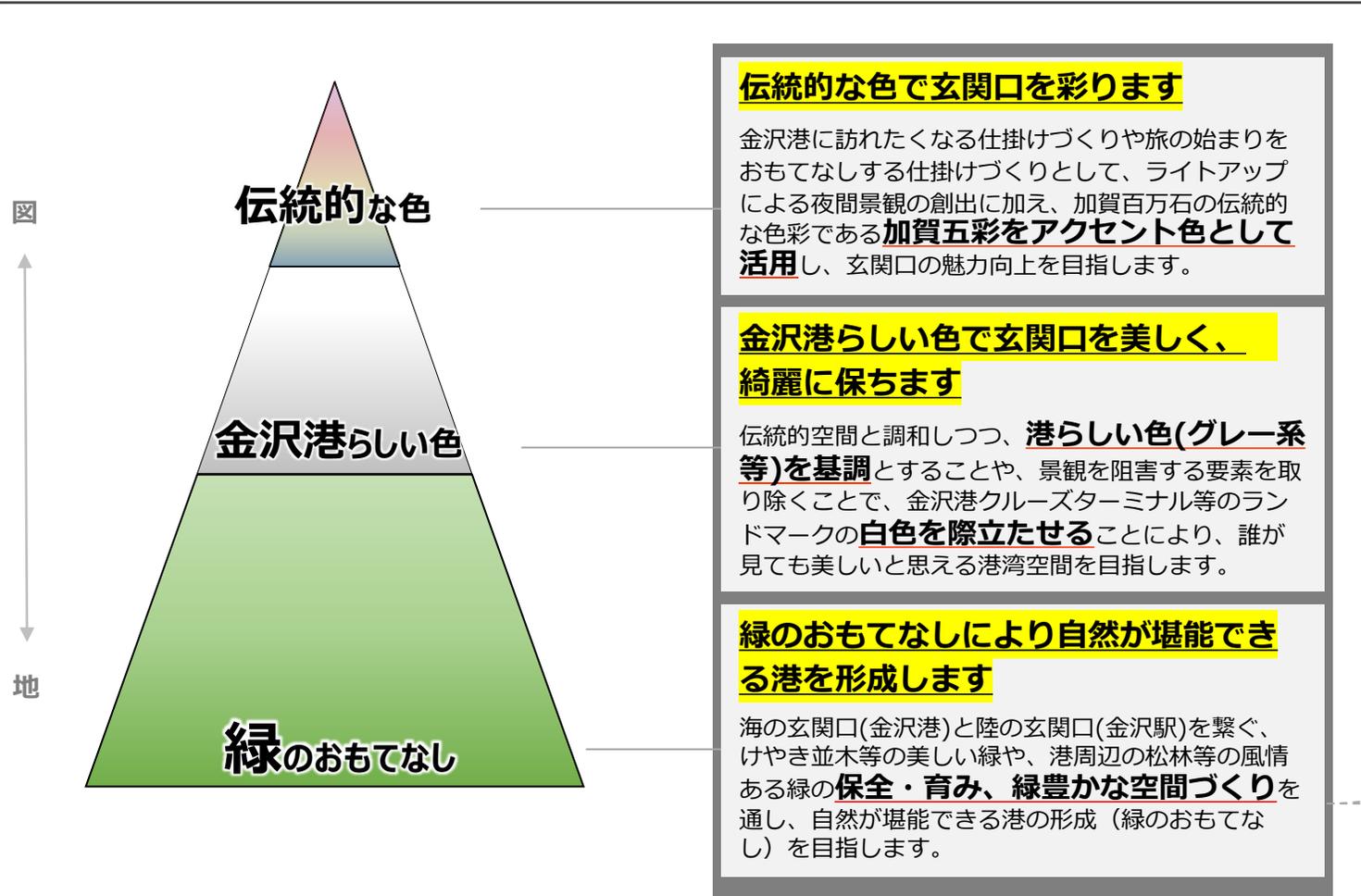
【⑨歴史文化と近代的な都市景観が共存する港景観づくり】

施策⑨-1：臨海部における景観形成ルールの方針

(短期)

＜テーマ＞ 海の玄関口にふさわしい優美で緑に包まれた港景観を目指して

＜基本方針＞



【重点戦略】緑と歴史文化に包まれた憩いのある港づくり

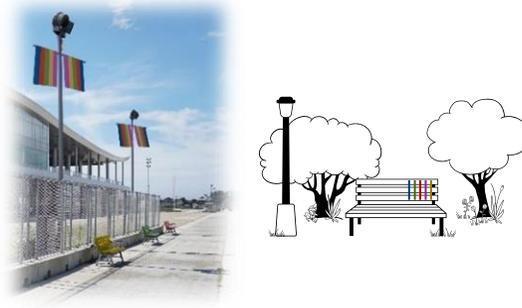
- ① 港全体（遠景）では、グレー系を基調とし、ランドマークとなる建物は白色系とするなど、港の中でランドマークとなる建物を際立たせる



加賀五彩活用イメージ（近景）



上屋等へのアクセントイメージ



賑わい拠点周辺（クルーズターミナル）への加賀五彩活用イメージ

ランドマークとなる白色の例



クルーズターミナル



かなざわ総合市場（外観イメージ）

- ② 近景では、伝統的な加賀五彩を品よく際立たせるため、建物や工作物などにアクセント色等として活用する



「臨海部における景観形成ルールの策定」を金沢市と連携し検討を進め、昔からの自然や歴史と近代的な都市景観が共存する金沢港の新たな顔づくりを目指す。

【重点戦略】環境にやさしく持続可能なカーボンニュートラルポートの形成

【⑩新たなエネルギーの供給拠点・生産拠点となるGXポートの形成促進】

施策⑩-1：次世代エネルギー受入・供給拠点の形成促進

(中期～長期)

施策⑩-2：再生可能エネルギー生産拠点の形成促進

(中期～長期)

施策⑩-3：新たなエネルギー拠点への道路ネットワークの強化

(中期～長期)



土地利用のイメージ

＜新エネルギーの受入・供給基地＞



エネルギー
貯蔵タンク

＜LNGバンカリング船の基地＞



LNG燃料船

LNG燃料供給船

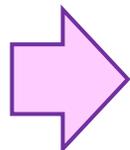
＜洋上風力発電の組立基地＞



＜太陽光発電施設＞



出典：国土交通省



金石大野埋立用地の一部を脱炭素化推進ゾーンと位置付け、今後の社会の動向を注視しながら、**新たなエネルギーに対する要請に応じて活用する用地として検討していく。**

【重点戦略】環境にやさしく持続可能なカーボンニュートラルポートの形成

【⑪港湾施設の脱炭素化の推進】

施策⑪-1：荷役機械の電動化、陸上電力供給施設の充実 等

(短・中期～長期)

＜環境負荷の少ない荷役機械の導入＞

荷役作業中の温室効果ガス排出量の削減

ハイブリッド型トランスファークレーン



電動式フォークリフト



出典：(株)小松製作所HPより

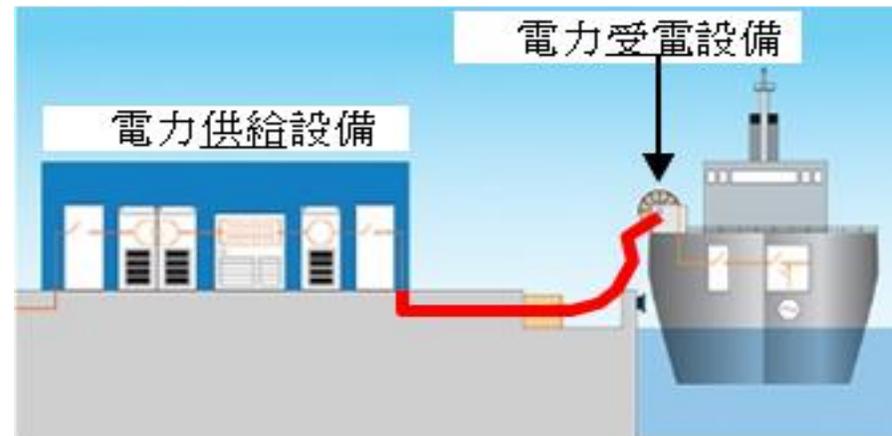
＜照明灯のLED化＞

照明灯の消費電力量の削減



＜陸上電力供給施設の導入＞

停泊中の船舶へ陸上から電力を供給



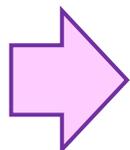
＜次世代自動車の導入＞

電気や水素等を燃料としたトラック等の導入



出典：日野自動車(株)提供

＜環境負荷の少ない引船の導入＞



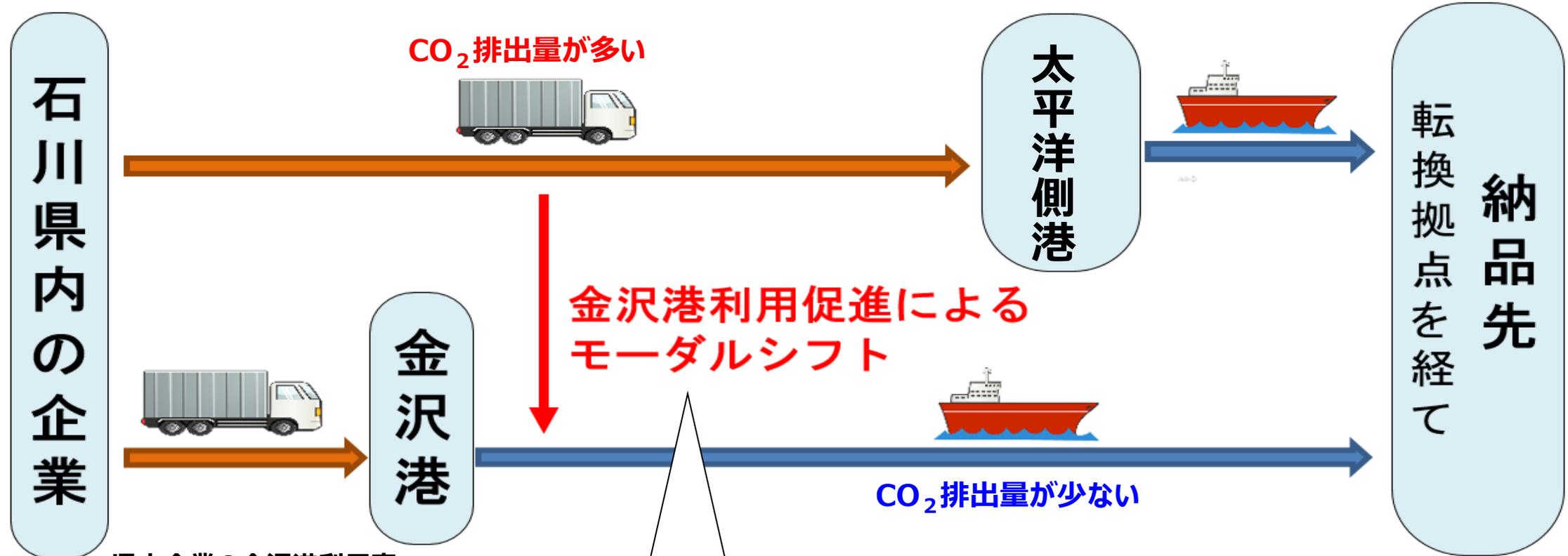
カーボンニュートラルポートの形成を官民で目指し、新技術の開発動向を注視しながら、
港湾施設の脱炭素化を進める。

【重点戦略】環境にやさしく持続可能なカーボンニュートラルポートの形成

【⑫モーダルシフトの推進】

施策⑫-1：金沢港への利用転換によるCO₂排出量の削減

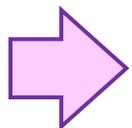
(短・中期～長期)



県内企業の金沢港利用率H30

- 金沢港 53%
- 名古屋港 17%
- 阪神港 27%
- その他 3%

太平洋側港を利用している県内輸出貨物が年間約1万TEUあり、それがすべて金沢港に利用転換した場合、CO₂排出量約6千t削減（排出量取引価格換算約5千万円に相当）



官民一体となったポートセールスや荷主企業への支援を行うことで、**県内企業に金沢港への利用転換を推進し、CO₂排出量の削減を目指す。**

【重点戦略】大規模地震等に対応した国土強靱化に資する港づくり

【⑬大規模地震・津波等への対応力強化】

施策⑬-1：耐震強化岸壁の整備による災害時の物資輸送機能の確保

(中期～長期)

施策⑬-2：継続的な訓練実施による金沢港BCPの実効性向上

(短・中期～長期)



災害時の幹線貨物・緊急物資受入のため耐震強化岸壁を整備し、被災地への救援・復旧活動を後押しする。
また、港湾BCPに基づき継続的に訓練を実施し、**緊急時の対応力強化**を図る。

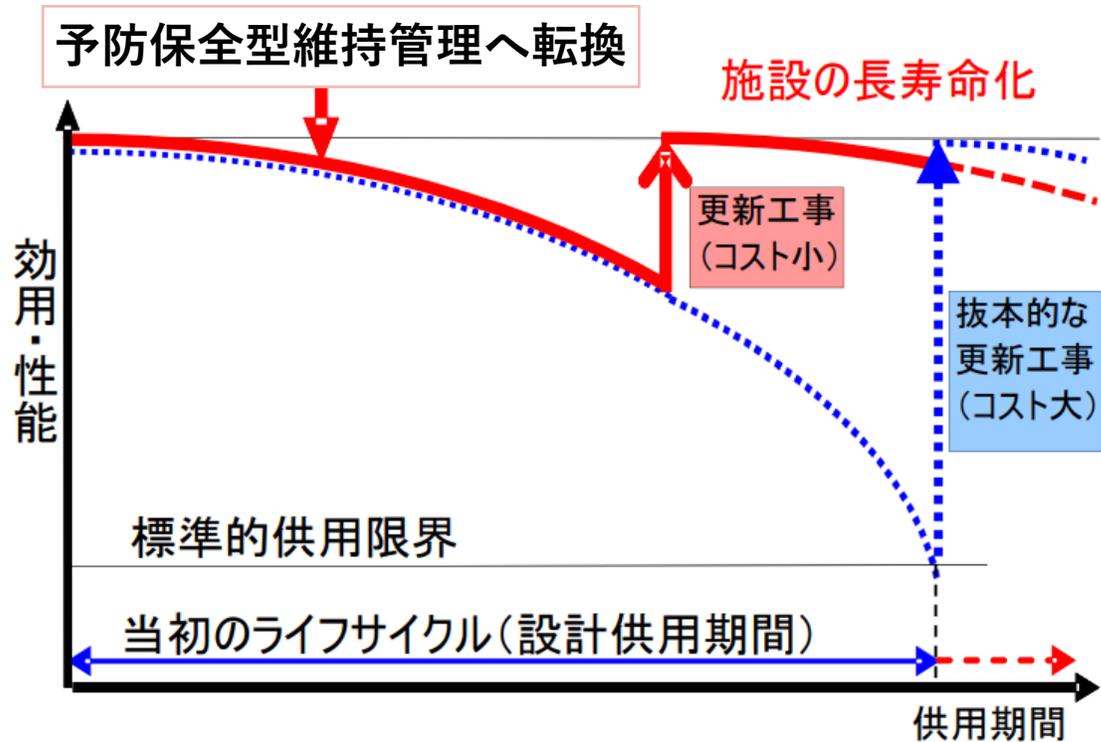
【重点戦略】大規模地震等に対応した国土強靱化に資する港づくり

【⑭港湾施設の長寿命化に向けた戦略的な整備と維持管理】

施策⑭-1：港湾施設の予防保全型インフラメンテナンス

(短・中期～長期)

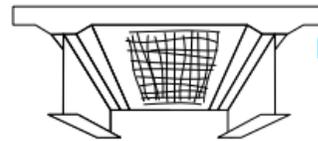
イメージ (港湾施設の予防保全型インフラメンテナンス)



出典) 国土交通省資料

事後保全

コンクリートのひびわれが深刻



ひび割れが深刻なため
床版を打ち換え



大規模な修繕



床版の打換え



部材の取替え

転換

予防保全

点検により、コンクリートに
軽微なひびわれを発見



炭素繊維を下面に接着する
ことによりひび割れの進行を抑制



軽微な補修



ひび割れ補修



塗装の塗替え

老朽化した港湾施設の戦略的な維持管理による施設の長寿命化及び更新費用のコスト縮減を図る。 50

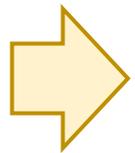
【重点戦略】大規模地震等に対応した国土強靱化に資する港づくり

【⑭港湾施設の長寿命化に向けた戦略的な整備と維持管理】

施策⑭-2：港内への流入土砂への対応

(短・中期～長期)

航路・泊地の浚渫イメージ



港内への流入土砂の浚渫により水深を確保し、船舶の安全性向上を図る。

第1章 金沢港将来ビジョンの目的と検討委員会の進め方

第2章 ニーズ調査

第3章 現状及びニーズ調査等を踏まえた課題

第4章 目指すべき将来像と重点戦略及び施策

第5章 空間利用計画（ゾーニング）

（参考1） 第1回委員会 各委員の主な意見と対応

（参考2） ニーズ調査結果

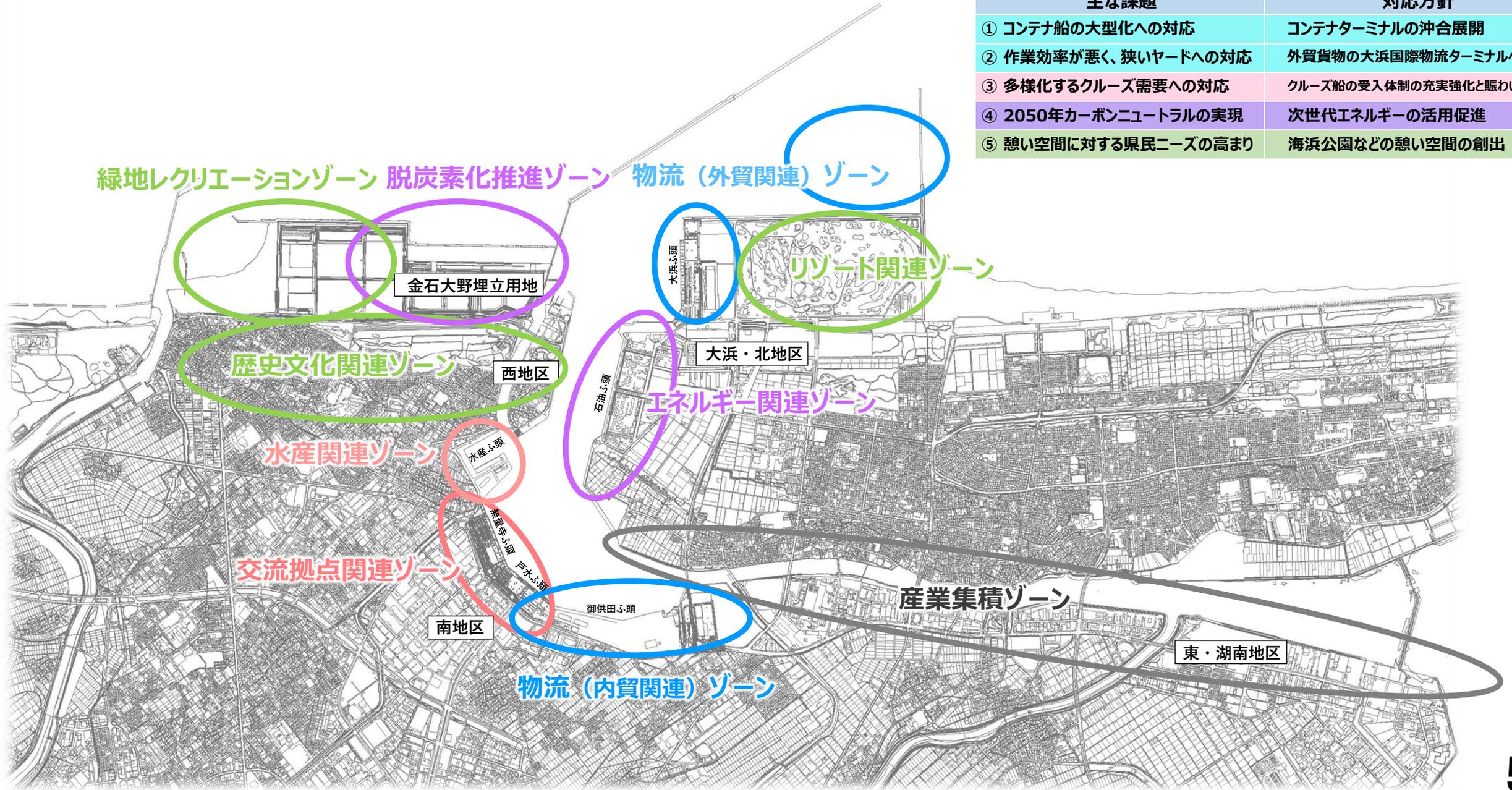
金沢港空間利用計画（ゾーニング）

（金沢港将来ビジョン）

20～30年後における目指すべき将来像

主な課題	対応方針
① コンテナ船の大型化への対応	コンテナターミナルの沖合展開
② 作業効率が悪く、狭いヤードへの対応	外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約
③ 多様化するクルーズ需要への対応	クルーズ船の受入体制の充実強化と賑わいの創出
④ 2050年カーボンニュートラルの実現	次世代エネルギーの活用促進
⑤ 憩い空間に対する県民ニーズの高まり	海浜公園などの憩い空間の創出

緑地レクリエーションゾーン 脱炭素化推進ゾーン 物流（外貿関連）ゾーン



空間利用計画（ゾーニング：大浜・北地区）

- ・大浜地区は、船舶の大型化や貨物量の増大に対応するため、更なる物流機能の強化を図る「物流（外貿関連）ゾーン」および新たな観光拠点となりうる「リゾート関連ゾーン」に位置づける。
- ・北地区は、石油ふ頭背後地を引き続き石油関連企業の集積地として「エネルギー関連ゾーン」とし、五郎島ふ頭は、海上保安庁巡視船が係留する「船溜まり関連ゾーン」に位置づける。

<臨港道路 大浜御供田線>

- ・物資輸送強化のための道路ネットワークの強化（施策②-2）

物流（外貿関連）ゾーン

- ・外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化（施策②-1）

物流（外貿関連）ゾーン

- ・大浜沖合でのコンテナターミナルの新設（施策①-1）
- ・航路・泊地の確保（施策①-2）
- ・耐震強化岸壁の整備による災害時の物資輸送機能の確保（施策⑬-1）

リゾート関連ゾーン

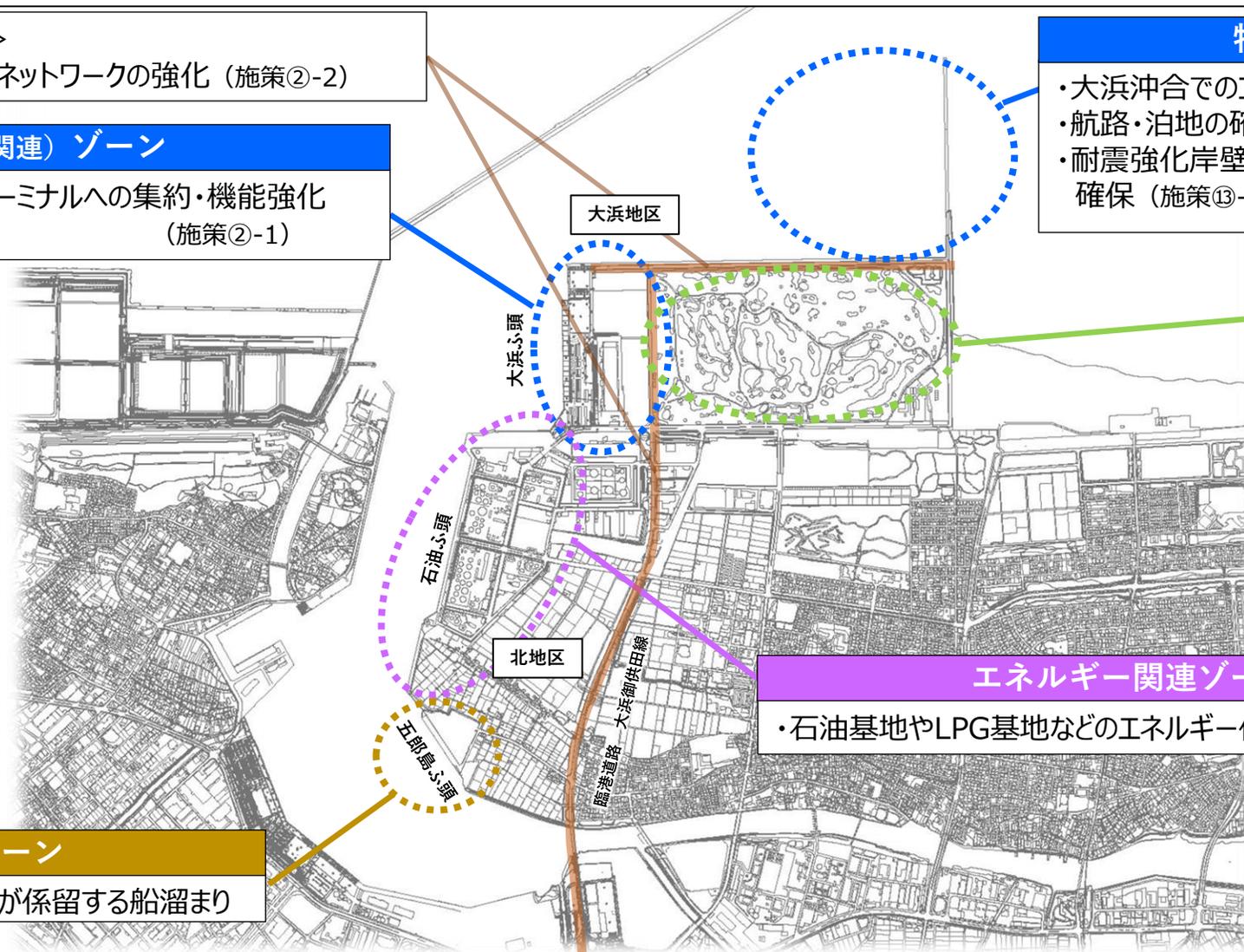
- ・新たな滞在型の観光拠点
- ・民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出（施策⑥-1）

エネルギー関連ゾーン

- ・石油基地やLPG基地などのエネルギー供給拠点の形成

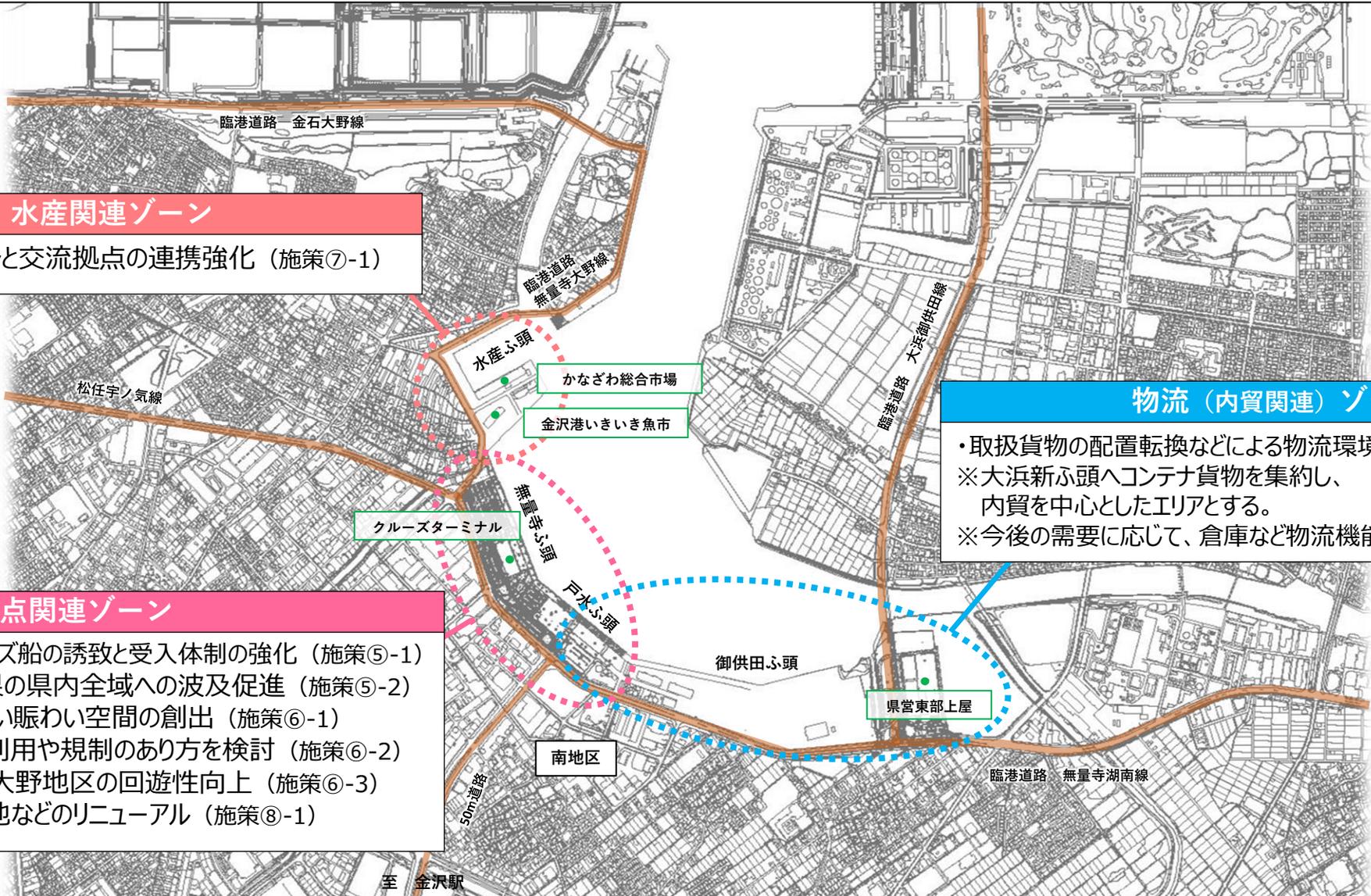
船溜まり関連ゾーン

- ・海上保安庁巡視船、作業船などが係留する船溜まり



空間利用計画（ゾーニング：南地区）

- ・御供田ふ頭は、コンテナ機能を大浜沖合へ機能移転し、内貿貨物を中心とした「物流関連ゾーン」に位置づける。
- ・南地区を形成する無量寺ふ頭と戸水ふ頭を賑わいの核となる「交流拠点関連ゾーン」とし、隣接する水産ふ頭は「水産関連ゾーン」として水産振興の拠点とする。



水産関連ゾーン

- ・水産関連ゾーンと交流拠点の連携強化（施策⑦-1）

物流（内貿関連）ゾーン

- ・取扱貨物の配置転換などによる物流環境の改善（施策②-3）
※大浜新ふ頭へコンテナ貨物を集約し、内貿を中心としたエリアとする。
※今後の需要に応じて、倉庫など物流機能を検討

交流拠点関連ゾーン

- ・金沢港の優位性を活かしたクルーズ船の誘致と受入体制の強化（施策⑤-1）
- ・クルーズ船寄港による経済効果の県内全域への波及促進（施策⑤-2）
- ・民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出（施策⑥-1）
- ・クルーズターミナル周辺の土地利用や規制のあり方を検討（施策⑥-2）
- ・クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上（施策⑥-3）
- ・時代のニーズにあった公園・緑地などのリニューアル（施策⑧-1）

空間利用計画（ゾーニング：金石・西地区）

- ・金石大野埋立用地は、金石海岸と一体となった自然環境を生かした「緑地レクリエーション関連ゾーン」に位置づけ、大浜側を、今後、社会的要請が高まる次世代エネルギー等の拠点とする「脱炭素化推進ゾーン」に位置づける。
- ・西地区については、引き続きプレジャーボートや官公庁船、作業船が係留する「船溜まり関連ゾーン」にする。
- ・伝統的な町並みが残る金石地区や大野地区を「歴史文化関連ゾーン」に位置づけ、クルーズターミナル周辺と一体となった賑わいの創出を図る。

緑地レクリエーション関連ゾーン

- ・金石大野埋立用地での新たな憩いの空間の創出（施策⑧-2）
- ・金石海岸での海岸レクリエーションゾーンの形成（施策⑧-3）

脱炭素化推進ゾーン

- ・次世代エネルギー受入・供給拠点の形成促進（施策⑩-1）
- ・再生可能エネルギー生産拠点の形成促進（施策⑩-2）
- ・新たなエネルギー拠点への道路ネットワークの強化（施策⑩-3）

船溜まり関連ゾーン

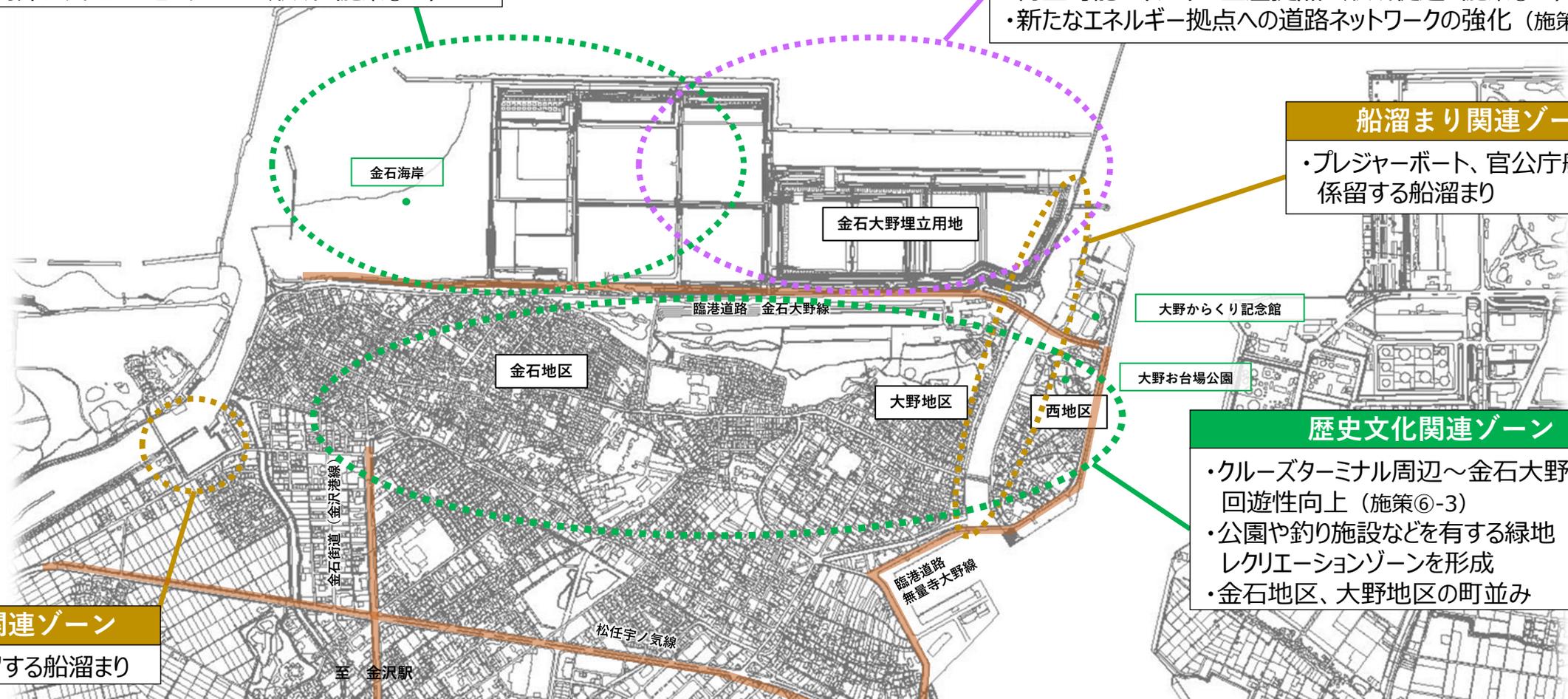
- ・プレジャーボート、官公庁船等が係留する船溜まり

歴史文化関連ゾーン

- ・クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上（施策⑥-3）
- ・公園や釣り施設などを有する緑地レクリエーションゾーンを形成
- ・金石地区、大野地区の町並み

船溜まり関連ゾーン

- ・漁船等が係留する船溜まり



第1章 金沢港将来ビジョンの目的と検討委員会の進め方

第2章 ニーズ調査

第3章 現状及びニーズ調査等を踏まえた課題

第4章 目指すべき将来像と重点戦略及び施策

第5章 空間利用計画（ゾーニング）

(参考1) 第1回委員会 各委員の主な意見と対応

(参考2) ニーズ調査結果

第1回委員会 各委員の主な意見と対応

全体に対する意見	対応
<p>✓ 20～30年先は、北陸新幹線が新大阪までつながっているはずなので、その点を念頭において、金沢港および金沢港周辺の計画を考える必要がある。（高山委員）</p> <p>✓ もっと女性や若者の意見、地元の意見など広く県民の意見を取り入れるべき。（下沢委員、長谷川委員、藤村委員）</p>	<p>✓ 北陸新幹線全線（大阪方面）開業による交流人口増加の受け皿としての役割を見据えた施策を推進する。</p> <p>施策⑥-1：民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出 施策⑥-3：クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上 施策⑤-1：金沢港の優位性を活かしたクルーズ船の誘致と受入体制の強化</p> <p>✓ 地元町会や高校生などへのアンケートやヒアリングを実施し、広く意見を取り入れた。</p> <p>施策⑥-1：民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出 施策⑥-3：クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上</p> <p>施策⑧-1：時代のニーズにあった公園・緑地などのリニューアル 施策⑧-2：金石大野埋立用地での新たな憩いの空間の創出 施策⑧-3：金石海岸での海岸レクリエーションゾーンの形成</p>

第1回委員会 各委員の主な意見と対応

物流に対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンテナ船の大型化に対して、適切などころに展開する方向が一つあると感じた。（大脇委員長） ✓ コンテナ船の大型化への対応は、大きな防波堤を整備し、金石大野埋立用地をコンテナターミナルにしたらどうか。（高山委員） ✓ RORO貨物について、戸水ふ頭～御供田ふ頭のコンテナの輸送距離が長くなっているため、改善してほしい。（中倉委員） ✓ RORO船の着岸場所が点在しているため1箇所に集約してほしい。（中倉委員） ✓ 御供田ふ頭は、ふ頭用地が狭小に加え、岸壁延長が短く、着岸しにくい形状なので、ふ頭用地を十分に確保しつつ着岸しやすい岸壁の計画が必要である。（堀岡委員） ✓ 2024年問題を逆手にとり、金沢港を利用する取り組みが必要。（長利委員、溝口委員） ✓ 金沢港を発展させるため、コスト競争力のある港にするなどの対策が必要。（長利委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コンテナ船の大型化に対応するため、これまでの御供田ふ頭から大浜沖合に新たなコンテナターミナルを機能移転し、地域間競争に負けない港づくりを目指す。 <ul style="list-style-type: none"> 施策①-1：大浜沖合でのコンテナターミナルの新設 施策①-2：航路・泊地の確保 ✓ 外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化に向けたふ頭再編に関する施策を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> 施策②-1：外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化 施策②-2：物資輸送強化のための道路ネットワークの強化 ✓ 地域産業の国際競争力強化のため、航路の維持・拡充や保管機能の確保など金沢港の利便性の向上を図り、日本海側の物流拠点港を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> 施策③-1：船会社へのポートセールスによる定期航路の維持・拡充 施策④-1：荷主企業へのポートセールスによる集貨拡大 施策④-2：利用業種の拡大と保管機能の検討

第1回委員会 各委員の主な意見と対応

賑わいに対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ✓ いきいき魚市も老朽化が進んでいるので、対策を考えていきたい。（嶋崎委員） ✓ 金沢港から金石大野までの遊歩道を整備すべきではないか。（長谷川委員） ✓ 人間工学的に400m以内に施設がないと退屈に感じるので、施設を点在できたらよい。（坂本委員） ✓ 水上を移動できるシーバスのような小型船導入を検討してみてはどうか（高山委員） ✓ クルーズターミナルを賑わい創出の核とし、この地域を人が集まるエリアにしてはどうか。（堀岡委員） ✓ クルーズ乗船客と中高生が交流できる仕組み、仕掛けや子どもたちに船上体験できるイベントの検討が必要ではないか。（長谷川委員） ✓ SNS等を活用したPRを検討するべきではないか。（長谷川委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 水産関連ゾーンとクルーズターミナルの駐車場連携や、歩行動線の改善、案内サインの充実など連携強化に努める。 <div data-bbox="1274 364 2407 425" style="background-color: #800040; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 施策⑦-1：水産関連ゾーンと交流拠点の連携強化 </div> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 歩行空間の確保やサイクリング環境の向上を図るとともに、交通事業者や市、地元が連携した地域運営交通などの活用により、回遊性の向上を目指す。 ✓ 水上交通については、今後の研究課題としたい。 <div data-bbox="1274 671 2407 732" style="background-color: #800040; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 施策⑥-3：クルーズターミナル周辺～金石大野地区の回遊性向上 </div> <ul style="list-style-type: none"> ✓ クルーズターミナル周辺について、民間事業者とともに人々が集い、交流ができる質の高い賑わい空間の創出を図る。 <div data-bbox="1274 1028 2407 1089" style="background-color: #800040; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 施策⑥-1：民間事業者と連携した質の高い賑わい空間の創出 </div> <ul style="list-style-type: none"> ✓ SNSの活用については、「みなとオアシス金沢港運営協議会」を中心に、積極的なPR広報ができるよう支援していく。

第1回委員会 各委員の主な意見と対応

土地利用に対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 旧金沢港湾事務所、金沢港運跡地周辺の利活用を検討する必要がある。 (下沢委員、堀岡委員、新保委員) ✓ 臨港地区だけではなく、周辺部も考慮した利用計画の検討が必要がある。(高山委員) ✓ 金石大野の広大な埋立用地や利便性の悪いアクセス道路について検討する必要がある。 (下沢委員、新保委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ クルーズターミナル周辺を賑わいゾーンとして位置づけるとともに、今後の開発動向や立地企業の意向なども踏まえ、土地利用や規制のあり方について検討を行う。 ✓ 臨港地区周辺部との整合も図りながら将来ビジョンを策定する。 施策⑥-2：クルーズターミナル周辺の土地利用や規制のあり方を検討 ✓ 県民が憩い、集えるレクリエーションの場や、マリンレジャーなどが楽しめる空間、新たなエネルギーに対する要請に応じて活用する用地、道路ネットワークの強化など、地域住民と連携し、検討を進める。 施策⑧-2：金石大野埋立用地での新たな憩いの空間の創出 施策⑧-3：金石海岸での海岸レクリエーションゾーンの形成 施策⑩-1：次世代エネルギー受入・供給拠点の形成促進 施策⑩-2：再生可能エネルギー生産拠点の形成促進 施策⑩-3：新たなエネルギー拠点への道路ネットワークの強化
景観に対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海から港に入ってくる状況が、本来の金沢港の一番のポイントであると考えている。(坂本委員) ✓ 大野、金石、五郎島の周辺背景を手入れし、美しい形にすることが基本。加賀五彩を差し色、アクセントカラー等として活用できないか。(坂本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金沢港の景観形成に向けた基準づくりを金沢市と連携し取り組んでいく。 施策⑨-1：臨海部における景観形成ルールの策定

第1回委員会 各委員の主な意見と対応

環境（CNP等）に対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 次世代エネルギーのサプライチェーンの他にも様々なカーボンニュートラルを考えていく必要がある。（池本委員） ✓ 完成したものが環境に優しいものになってほしい。（池本委員） ✓ 次世代エネルギーの受入計画を立案する際、今後の需要を確認する必要がある。（神崎委員） ✓ LNGのバンカリング基地を検討してほしい。（村山委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 金石大野埋立用地の将来像として、一部をエネルギーゾーンとして位置づけるとともに、今後のエネルギー施策の動向も踏まえながら、様々な視点からカーボンニュートラルポートの形成を推進する。 <div style="background-color: #800040; color: white; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 施策⑩-1：次世代エネルギー受入・供給拠点の形成促進 施策⑩-2：再生可能エネルギー生産拠点の形成促進 施策⑪-1：荷役機械の電動化、陸上電力供給施設の充実 等 </p> </div>

その他意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 港を拡張すると維持浚渫がより必要となるので、維持浚渫に配慮した開発計画が必要である。（榎田委員） ✓ 外港への開発計画は、手取川からの土砂の流れが変化するため、周辺への影響を考慮する必要がある。（榎田委員） ✓ 水深、静穏度の確保など、航行安全がとれた計画づくりをお願いしたい。（福井委員） ✓ 金沢駅西振興協議会としても、金沢港の活性化について色々とお提案させていただきたいと考えている。（高桑委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後、港湾計画改訂の中で、より詳細に浚渫土砂の対応や、環境面の配慮、安全上の確認を行い、施設の配置計画などを行っていく。 ✓ 10月10日に頂いた知事への提言書も踏まえ、将来ビジョンを策定していくこととする。

第1章 金沢港将来ビジョンの目的と検討委員会の進め方

第2章 ニーズ調査

第3章 現状及びニーズ調査等を踏まえた課題

第4章 目指すべき将来像と重点戦略及び施策

第5章 空間利用計画（ゾーニング）

（参考1） 第1回委員会 各委員の主な意見と対応

（参考2） ニーズ調査結果

ニーズ調査

<企業・関係団体へのヒアリング等調査>

ヒアリング先：金沢港を利用している荷主企業（20社）

金沢港の利用が今後期待できる荷主企業（11社）

船会社（8社）、荷役会社（1社）、エネルギー関連企業（2社）

地元まちづくり団体、経済団体、関係協議会などを対象

<県民アンケート調査>

調査時期：令和5年5月30日～7月2日

調査方法：WEBアンケート、現地アンケート

調査対象：石川県LINE登録者、県政モニター、金沢港内の来訪者、地元町会、地元高校等

回収数：3,587件（男性52%、女性47%、不明1%）

<クルーズ船乗船客アンケート調査>

調査時期：令和5年9月13日～10月4日

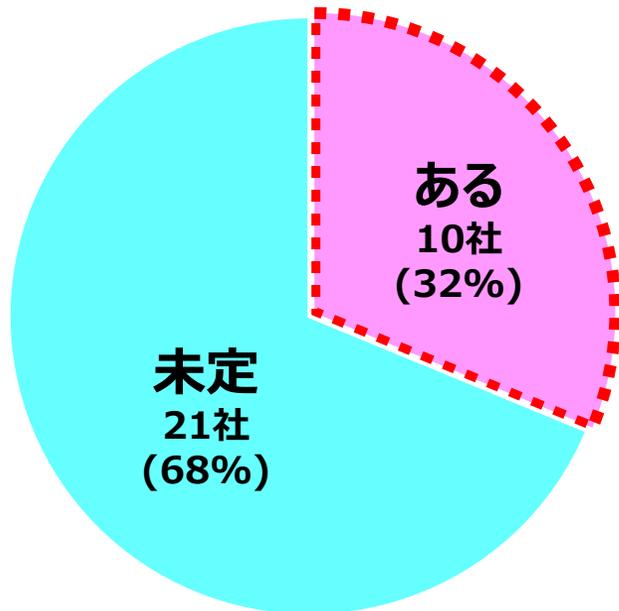
調査方法：現地アンケート

調査対象：クルーズ船乗船客

回収数：203件

Q.将来的に金沢港の
新規利用・拡大の可能性の有無について

「新規利用や利用拡大の可能性はある」と約3割が回答。



- ・ コンテナトレーラーとセメント搬送車の動線が輻輳しており、危険な状態なので、改善してほしい。
- ・ 他貨物船と希望時間が重なった時の調整が困難。同時に荷揚げできる体制を整えてほしい。
- ・ 外貿貨物を大浜ふ頭へ集約することが望ましいのではないかと。
- ・ 東南アジアや台湾、北米、欧州向けの直行便を開設してほしい。
既存航路を増便してほしい。
- ・ 貨物搬入を柔軟に対応できるよう倉庫の不足に対応してほしい。

船会社からの課題・要望

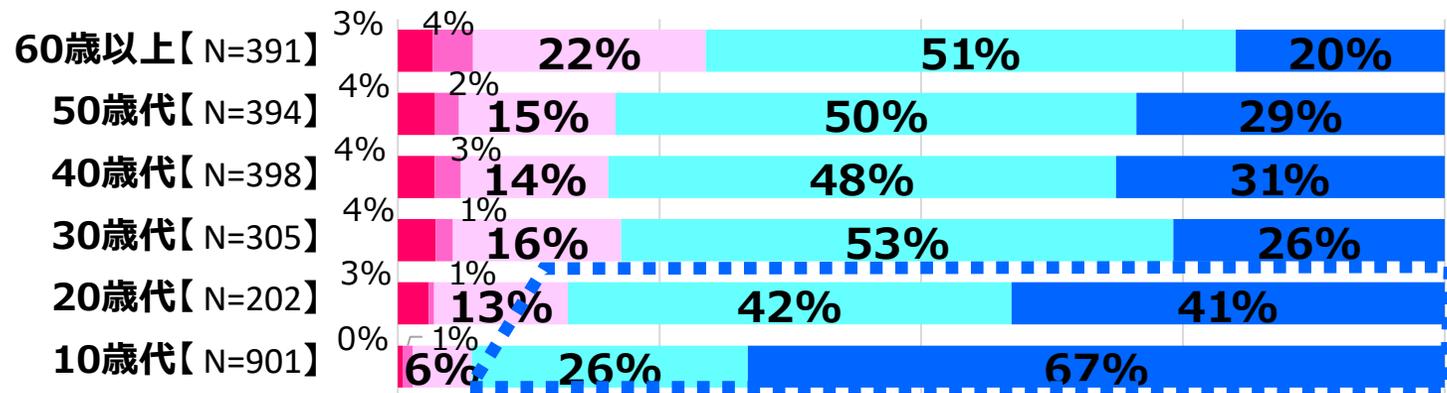
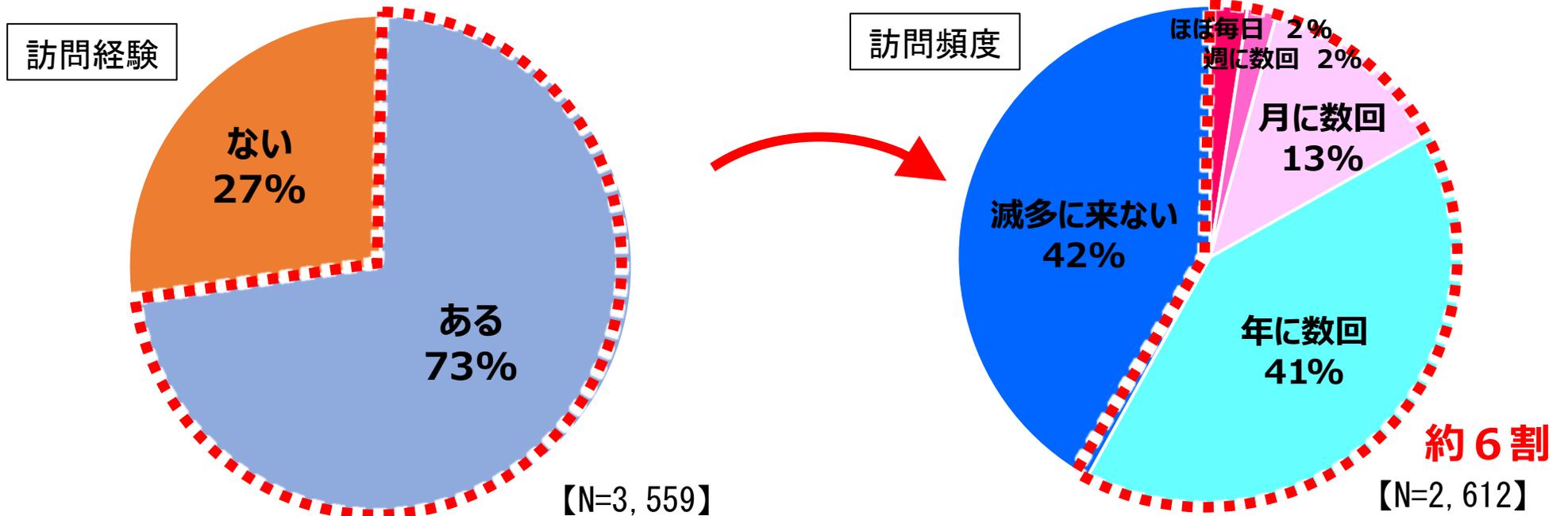
- ・ 今後、大型コンテナ船への変更の可能性があるため、大型コンテナ船が対応できる岸壁が必要。
- ・ 大浜と戸水の両方で荷積作業を行うことがあるため、貨物ヤードを集約すれば効率的になる。
- ・ 老朽化した港湾施設の補修（防舷材、係船柱）を計画的にお願いしたい。
- ・ 水深が浅くなっており、大きめのチャーター船を手配できない。
- ・ 搬出入する貨物の自動読取システムやターミナルと船会社の状況をデジタル化してほしい。

荷役会社からの課題・要望

- ・ 御供田ふ頭の岸壁水深が浅く、ヤードが狭く、いびつなため作業効率が悪い。
- ・ セメント船と鋼材船は同じ岸壁を使用しており、輻輳した場合は、荷役作業に支障が生じている。
- ・ 五郎島ふ頭において、海上保安庁巡視船の停泊による貨物船との錯綜しており、荷役作業に支障が生じている。
- ・ 岸壁形状により、ガントリークレーンの相互利用が出来ず、また、離着岸が難しい。
- ・ 作業員不足が原因で、荷主や船会社の期待に応じることが難しくなっている。

金沢港への訪問経験、訪問頻度

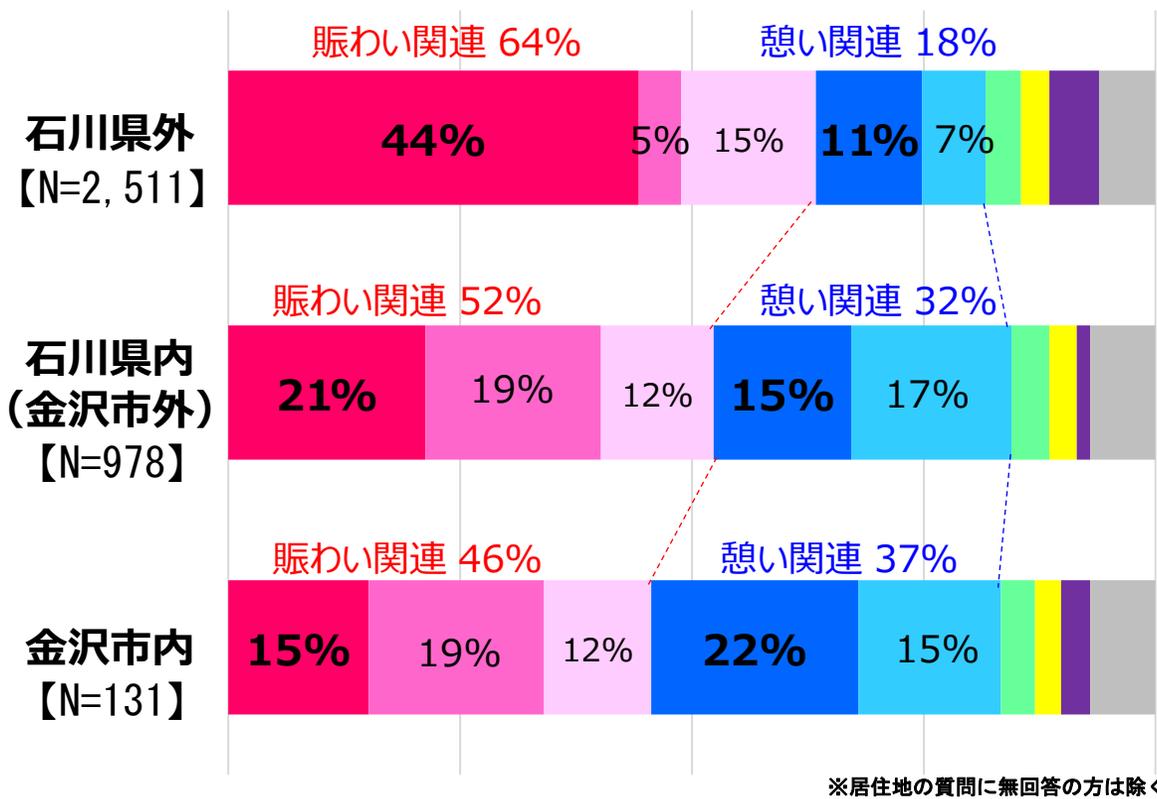
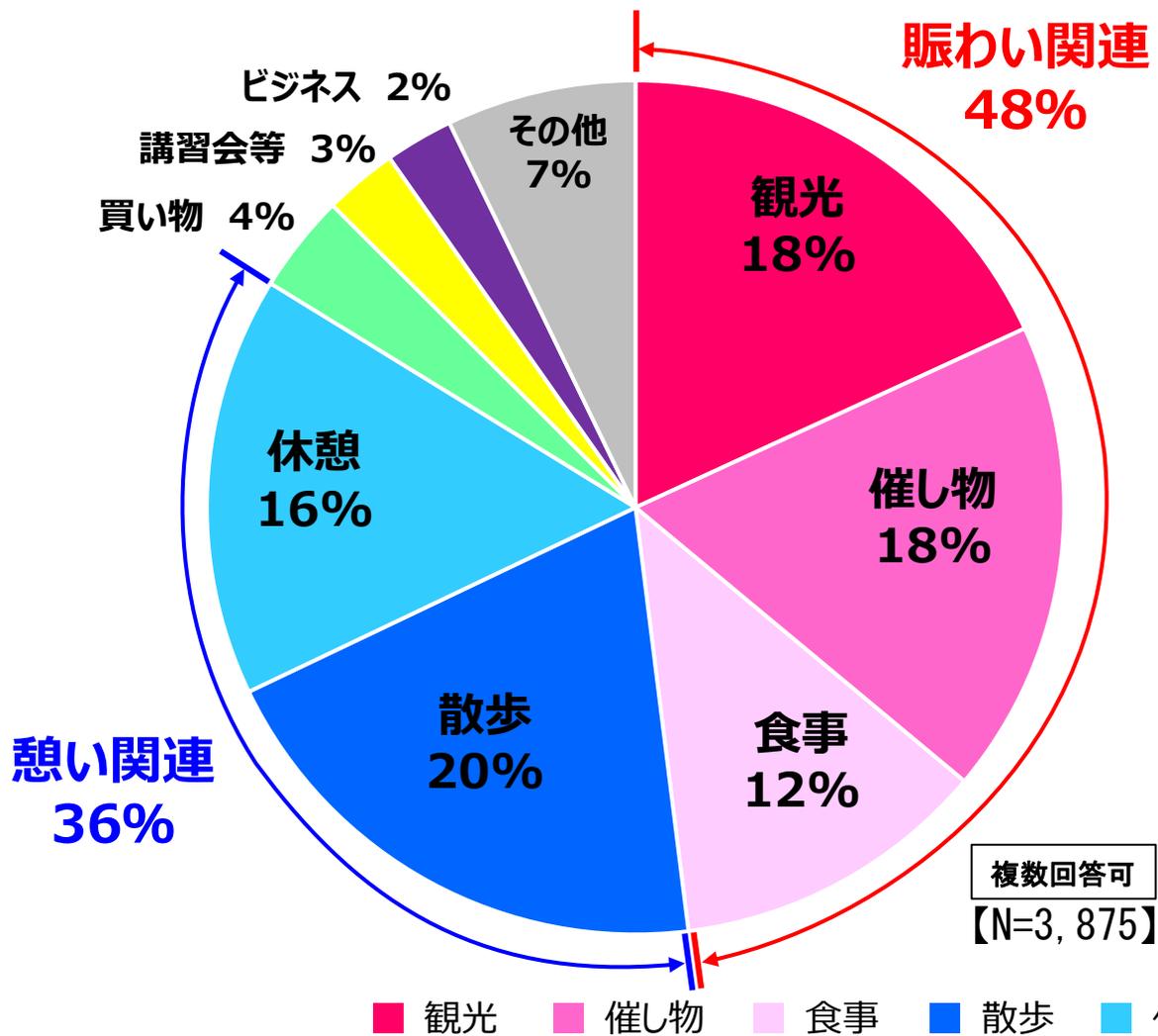
約7割が金沢港に来たことがあり、そのうち、約6割が年に数回以上来ている。
また、年齢階層別では若年層の訪問頻度が少ない傾向である。



若年層の訪問頻度が少ない

金沢港への主な訪問目的

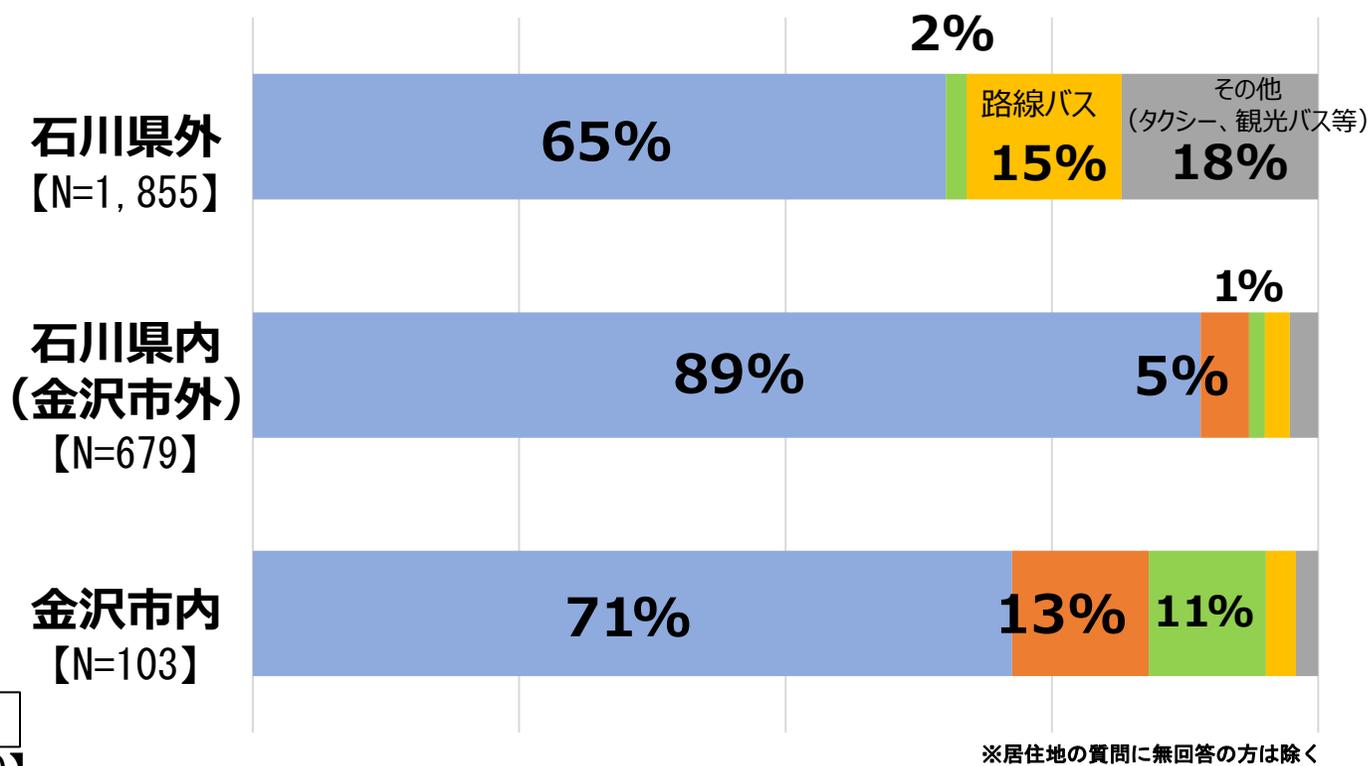
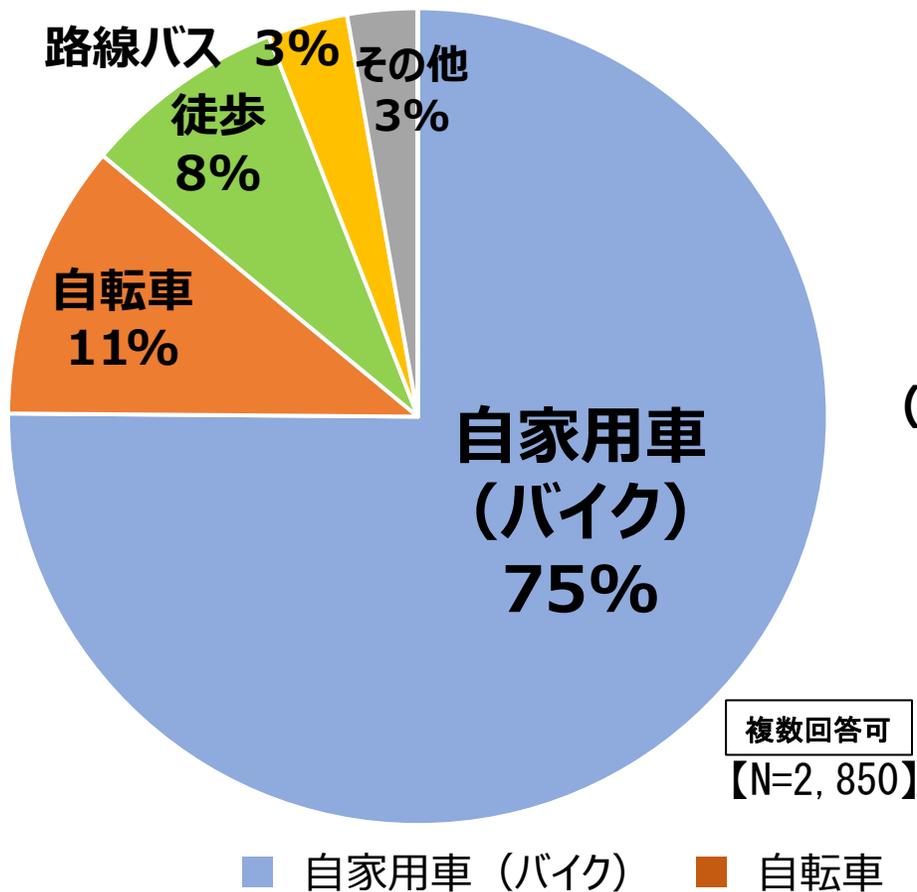
観光、催し物、食事といった目的が48%で、次いで散歩、休憩といった目的が36%である。居住地が金沢港に近いほど、散歩や休憩で訪れる割合が高く、遠いほど、観光、イベントで訪れる割合が高い。



金沢港までの主な移動手段

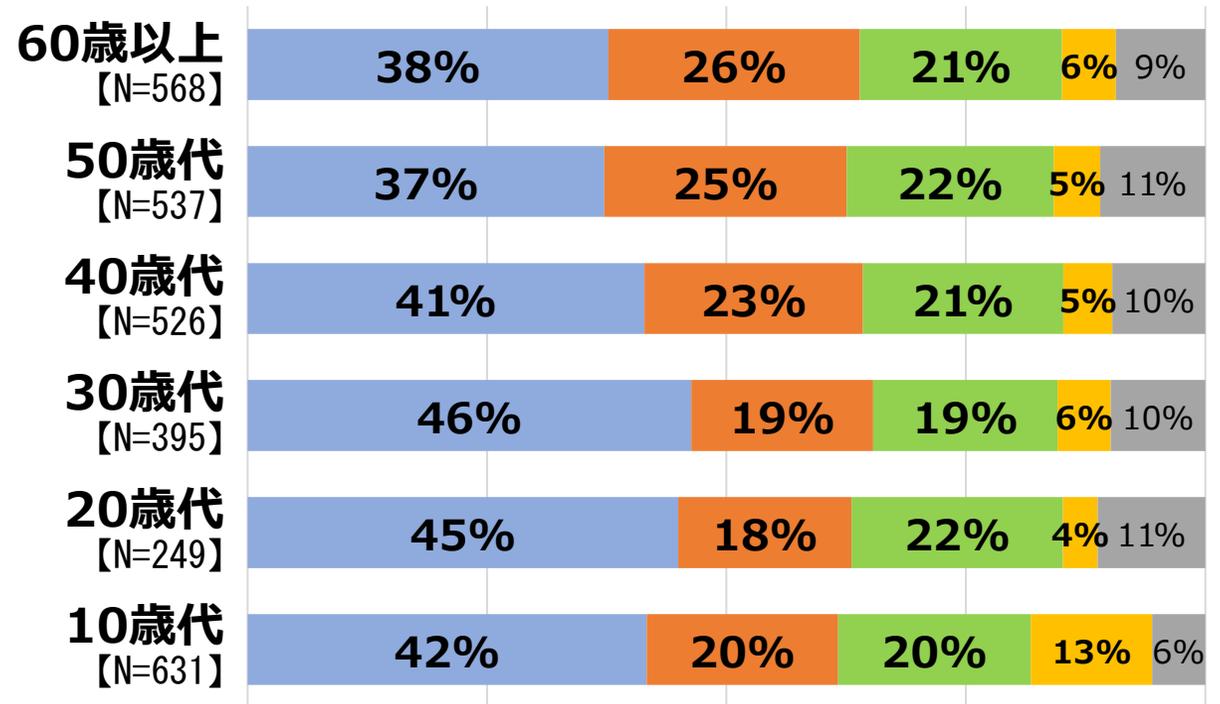
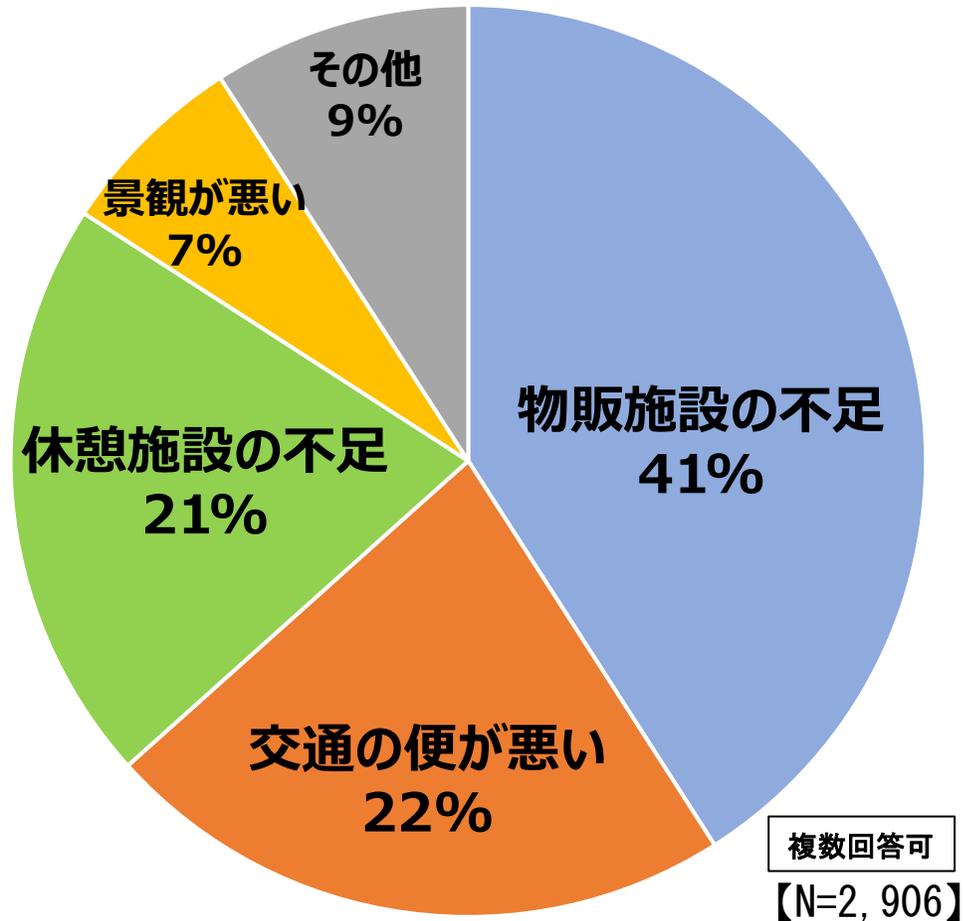
「**自家用車（バイク）**」が最も多く**75%**、次いで「**自転車**」が**11%**、「**徒歩**」が**8%**、「**路線バス**」が**3%**となった。

一方、県外からの来訪者の移動手段は、自家用車に次いで、**路線バスやその他の観光バス、タクシーの利用が多く見られた。**



金沢港の問題点

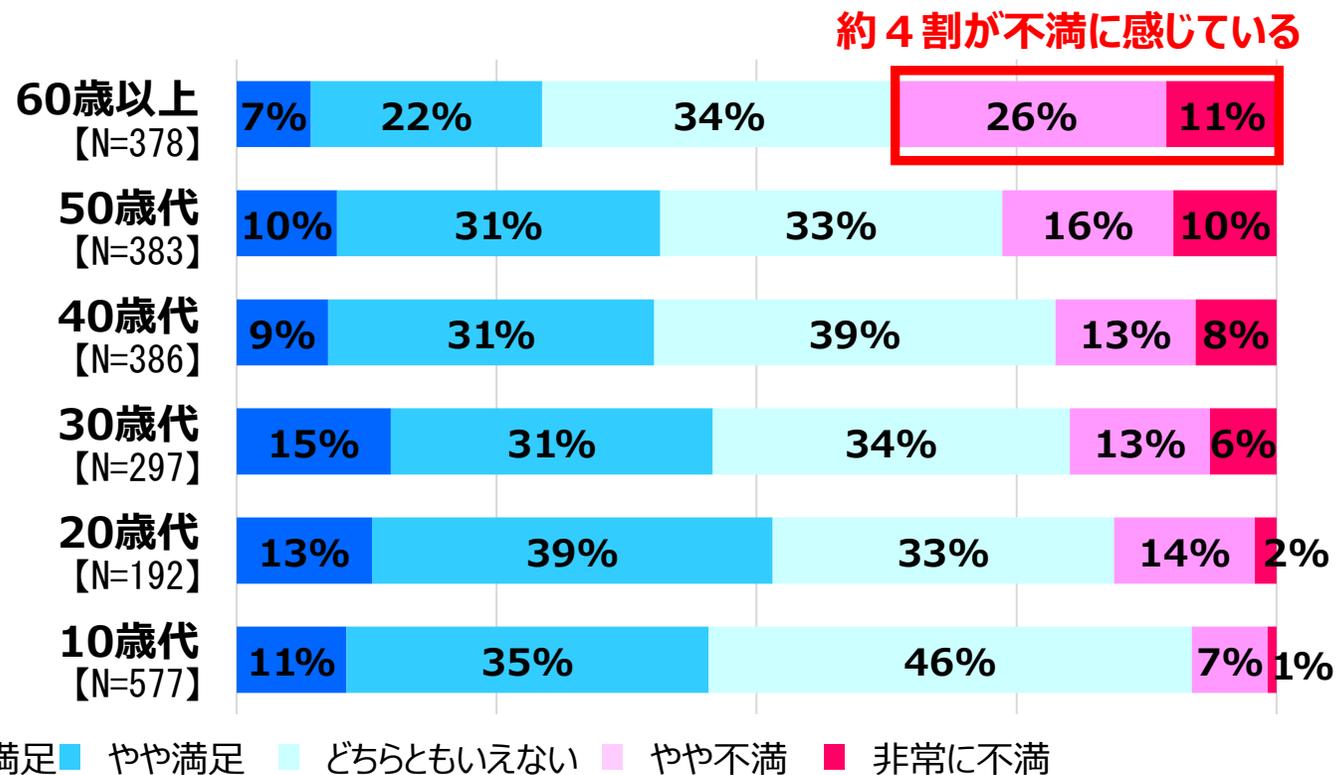
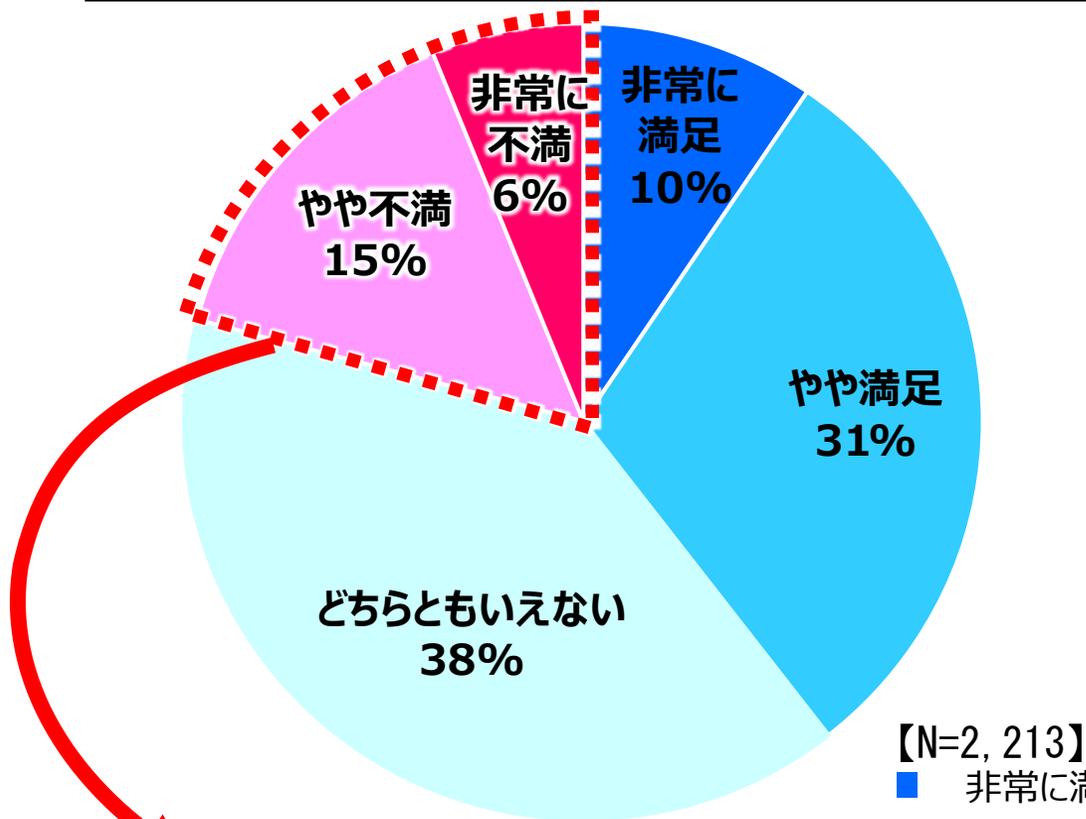
「物販施設の不足」が最も多く41%であった。次いで、「交通の便が悪い」、「休憩施設の不足」との回答が多く見られた。



■ 物販施設の不足 ■ 交通の便が悪い ■ 休憩施設の不足 ■ 景観が悪い ■ その他

金沢港への交通の利便性

約2割が不満に感じており、特に年齢層が高くなるにつれ、不満と感じる割合が高い。
 不満に感じている人は、「路線バス」、次いで、「駐車場の整備」、「アクセス道路の整備」を求める意見が多かった。

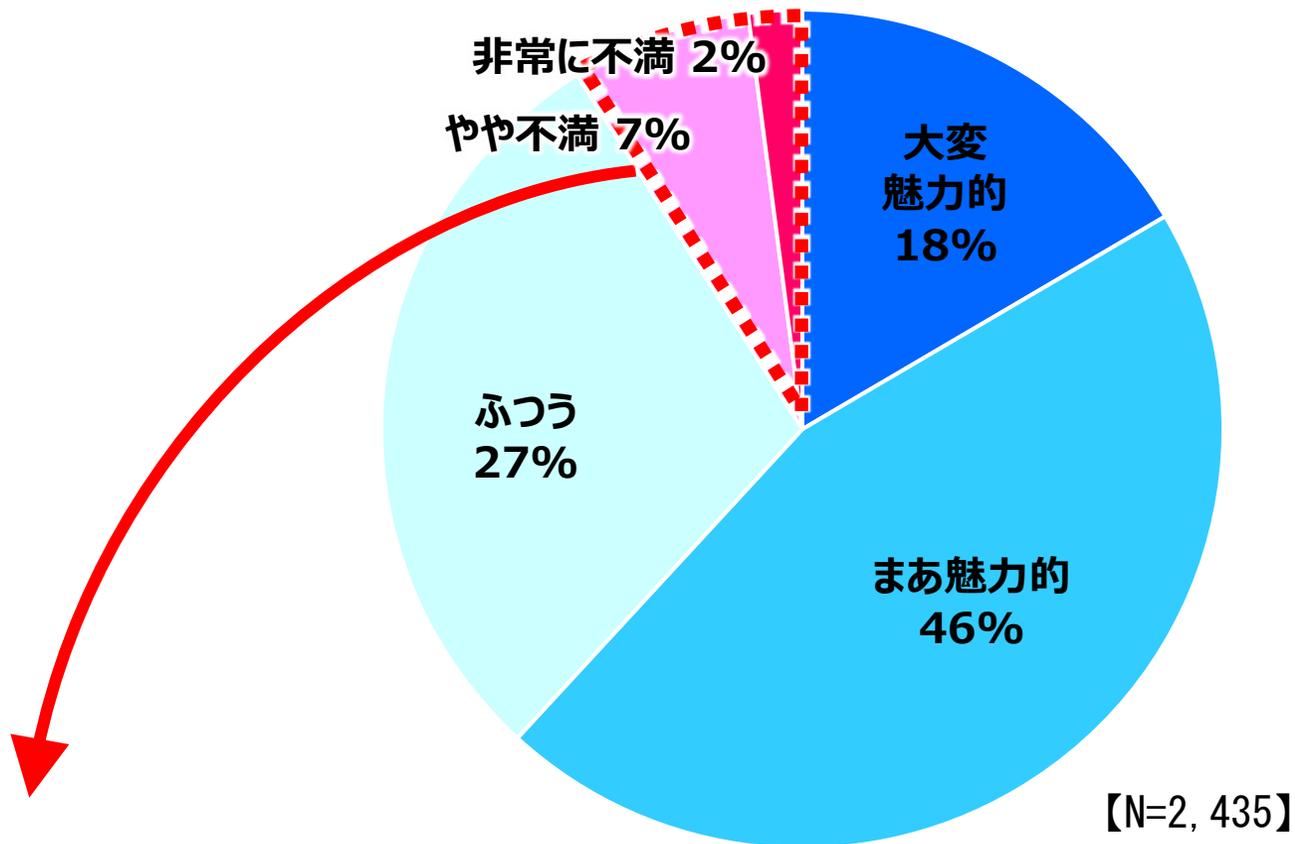


<交通に不満を感じた人が改善してほしいと回答した項目>



金沢港の景観

約 1 割が不満に感じている。不満に感じている人は、「視点場が少ない」、「色彩が不統一」、「建物の老朽化」、「自然が少ない」などの回答が多くみられた。



＜景観に不満を感じた人が改善してほしいと回答した項目＞



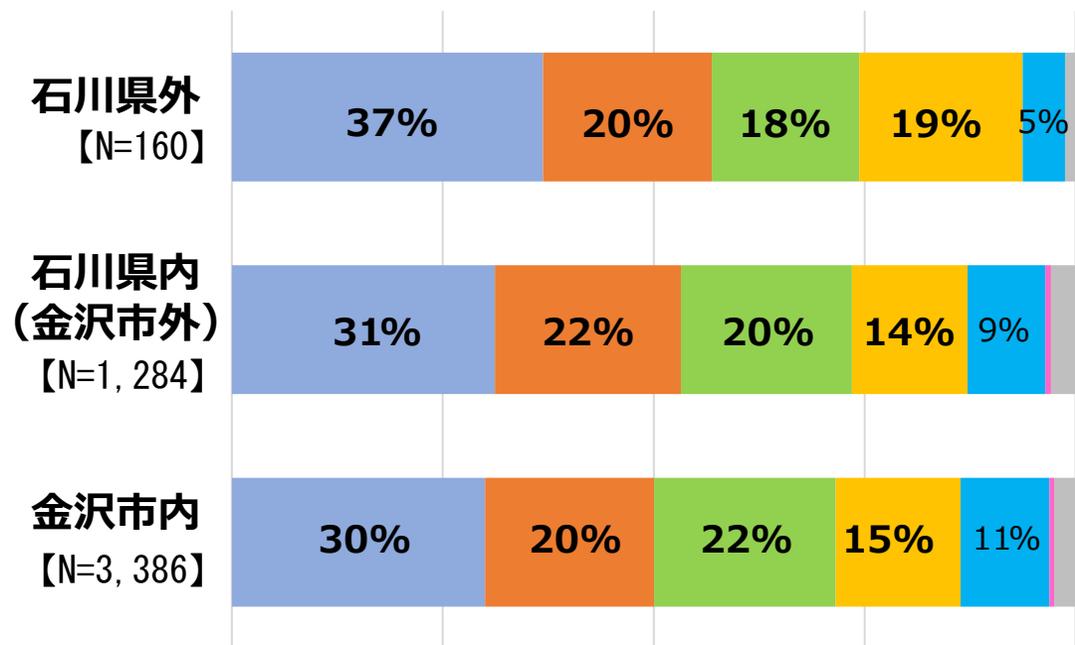
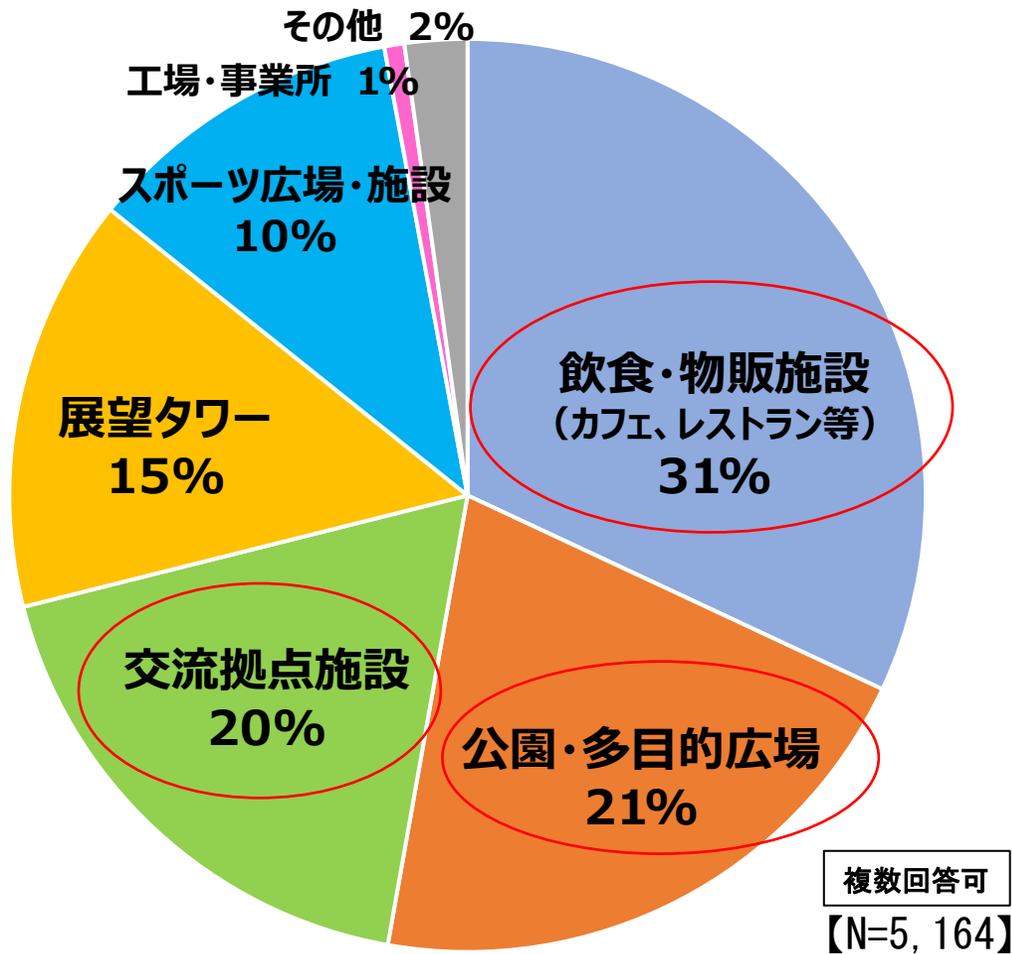
複数回答可

【N=418】

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

クルーズターミナル周辺に求める施設・空間

「飲食・物販施設」、「公園・多目的広場」、「交流拠点施設」等といった賑わい・憩いを求める回答が多くを占めた。

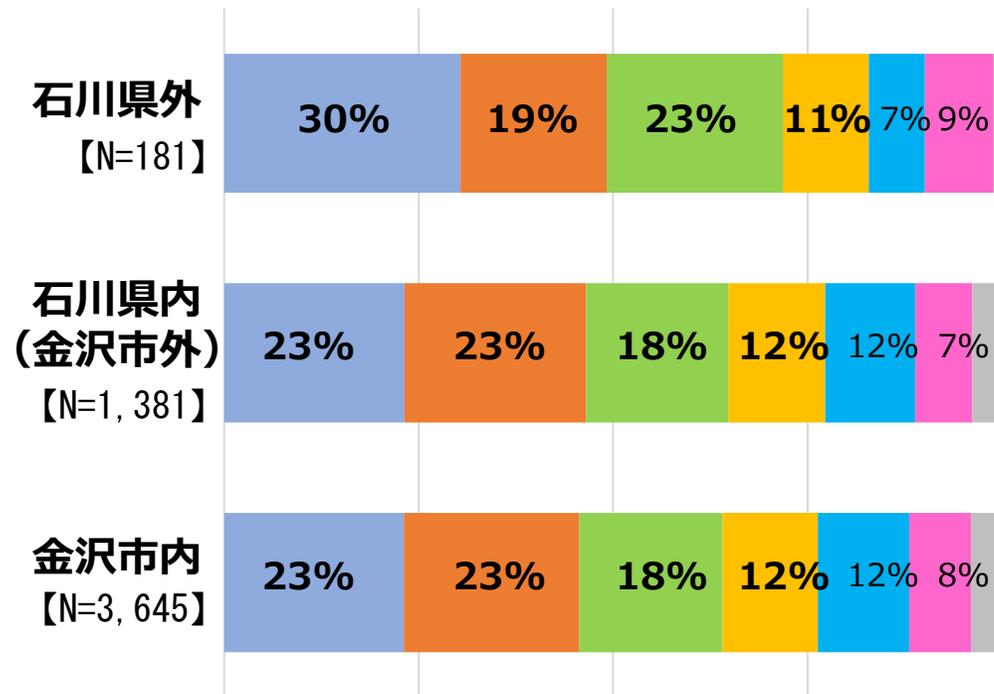
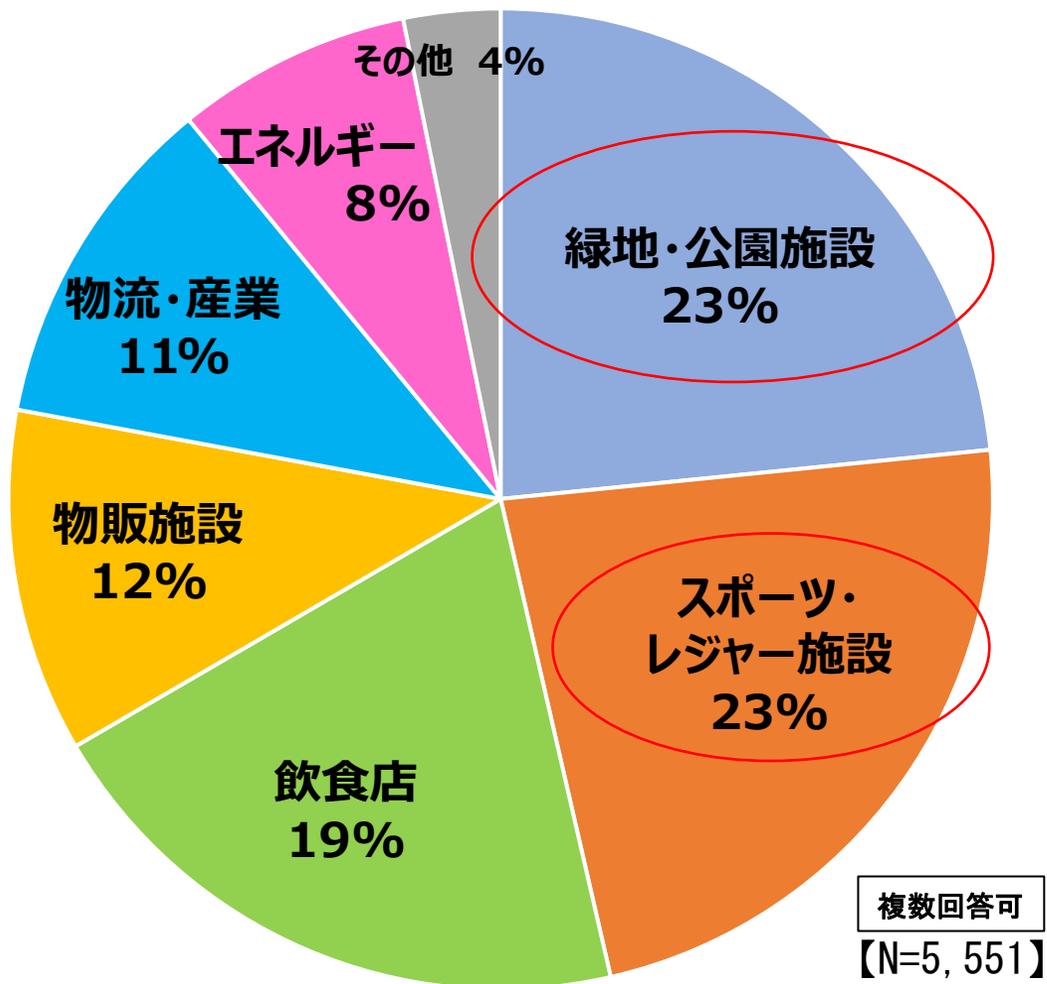


※居住地の質問に無回答の方は除く

■ 飲食・物販施設 (カフェ、レストラン等)
 ■ 公園・多目的広場
 ■ 交流拠点施設
 ■ 展望タワー
 ■ スポーツ広場・施設
 ■ 工場・事業所
 ■ その他

金石大野埋立用地の利用方法

「緑地・公園施設」、「スポーツ・レジャー施設」等の憩いの場を求める回答が多く、工業地域としてのニーズは低い。

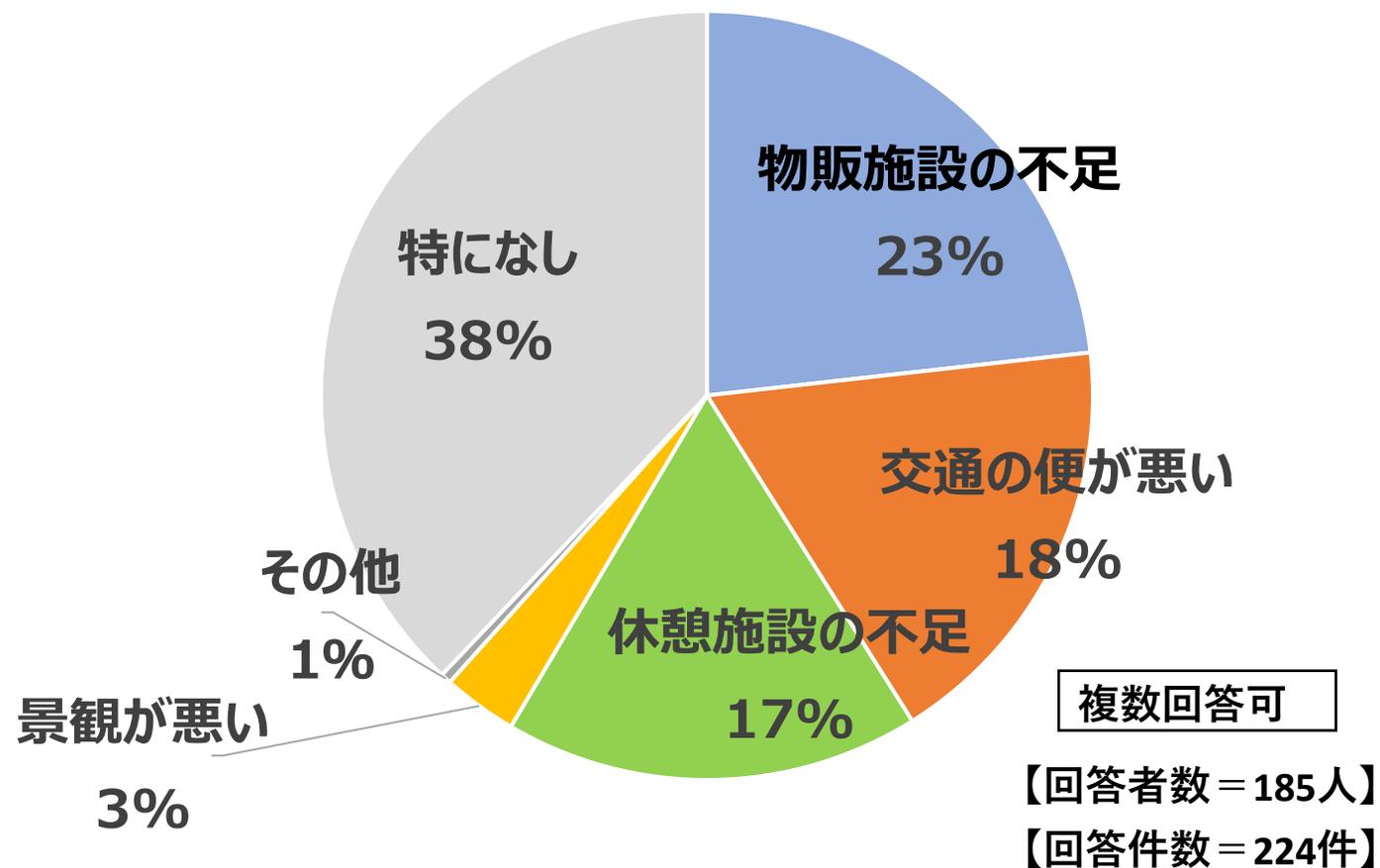


※居住地の質問に無回答の方は除く

金沢港の問題点

「物販施設の不足」が最も多く23%であった。

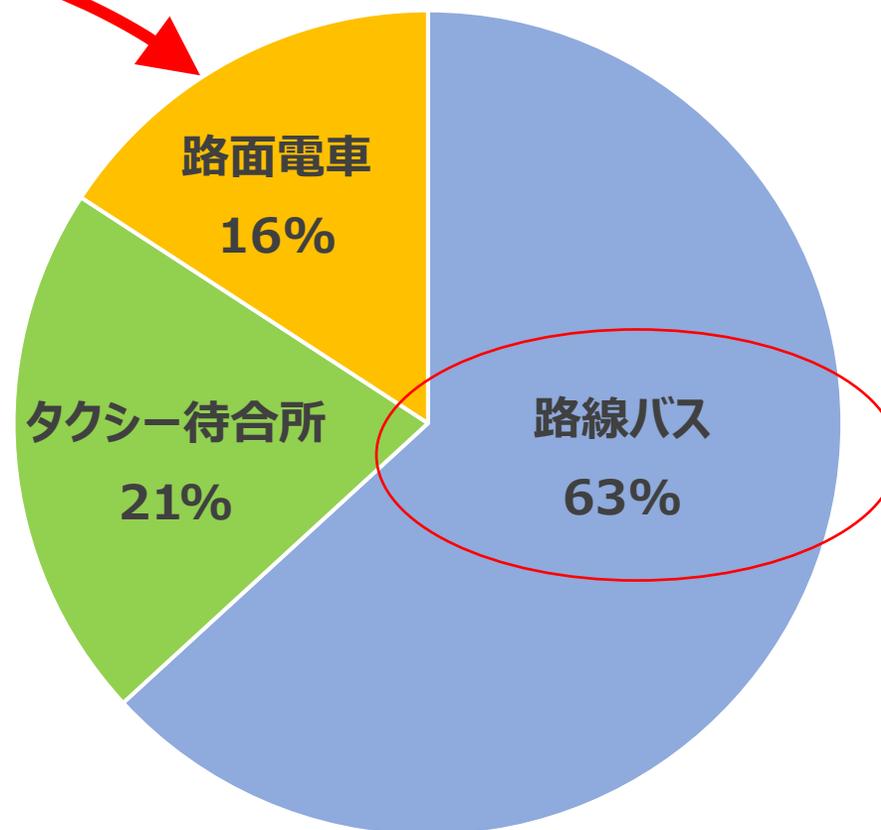
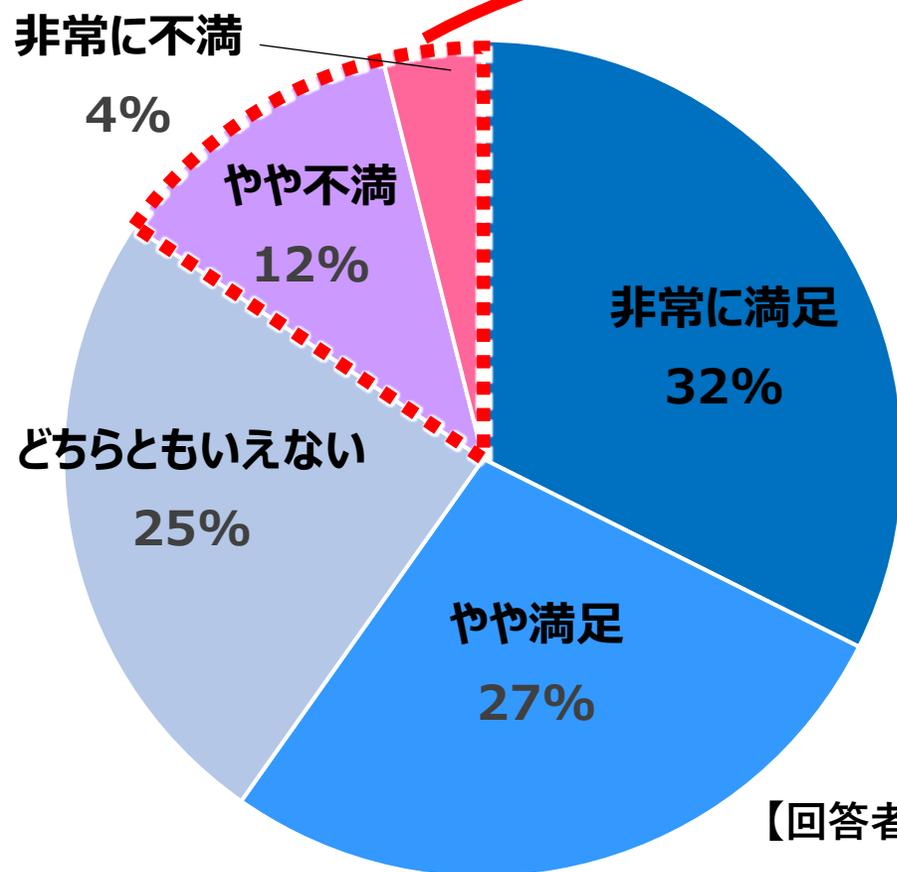
次いで、「交通の便が悪い（18%）」、「休憩施設の不足(17%)」との回答が多く見られた。



■ 物販施設の不足 ■ 交通の便が悪い ■ 休憩施設の不足 ■ 景観が悪い ■ その他

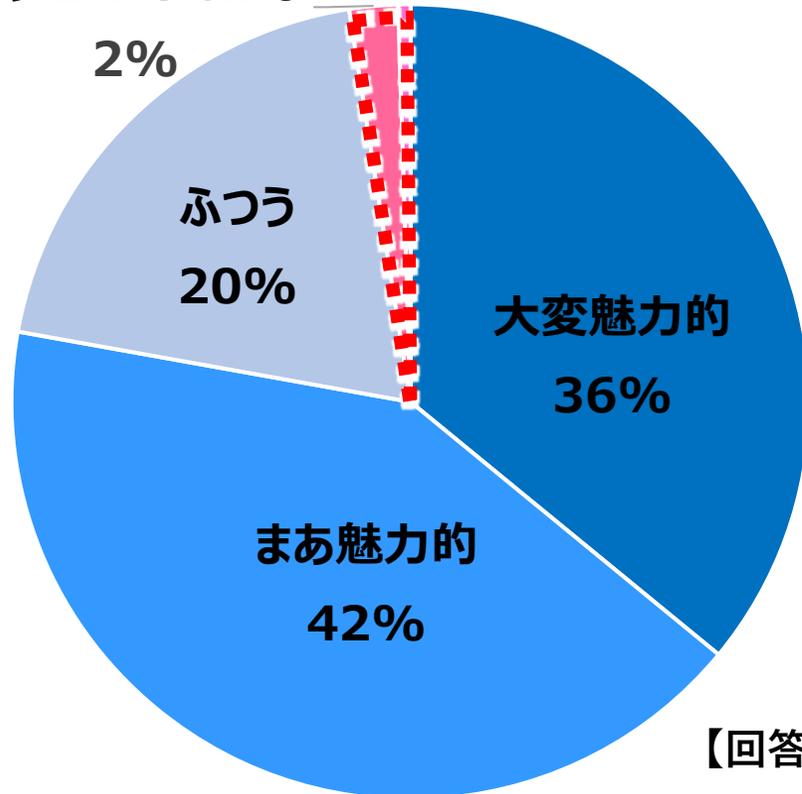
金沢港への交通の利便性

2割弱が不満に感じており、不満に感じている人は、「路線バス」、次いで、「タクシー待合所」の整備・改善を求める意見が多く見られた。

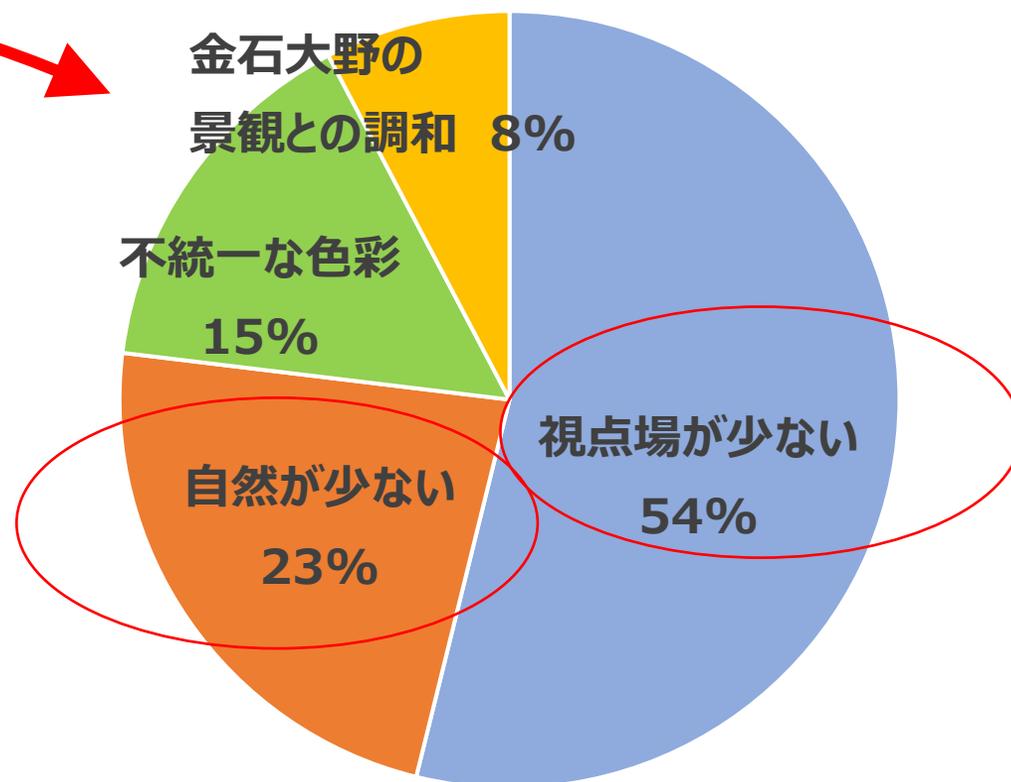


不満に感じている方はとても少ない。不満に感じている人は、「視点場が少ない」が最も多く、次いで「自然が少ない」との回答がみられた。

あまり魅力的ではない

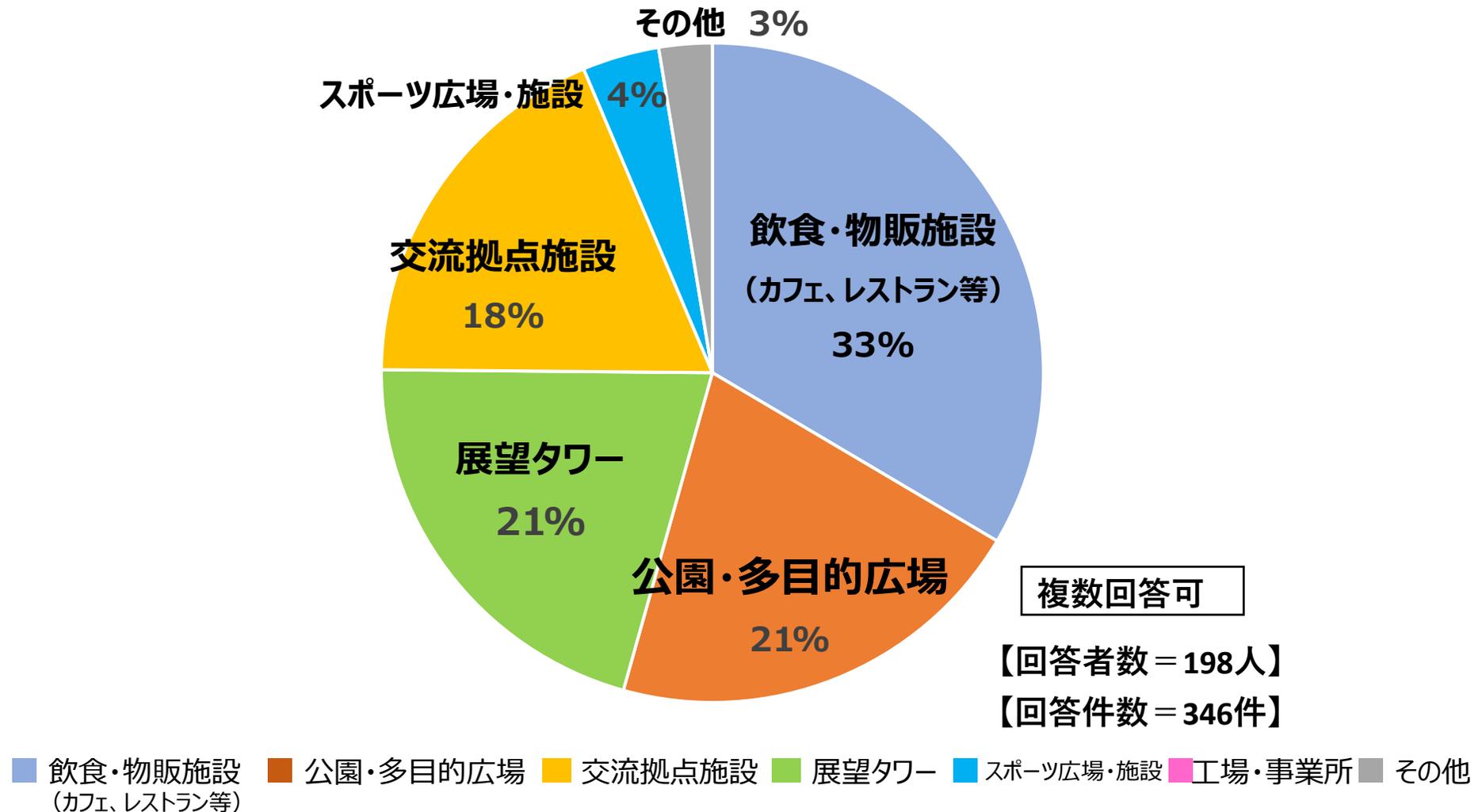


【回答者数 = 203人】

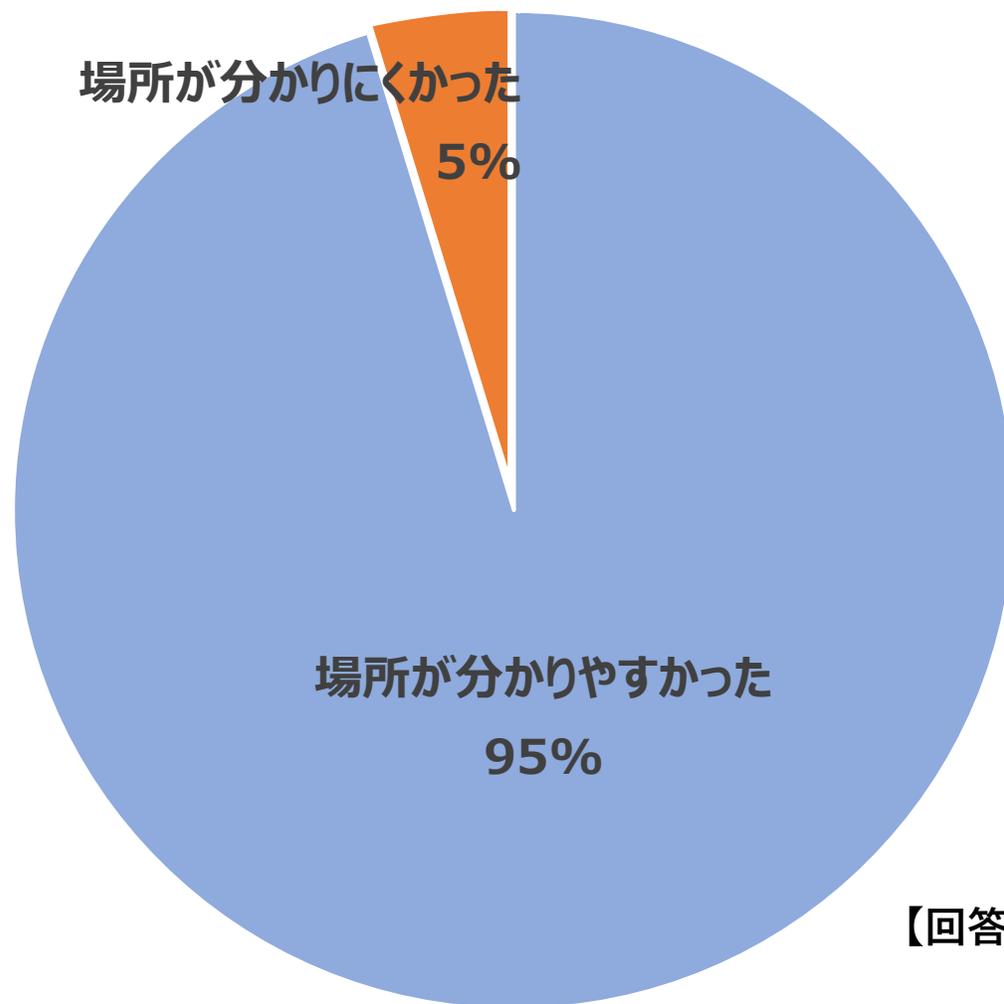


クルーズターミナル周辺に求める施設・空間

「飲食・物販施設」、「公園・多目的広場」、「展望タワー」、「交流拠点施設」等といった賑わい・憩いを求める回答が多くを占めた。



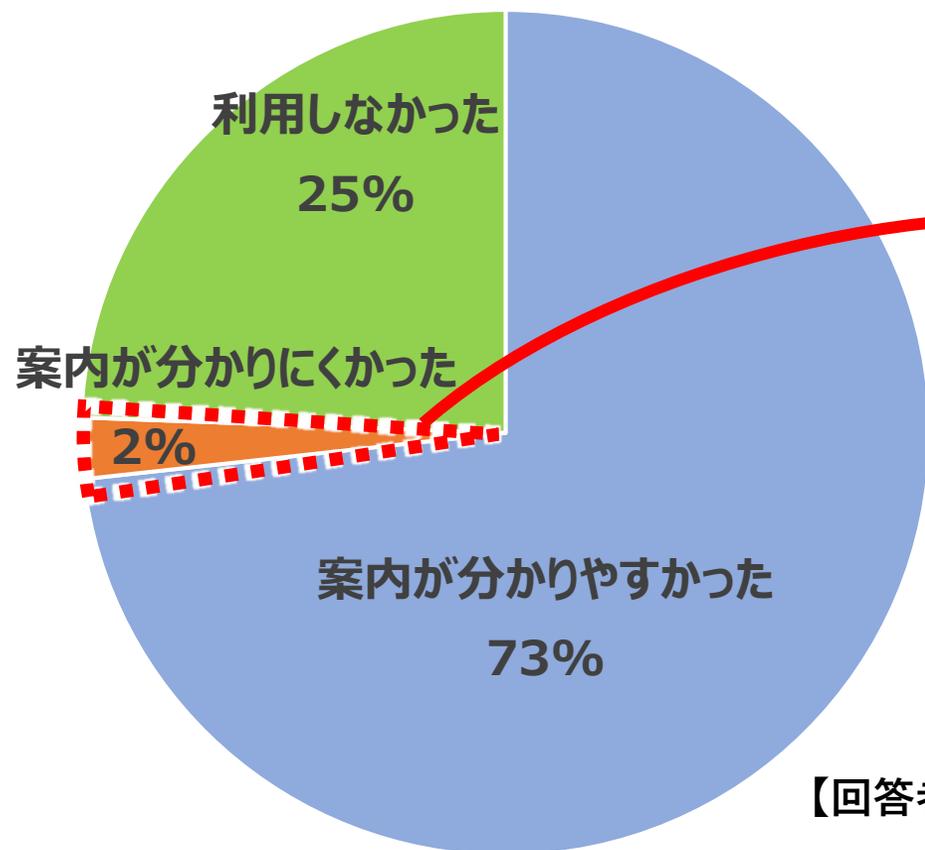
「場所が分かりやすかった」との回答が9割以上を占めている。



【回答者数 = 85人】

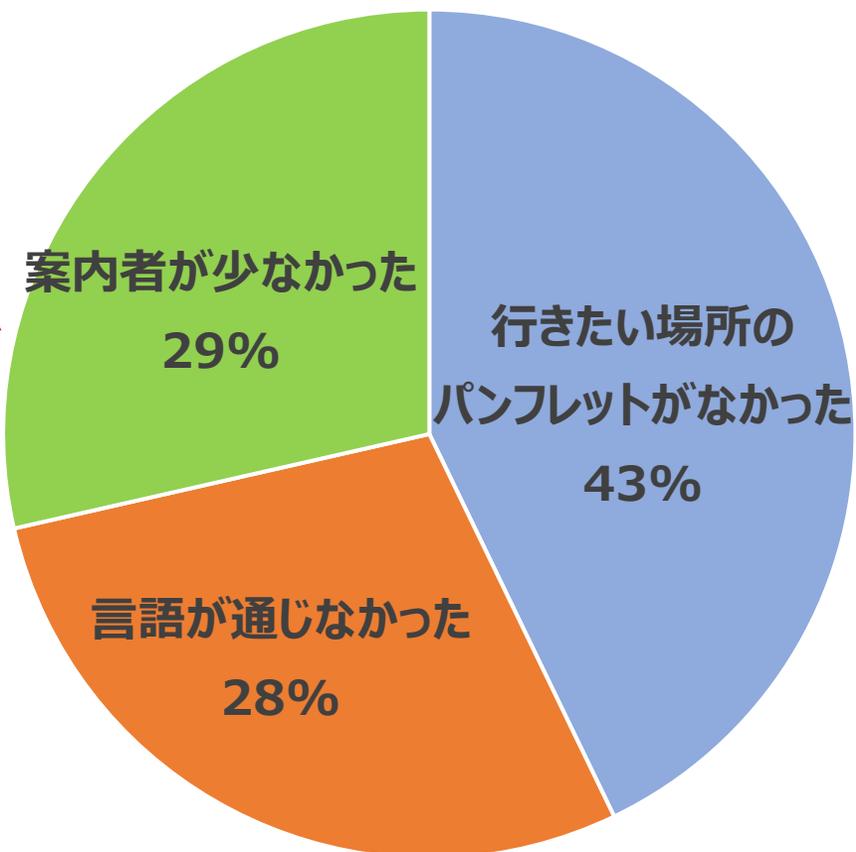
不満に感じている方はとても少ない。不満に感じている人は、「行きたい場所のパンフレットがなかった」が最も多く、次いで、「案内者が少なかった」との回答がみられた。

利用について



【回答者数 = 130人】

案内が分かりにくかった理由について



金沢港近隣の「北前船ゆかりの寺社」などのスポットをめぐるツアーへの参加意向

クルーズ船乗船客アンケート調査

「是非参加したい」、「少し興味がある」の回答が9割弱を占めている。

